

第5章 総括

第1節 調査のまとめ

本報告で掲載した、坂長第7遺跡1区・2区の調査成果について、以下、時代を追ってまとめる。

1. 古墳時代以前の様相

第3章第2節で概観したように、2区（谷部）の第1遺構面で検出された遺構群が中心となる。検出された遺構は掘立柱建物1棟（SB1）、溝状遺構18条（SD12～29）、土坑1基（SK1）、ピット3基（P1～3）である。

本調査において古相を示す遺物として縄文土器がある。早期の資料をはじめとし散見するが、磨滅が進行しており、二次的にもたらされたものとみられる。一方で晩期から弥生時代前期に比定される突帯文土器、及び突帯文系土器の出土が一定数認められた。本調査において該期に帰属する遺構は無いが、その出土量は目を引く。本遺跡の南東隣に位置する坂長第8遺跡においても、包含層から多数の出土がある。一方、北隣の長者原台地側では出土例がほとんどないのが対照的で、本遺跡近隣、とりわけ越敷山北西麓側に該期集落が存在する可能性が指摘できよう。

掘立柱建物SB1は、柱穴中より縄文土器のみ出土したため第1遺構面検出遺構に含めたが、土器は磨耗が目立ち二次的な混入の可能性が高く、帰属時期は不明である。ただ、SB1周辺、及び調査区西側には類似した規模・埋土を持つピットが検出され（P1～3）、類似する建物が調査区外にも存在する可能性はある。湿潤な谷部における占地は特有と考えられ、その在り方は注目される。

第1遺構面において検出した遺構で主体となるのは溝状遺構で、18条を検出した。そのいくつかには重複関係が認められ、出土土器相と合わせて勘案すると、埋没時期は以下の3時期に大別される。

- ①SD16～19：弥生時代中期前葉～中期中葉
- ②SD15：弥生時代後期中葉
- ③SD12・14・25・29：弥生時代終末～古墳時代前期初頭

遺存状態が不良で判断の難しい箇所もあるが、人為的な掘削が窺われるものは少ない。①ではSD17、③ではSD14が掘方の断面形等から人為的に設けられた可能性が高い。③のSD12、②のSD15といった比較的規模の大きい溝状遺構については、壁面の立ち上がりが不明瞭な箇所が有り判断が難しい。ただ、埋土中からは杭様の材等が出土しており、自然発生的な流路を改変し、水路として利用した可能性は考えられる。

溝状遺構のうち、SD12・14・15・17の埋土を採取し各種土壌分析を実施した。その結果、植物珪酸体分析では数量は多くないがイネが検出され、種実同定では水田雑草とされる抽水植物が目立つなど、総合的には溝状遺構周辺に水田が分布することを示唆するものとなった。畦畔等水田に関わる具体的な痕跡は確認されず詳細は不明だが、溝状遺構の多くは水田に関わるものと推察される。溝状遺構からは平鋤・又鋤の身や木庖丁などの木製農具が出土し、この所見を後押しするものとする。

溝状遺構からは先述の突帯文土器をはじめ、弥生時代前期から終末、古墳時代初頭に係る土器が一定数出土した。その他目を引くところでは、SD15から出土した木製堅櫛（W12）がある。堅櫛は頭部の一部が残存し、その形態は方形または長方形に復元される。頭部方形の堅櫛は鳥根県西川津遺跡、タテチョウ遺跡で出土しているが、本遺跡例の方がやや横長な印象を受ける。また、鋸歯文による加

飾はタテチョウ遺跡例に次ぐもので、こうしたタイプの分布域の広がりを示す一例となった。

近隣の調査では該期遺構の検出は散発的で、集落の在り方など詳細は不明であり、今後の調査成果に依るところが大きい。

続く古墳時代に帰属する遺物の出土は低調で、2区のⅢ層等で若干認められるに過ぎない。ただ、坂長第8遺跡では、中期の竪穴住居が3棟検出され、集落が展開することが判明している。

2. 古代の様相

1・2両区で遺構が確認され、1区では段状遺構1基（SS1）、2区では溝状遺構9条（SD3～11）、性格不明遺構3基（SX1～3）を検出した。

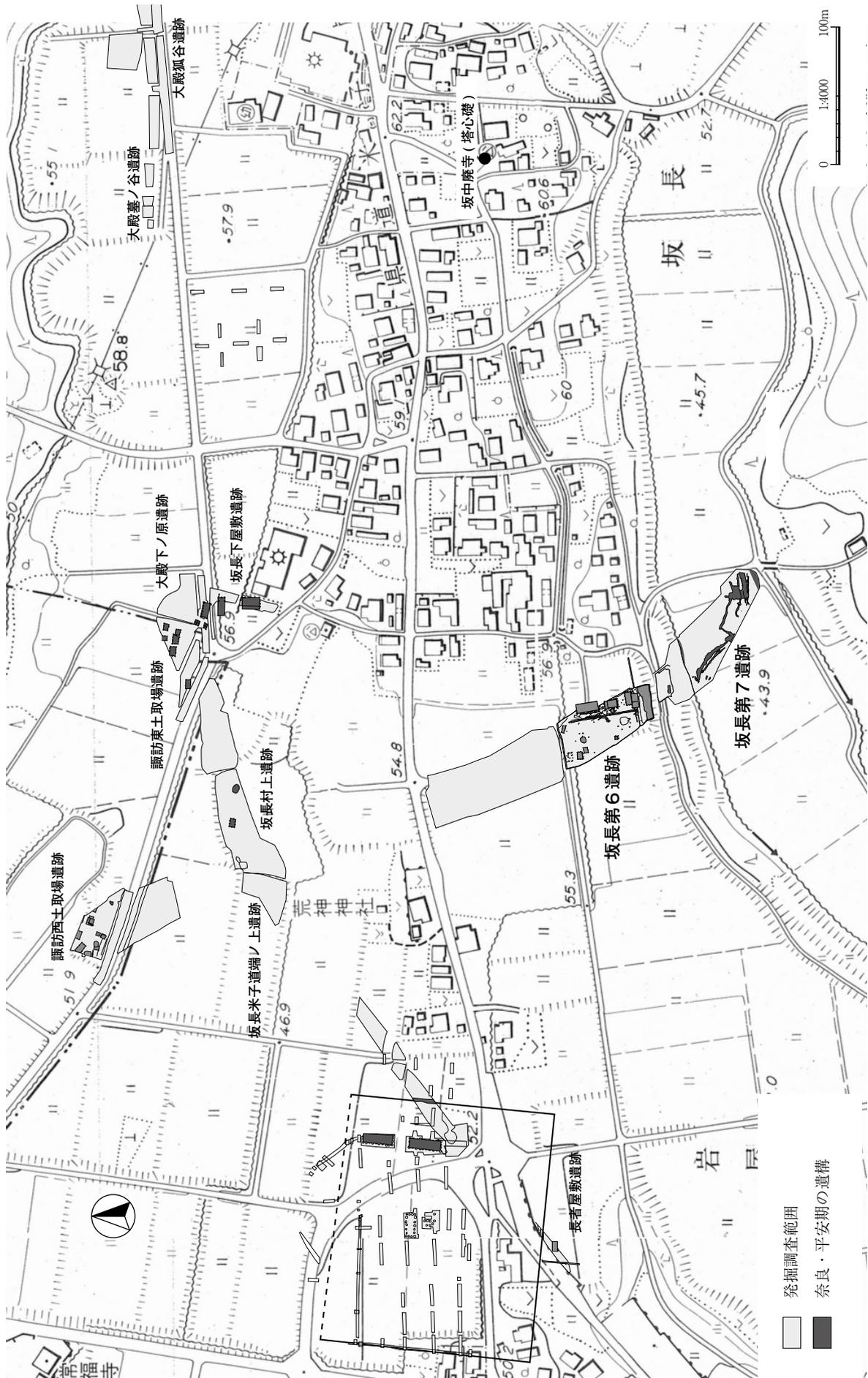
谷部の2区では、第1遺構面と同様に溝状遺構が主体となる（第2遺構面）。SD3のようにほぼ直角に屈曲するものや、SD4・8・10のように蛇行するがほぼ並行するものなど、互いの関連性が窺われるが、具体的には判然としない。これらの溝状遺構と重複する性格不明遺構SX1では、底面に細かな凹凸が認められた。凹凸は自然堆積では形成されないような状況を呈しており、人によって踏み込まれた水田跡である可能性も考慮したが、積極的な根拠は得られていない。

第2遺構面検出遺構の埋土における土壌分析は実施していないが、遺構検出面を形成するⅢ層については、各種土壌分析を行っている。試料の状態が不良で測定不能な例もあったが、植物珪酸体分析では少数ながらイネが検出されたほか、花粉分析ではイネ科が優先し、水田雑草が伴うという結果を得、ここでも水田の分布を示唆するものとなっている。ただ、調査においては第1遺構面と同様、水田に関わる具体的な痕跡は確認されなかった。

調査地南東隅で検出したSD11は、埋土中に土器をはじめとする非常に多数の遺物を包含し、該期の遺構中では特異な様相を呈する。土器の出土状況について、多くが小片で検出された点が特徴として挙げられる。第3章で記述したように、埋土の特徴や土器片の接合状況からは、激しい流水等により土器が二次的に大きく動くような環境では無かった可能性が高い。推測の域を出ないが、これらの土器は人為的に破碎された可能性を考える。こうした行為があったと仮定すれば、背景には祭祀など非日常的な事象が関わりとみられるが、具体化するのには現状では困難である。より詳細な出土状況の検討が必要となろう。土器は年代幅を持つものの、主体となるのは9世紀代と考えられる。土器については、次節でやや詳しく述べる。

その他、SD11出土遺物のうちで注目されるのは、粗い加工によりやや細くした先端部に焼痕を残す串状の木製品である（第69図）。第3章で触れたように、その出土は第2遺構面を被覆するⅡ層で最も多いが（36点）、SD11からは13点と遺構別出土数では最多となる。遺物そのものの特徴からは、火付け木といった実用的な用途が窺われる。だが一方で、東海、甲信越地方を中心とした事例ながら、中世前期の遺跡において出土した串状木製品について検討した畑大介氏は、形代など祭祀関連遺物との共伴関係や、祭祀に関係する遺構における出土例などから、串状木製品は祭祀に伴う可能性があり、古代から引き継がれたものと指摘する⁽¹⁾。このことを検討するには、個々の配置など、より詳細な出土状況の把握が必要となる。今後の調査における検討課題としたい。また、焼痕を有しない未使用品についても、本調査ではその有無を含め実態の把握に至っておらず、課題を残している。このように串状木製品は祭祀行為に関連する可能性を含め、注目すべき遺物と考える。

SD11と近似した遺物出土状況を示すのが、性格不明遺構SX3である。第3章で述べたように、2



第100図 周辺を含めた古代遺構の配置

区西壁際のトレンチをかすめると考えられ、調査区内において平面的に検出されていない。このような限られた検出範囲にも関わらず、SD11と同様に土器や木製遺物がまとまって出土した。木製品の中には人形と目される祭祀関連遺物が出土したほか、先述の串状木製品は8点とSD11に次ぐ出土量である。ただ、主体となる土器の帰属時期は8世紀後半頃と考えられ、SD11と比べやや古相を示している。SX3は調査区外西側に展開すると予想され、SD11との関連性を含め、注目される。

次に周辺遺跡を含めた様相について概観していきたい（第100図）。本遺跡南東隣の坂長第8遺跡からは、古代の遺物、遺構はほとんど検出されていないが、長者原台地側、北隣に位置する坂長第6遺跡では状況が一変し、古代の遺構が濃密に分布する。台地上（B区）では、大型の掘立柱建物、竪穴建物等が検出された。建物の配置や重複関係から遺構群は3時期に大別され、7世紀末～8世紀後半にかけて営まれたと考えられている。台地下の斜面部（A区）では鍛冶工房を含む鍛冶関連遺構群、排滓場を検出し、会見郡衙に伴う公的な鍛冶工房との評価がなされている。出土土器等から、その操業時期は8世紀前半に比定される。

A区が所在する斜面の下位に隣接するのが本調査における1区で、段状遺構1基（SS1）を検出した。上段のA区のような鉄関連遺物の多量出土は認められないが、遺構底面付近からは赤彩された土師器高坏がほぼ完形でみつかるとともに、土器が比較的良好な状況で出土した。その年代観は8世紀前半と坂長第6遺跡における遺構群と概ね合致し、互いの関連性は高いと考えられる。

一方で、2区を代表する遺構のSD11で出土した土器は、先述のとおり9世紀代を主体とする。坂長第6遺跡では該期資料の出土はほとんどなく、坂長第6・第7遺跡は至近に位置しながら遺物相に違いが認められる結果となった。ただ、幅員の狭い長大な調査地のため、時期差による遺構配置の変化を捉えられなかった可能性が高い。この成果から逆に、詳細は不明ながら8世紀後半から9世紀代にかけて、坂長第6遺跡で認められたような郡衙関連施設の配置転換が為されたことが窺われる。

3. 中世以降

本調査において、中世に帰属する遺構は確認されていない。2区ではⅡ層から中世の遺物が散発的に出土した。土師器の坏、皿は底部資料がほとんどで詳細は不明だが、器壁の厚さや胎土、底径に差異が認められ、時期差を持つ資料群と考えられる。貿易陶磁も極めて少数だが認められ、中世前期の白磁碗や龍泉窯青磁碗が小片ながら出土した。国産陶器では室町時代に帰属する備前産播鉢、瀬戸美濃産の天目茶碗がある。遺物が少数のため不明瞭ながら、Ⅱ層は概ね中世全般に亘る堆積と考えている。

Ⅱ層について、土壌試料を採取し各種土壌分析を実施した。植物珪酸体分析では数量は多くないがイネが検出されたほか、花粉・珪藻分析でも水田の存在を示唆する結果を得た。本層中において水田に関わる施設等の痕跡は認められなかったが、水田に伴う堆積と推察される。

近世以降の堆積と考えられるⅠ層の土壌分析でも、水田としての利用が続く結果が得られた。近世以降の水路と目されるSD1・2、昭和40年代に実施された圃場整備に至るまで使用された近現代用水路を検出し、掘削を繰り返しながら継続した様子が確認された。

【註】

(1) 畑 大介 2006「中世前期の村落祭祀と串状の木製品」『鎌倉時代の考古学』高志書院

第2節 SD11出土の土器について

先述したように、2区における古代の溝状遺構SD11からは、多数の土器が出土した。本節では、最も多数の出土をみた土師器坏を対象に、やや詳しく見ていきたい。ここでは、出土した土師器坏の形態的特徴、調整手法などからA～E類に大別した。以下、その内容について述べる（第101図）。

A類：第47図129～133。口縁部で外反する器形を持ち、底部調整はヘラケズリを用いる。器面の調整については多くが磨耗のため不明瞭だが、129は内外面、130は内面にミガキの痕跡が残る。暗文は認められない。

B類：第47図134～136。体部から口縁部まで直線的に外傾する器形を持つ。底部調整はA類と同様にヘラケズリである。136は底面を指で内外から挟み込み、押圧したとみられ、底部が下方へやや張り出し気味となる。

C類：第47図137～141。B類と器形的な特徴は同様だが、底部が回転ヘラ切りとなる。さらに、本類を底部調整の違いから細分する。137は回転ヘラ切り後、底部外面をハケ状工具によりナデ調整し、ヘラ切り痕跡を消す。これをC-1類とする。138～141はヘラ切り後ナデ調整を行うが、ヘラ切り痕跡を明瞭に残すもので、C-2類とする。底部切り離しの後は、B類の136と同様に底面を指により内外から押圧して整形する。それにより底部が下方へやや張り出すもの（137・139・140）、概ね平坦な底部をなすもの（138・141）がある。

D類：第47図142～164。外傾する体部が長く、開き気味となる。器面調整や底部切り離しの手法はC類と同様であるが、それぞれが粗雑となる。回転ナデが強く施されたことにより、器壁が波打ち、体部が反り気味となるものもみられる。器壁は若干薄手となるが、器形の歪みが大きい。底面はヘラ切り後、指による押圧及びナデが施され、C類と同様、底部が下方へ張り出し気味になるもの、平坦となるものが認められる。胎土はA～C類と明瞭に異なり粗く、手にした時の質感や重量感が希薄な印象を受ける。

E類：第47図167・168。底部切り離しが回転糸切りである。器形全体を窺える資料は167のみで底部から体部にかけて若干の丸みを持つが概ね直線的に外傾する。体部はD類より長くなり、器高が高くなる。底径もやや小さい。

以上、形態的特徴や調整の差異に注目し、SD11出土土師器坏を5つに分類した。しかし第3章で述べたように、土器の出土状況は、埋土の上層・下層とも各類が混在する様相を呈しており、現状では出土位置によって時期的な順序を付けることは困難である。ここでは、そうした資料的な制約は認めつつ、各類相互における形態・調整の特徴から序列の推定を行う。

A・B類は底部調整にヘラケズリを用いる一群で、古相を示すと考えられる。基本的な調整手法は共通するが、器形が異なる。C類は底部切り離しが回転ヘラ切りとなる。いわゆる回転台を使用した土師器でA・B類よりも後出的な特徴を持つ。器形はB類と類似し、関連性の強さが窺われる。これら器形・調整の特徴から整理すると、A類→B類→C類の変遷が想定される。また、C類の中では、ヘラ切り痕跡をナデにより消すC-1類、ナデ調整は行うもののヘラ切り痕を明瞭に残すC-2類があり、C-1類→C-2類の変化が予想される。

D類は出土土師器坏のうち最多数を占め、全体の約6割に上る。調整は粗雑ながら基本的にC-2類と同様である。本類は調整手法からみれば、C群に後出すると予測されるが、器形や胎土がA～C類とは異なり、やや隔絶を感じさせる。法量は口径11.6～14.6cm、底径7.0～10.3cm、器高2.75～3.5cm

と幅が認められる。口径と底径は各々比例関係にあり、口径が小さくなれば底径も小さくなる傾向にある。器高は、口径・底径の減少に伴い増加傾向が窺えなくはないが、現状では明瞭でない。

器面の赤彩についてであるが、A～C類は基本的に内外面赤彩されている（141の内面は磨耗のため不明）のに対し、磨耗で不明遑な資料も多いが、D類には赤彩されるもの、されないものが混在する。また、塗布される赤色顔料自体も色調が異なり、A～C類の顔料と比較してやや褐色がかり、赤みも弱くなる。顔料の塗布も薄く、ハケ塗り様の痕跡が残るものもみられる。

一方で165や166のように、器形はD類の範疇だが器壁が薄く、調整が比較的丁寧な資料がみられる。また、169・170の高台付坏、171～175の皿は胎土や調整手法の類似から、D類とセット関係にあると考えられる。各々の詳細については、今後の資料蓄積により改めて検討が必要である。

底部切り離しが回転糸切りのE類は、2点と少数の出土である。胎土はD類に近似し、D類に後続すると思われる。ただ、167の法量はD類の諸資料と比較すると、底径・器高の差異がやや目立つ。D類からE類への器形的変化が漸移的とは限らないが、やや隔絶した印象を受ける。包含層（Ⅱ層）出土であるが、底部糸切りの土師器坏262（第59図）の底径は復元で7.7cm、器高は3.6cmとD類に近く、D類・167間に認められる間隙を埋める資料となる可能性がある。

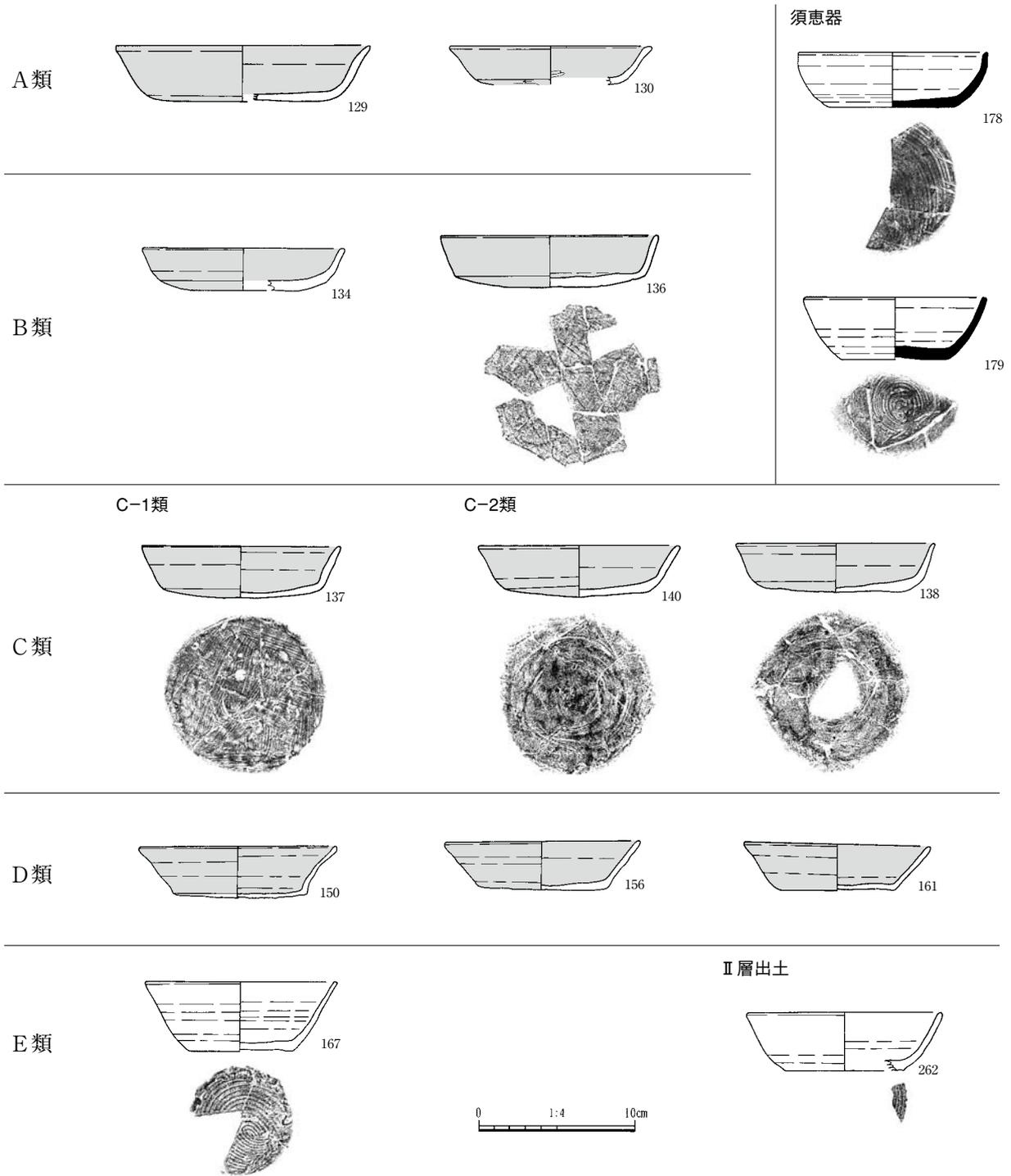
以上、各類の関連性や序列について、形態的特徴や調整手法から私見を述べた。しかし、特にC類・D類・E類における互いの関連、及び変遷の詳細について明解にするには、本調査で得られた成果では不足している。他遺跡における事例と併せ考える必要があるが、本報告では筆者の力不足のため検討に至らなかった。今後の課題としたい。

最後に、SD11出土土師器坏の時期について、従前の研究成果を参考に推定し結びとする。まず、少数出土している須恵器坏について触れておきたい。器形全体が窺える第48図178・179が対象となる。いずれも底部切り離しは回転糸切りで、178は口縁部に括れを有するが、明瞭ではない。179は口縁部の括れが無く、焼成もやや軟質で178よりも後出すると判断される。先学の編年における年代観⁽¹⁾を参考にするならば、これらの資料は8世紀後半を中心とし、9世紀にかかる時期と考えられよう。これらに並行するとみられるのが本節におけるA・B類で、伯耆国庁編年⁽²⁾における第1段階に該当すると思われる。現状でSD11においては後出するタイプの須恵器坏は出土していない。一方でⅡ層等の包含層からは、9世紀代に位置づけられる資料（第59図276・277等）が一定数みられ、このような須恵器出土量の少なさは、SD11に特徴的な様相と考えられる。

底部切り離しが回転ヘラ切りのC・D類は、伯耆国庁編年においては第2段階に相当し、大雑把であるが9世紀代に比定されよう。出土量的にも最多数を占め、SD11において主体となる時期と考えられる。E類は伯耆国庁編年における第3段階に該当し、その年代観を参考にするならば10世紀前半となる。出土土師器坏のうちでは最新相を示し、SD11の埋没時期を示すと考えられる。

【註】

- (1) 角田徳幸 2003「第5章まとめ 第3節奈良・平安時代の施設群」『史跡出雲国府－1－』風土記の丘地内遺跡発掘調査報告書14 島根県教育委員会
 中森 祥 2005「伯耆における9・10世紀の様相－西伯耆を中心に－」『平安時代前期の土器様相－中国地方を中心に－』第4回山陰中世土器検討会資料集
- (2) 巽淳一郎 1979「Ⅲ－2 土器類」『伯耆国庁跡発掘調査概報（第5・6次）』倉吉市教育委員会



第101図 SD11出土土師器坏分類案

表16 土師器坏分類一覧

分類名	底部調整及び切り離し手法				器形等の特徴
	ヘラケズリ	回転ヘラ切り後ナデ		回転糸切り	
		ヘラ切り痕跡ナデ消し	ヘラ切り痕跡残す		
A類	○				口縁部で外反。
B類	○				体部から口縁部直線的に外傾。
C類	1		○		体部から口縁部直線的に外傾。
	2			○	体部から口縁部直線的に外傾。
D類			○		全体に調整粗雑。器形歪み気味の資料多い。
E類				○	体部から口縁部直線的に外傾。器高比較的高い。

表17 坂長第7遺跡出土土器・陶磁器観察表(1)

* 復元値 △ 残存値

遺物番号	挿図番号	遺構層位	種別器種	口径(cm) 底径(cm)	器高(cm)	特徴	胎土 焼成	色調	備考
1	11	SB1 P2埋土	縄文土器 浅鉢	—	△1.95	外面:磨耗のため調整不明 内面:磨耗のため調整不明	密 良好	灰黄褐色	
2	11	SB1 P1埋土	縄文土器 深鉢	—	△5.75	外面:条痕 内面:条痕	密 良好	黒褐色	
3	11	SB1 P1埋土	縄文土器 深鉢	—	△5.6	外面:条痕 磨耗のため調整不明瞭 内面:磨耗のため調整不明	密 良好	黒褐色	
4	11	SB1 P1埋土	縄文土器 深鉢	*23.9	△4.7	外面:ヘラ状工具による条痕 煤付着 内面:ヘラ状工具による条痕? 磨耗のため調整不明瞭	密 良好	灰黄褐色	
5	11	SB1 P1埋土	縄文土器 深鉢	—	△2.65	外面:磨耗のため調整不明 内面:磨耗のため調整不明	密 良好	灰黄褐色	
6	13	SD12 埋土	突帯文土器 深鉢	—	△3.95	外面:刻目突帯 突帯下工具による条痕 内面:磨耗のため調整不明	密 良好	灰オリブ色、灰色	
7	13	SD12 埋土	突帯文土器 深鉢	—	△2.4	外面:刻目突帯、ナデ 内面:ナデ	密 良好	外面:灰黄褐色、黒色 内面:灰黄褐色	
8	13	SD12 埋土	突帯文土器 深鉢	—	△2.3	外面:刻目突帯 磨耗のため調整不明 内面:磨耗のため調整不明	密 良好	灰黄色、灰色	
9	13	SD12 埋土	突帯文土器 深鉢	*16.1	△3.4	外面:刻目突帯 磨耗のため調整不明 内面:磨耗のため調整不明	密 良好	にぶい黄色、黄褐色 灰黄色	
10	13	SD12 埋土	突帯文土器 深鉢	—	△2.6	外面:刻目突帯 ナデ 内面:磨耗のため調整不明	密 良好	外面:暗灰黄色、黒褐色 内面:暗灰黄色	
11	13	SD12 埋土	突帯文土器 深鉢	—	△3.15	外面:刻目突帯 磨耗のため調整不明 内面:磨耗のため調整不明	密 良好	にぶい黄褐色	
12	13	SD12 埋土	突帯文土器 深鉢	—	△3.4	外面:無刻目突帯 突帯下工具による条痕 内面:磨耗のため調整不明	密 良好	外面:灰黄褐色 内面:黄褐色	
13	13	SD12 埋土	突帯文土器 深鉢	—	△3.0	外面:無刻目突帯 磨耗のため調整不明 内面:磨耗のため調整不明	密 良好	にぶい黄褐色	
14	13	SD12 埋土	突帯文土器 深鉢	—	△3.4	外面:無刻目突帯 突帯下工具による条痕 内面:磨耗のため調整不明	密 良好	にぶい黄褐色	
15	13	SD12 埋土	突帯文土器 深鉢	—	△4.35	外面:無刻目突帯 突帯下工具による条痕 内面:磨耗のため調整不明	密 良好	灰黄褐色、褐灰色	
16	13	SD12 埋土	突帯文土器 深鉢	—	△4.4	外面:無刻目突帯 突帯下工具による条痕 内面:磨耗のため調整不明	密 良好	外面:灰黄色、灰色、浅黄色 内面:灰黄色	
17	13	SD12 埋土	突帯文土器 深鉢	—	△3.3	外面:無刻目突帯 磨耗のため調整不明 内面:磨耗のため調整不明	密 良好	灰黄色、灰色	
18	13	SD12 埋土	突帯文土器 深鉢	—	△2.65	外面:無刻目突帯 磨耗のため調整不明 内面:磨耗のため調整不明	密 良好	外面:にぶい黄褐色 内面:にぶい橙色	
19	13	SD12 埋土	突帯文土器 深鉢	—	△4.2	外面:無刻目突帯 突帯下工具による条痕 内面:磨耗のため調整不明	密 良好	灰白色	
20	13	SD12 埋土	突帯文土器 深鉢	—	△4.45	外面:無刻目突帯 突帯下工具による条痕か。 内面:磨耗のため調整不明	密 良好	外面:暗灰黄色 内面:灰黄色、灰色	
21	13	SD12 埋土	突帯文土器? 深鉢	—	△6.1	外面:工具による条痕 内面:工具による条痕	密 良好	灰黄色、暗灰黄色	
22	13	SD12 埋土	弥生土器 壺	—	△5.7	外面:指頭圧痕貼付突帯(2条) 他は磨耗のため調整不明 内面:磨耗のため調整不明	密 良好	外面:にぶい黄褐色、暗灰色 内面:浅黄色、にぶい黄褐色	
23	13	SD12 埋土	弥生土器 壺	*40.8	△3.8	外面:口縁部斜格子文、ナデ 内面:ナデ 磨耗のため調整不明瞭	密 良好	外面:灰黄色、灰白色 内面:灰黄色、にぶい黄色	
24	13	SD12 埋土	弥生土器 壺	*14.0	△6.2	外面:ナデ、指頭圧痕 磨耗のため調整不明瞭 内面:ナデ、ミガキ 磨耗のため調整不明瞭	密 良好	灰黄褐色	
25	13	SD12 埋土	弥生土器 壺	*15.0	△3.75	外面:磨耗のため調整不明 内面:磨耗のため調整不明	密 良好	灰黄色、褐灰色	
26	13	SD12 埋土	弥生土器 壺	*13.4	△4.7	外面:口縁部多条平行沈線(8条) 頭部ナデ 内面:ナデ、ミガキ 頭部下ケズリ	密 良好	外面:にぶい黄褐色、明褐色 内面:にぶい黄褐色	
27	13	SD12 埋土	弥生土器 壺	*17.7	△5.15	外面:ナデ 内面:口縁部波状沈線文、ナデ 頭部下ケズリ	密 良好	外面:灰白色、褐灰色 内面:灰色	
28	13	SD12 埋土	弥生土器 壺	*18.1	△4.1	外面:ナデ 内面:ナデ	密 良好	浅黄色	
29	13	SD12 埋土	弥生土器 壺もしくはは	*6.4	△3.45	外面:ミガキ 底部ナデ 内面:ケズリ、ナデ	密 良好	外面:にぶい黄褐色、褐灰色 内面:灰黄色、黒褐色	
30	13	SD12 埋土	弥生土器 壺もしくはは	*5.0	△8.3	外面:ナデ、ハケ 内面:ケズリ	密 良好	外面:褐灰色、黒褐色 内面:灰黄褐色、黒褐色	
31	13	SD12 埋土	弥生土器 壺もしくはは	*5.3	△1.6	外面:ミガキ?磨耗のため調整不明瞭 煤付着 内面:粗雑なナデ	密 良好	灰褐色	
32	13	SD12 埋土	弥生土器 壺もしくはは	*5.3	△2.65	外面:ミガキ 底部ナデ 内面:磨耗のため調整不明	密 良好	灰黄褐色	
33	13	SD12 埋土	弥生土器 壺もしくはは	*9.3	△2.4	外面:磨耗のため調整不明 内面:磨耗のため調整不明	密 良好	にぶい橙色	
34	13	SD12 埋土	弥生土器 高坏脚部?	— *13.1	△6.9	外面:凹線文 他は磨耗のため調整不明瞭 内面:ナデ、しぼり目 他は磨耗のため調整不明瞭	密 良好	外面:灰白色 内面:灰白色、にぶい黄褐色	
35	13	SD12 埋土	土製品 耳飾り?	最大長 3.3 最大幅 3.35	最大厚 1.2	ナデ調整 黒斑有り	密 良好	灰黄色、黒色	
36	16	SD14 埋土	突帯文土器 深鉢	—	△3.6	外面:無刻目突帯 磨耗のため調整不明 内面:磨耗のため調整不明	密 良好	外面:灰色、橙色 内面:橙色	
37	16	SD14 埋土	弥生土器 壺	*16.2	△7.75	外面:口縁部~頭部ナデ 胴部ハケ 煤付着 内面:ナデ 頭部下ケズリ	密 良好	灰黄色	
38	16	SD14 埋土	弥生土器 壺	*12.0	△4.6	外面:ナデ 内面:ナデ 頭部下ケズリ	密 良好	灰黄色	
39	16	SD14 埋土	弥生土器 壺	*14.8	△4.15	外面:ナデ 内面:ナデ 頭部下ケズリ	密 良好	にぶい黄褐色	
40	16	SD14 埋土	弥生土器 壺	*16.8	△3.65	外面:ナデ 内面:ナデ	密 良好	灰色	
41	18	SD15 埋土	縄文土器 深鉢	—	△4.1	外面:押型文(楕円形) 内面:磨耗のため調整不明	密 良好	外面:褐灰色 内面:黒褐色	
42	18	SD15 埋土	縄文土器 深鉢	—	△5.8	外面:押型文(楕円形) 内面:磨耗のため調整不明	密 良好	外面:灰褐色 内面:黒褐色	
43	18	SD15 埋土	縄文土器 深鉢	—	△4.5	外面:押型文(楕円形) 内面:磨耗のため調整不明	密 良好	外面:褐灰色 内面:黒褐色	
44	18	SD15 埋土	縄文土器 深鉢	—	△2.3	外面:条痕 磨耗のため調整不明瞭 内面:磨耗のため調整不明	密 良好	褐灰色	

表18 坂長第7遺跡出土土器・陶磁器観察表(2)

遺物番号	挿図番号	遺構層位	種別器種	口径(cm) 底径(cm)	器高(cm)	特徴	胎土 焼成	色調	*復元値 △残存値	備考
45	18	SD15 埋土	突帯文土器 深鉢	—	△3.9	外面:刻目突帯 磨耗のため調整不明 内面:磨耗のため調整不明	密 良好	にぶい橙色		
46	18	SD15 埋土	弥生土器 壺	*14.7	△5.75	外面:磨耗のため調整不明 内面:磨耗のため調整不明	密 良好	にぶい橙色		
47	18	SD15 埋土	弥生土器 壺?	*21.7	△4.4	外面:ナデ?磨耗のため調整不明 内面:磨耗のため調整不明	密 良好	橙色		
48	18	SD15 埋土	弥生土器 甕	—	△7.05	外面:口縁端部刻目 胴部上位にヘラ描き沈線文(5条) 内面:ナデ	密 良好	灰白色		
49	18	SD15 埋土	弥生土器 甕	*18.0	△8.25	外面:口縁端部刻目 胴部上半へラ描き沈線文(6条)、沈線下刻目 煤付着 他はナデ 内面:ナデ 煤付着	密 良好	外面にぶい黄橙色、褐灰色 内面にぶい黄色、暗黄灰色		
50	18	SD15 埋土	弥生土器 壺	*16.5	△2.2	外面:口縁部波状文、ナデ、指頭圧痕 頸部ハケ 内面:ナデ	密 良好	にぶい黄褐色		
51	18	SD15 埋土	弥生土器 壺	*20.8	△1.7	外面:ナデ 内面:ナデ	密 良好	灰色、灰白色		
52	18	SD15 埋土	弥生土器 甕	*16.0	△5.5	外面:口縁部ナデ 胴部ハケ 煤付着 内面:ナデ 胴部指頭圧痕	密 良好	灰黄色		
53	18	SD15 埋土	弥生土器 甕	*21.6	△2.7	外面:ナデ 内面:口縁部ナデ 頸部以下ミガキ	密 良好	黒褐色		
54	18	SD15 埋土	弥生土器 甕	*16.5	△3.0	外面:磨耗のため調整不明 内面:磨耗のため調整不明	密 良好	灰黄色、黄灰色		
55	18	SD15 埋土	弥生土器 甕	*12.5	△5.3	外面:口縁部凹線文(3条) 胴部上半連続刺突文 他ナデ 内面:ナデ 頸部下ケズリ	密 良好	橙色		
56	18	SD15 埋土	弥生土器 壺もしくは甕	*9.0	△4.65	外面:磨耗のため調整不明 黒斑有り 内面:磨耗のため調整不明	密 良好	灰褐色		
57	18	SD15 埋土	弥生土器 壺もしくは甕	*9.6	△4.8	外面:ミガキ 底部ナデ 内面:ナデ	密 良好	外面:灰黄色、褐灰色 内面:灰黄色		
58	18	SD15 埋土	弥生土器 壺もしくは甕	*10.4	△4.5	外面:ナデ、ミガキ 底部粗雑なナデ 内面:ナデ、指頭圧痕	密 良好	外面にぶい橙色、褐灰色 内面にぶい橙色		
59	18	SD15 埋土	弥生土器 壺もしくは甕	*7.7	△3.95	外面:磨耗のため調整不明 内面:粗雑なナデ	密 良好	にぶい橙色		
60	18	SD15 埋土	弥生土器 壺もしくは甕	*7.3	△5.45	外面:ハケ 底部ナデ 内面:ハケ 底部付近ケズリ、指頭圧痕	密 良好	外面にぶい黄褐色 内面にぶい黄褐色		
61	18	SD15 埋土	弥生土器 壺もしくは甕	8.2	△6.85	外面:指頭圧痕 磨耗のため調整不明 内面:指頭圧痕 磨耗のため調整不明	密 良好	外面にぶい黄褐色 内面:褐灰色、黒色		
62	18	SD15 埋土	弥生土器 壺もしくは甕	*8.3	△6.8	外面:ミガキ 磨耗のため不明瞭 底部ナデ 内面:磨耗のため調整不明	密 良好	にぶい橙色		
63	18	SD15 埋土	弥生土器 壺もしくは甕	*8.8	△3.95	外面:磨耗のため調整不明 内面:磨耗のため調整不明	密 良好	外面:橙色 内面:黒褐色		
64	18	SD15 埋土	弥生土器 壺もしくは甕	*9.0	△3.8	外面:磨耗のため調整不明 内面:磨耗のため調整不明	密 良好	外面:灰黄色、黄灰色 内面にぶい黄褐色		
65	18	SD15 埋土	弥生土器 壺もしくは甕	*7.8	△6.8	外面:ナデ 内面:ナデ 指頭圧痕	密 良好	外面:褐色 内面:黒褐色		
66	18	SD15 埋土	弥生土器 壺もしくは甕	*7.4	△6.5	外面:ヘラ状工具によるナデ? 底部粗雑なナデ 内面:粗雑なナデ	密 良好	外面にぶい橙色 内面:黒褐色、黒色		
67	18	SD15 埋土	弥生土器 壺もしくは甕	*9.0	△4.25	外面:底部粗雑なナデ 他は磨耗のため調整不明 内面:ケズリ、指頭圧痕	密 良好	にぶい褐色		
68	18	SD15 埋土	弥生土器 壺もしくは甕	*9.8	△5.5	外面:ミガキ 磨耗のため不明瞭 底部ナデ 内面:粗雑なナデ	密 良好	にぶい褐色		
69	18	SD15 埋土	弥生土器 壺もしくは甕	*8.05	△5.15	外面:ハケ 煤付着 底部ナデ 内面:粗雑なナデ	密 良好	にぶい褐色、黒褐色		
70	18	SD15 埋土	弥生土器 壺もしくは甕	*6.7	△5.0	外面:磨耗のため調整不明 内面:磨耗のため調整不明	密 良好	淡褐色		
71	18	SD15 埋土	弥生土器 壺もしくは甕	*9.1	△7.1	外面:ミガキ、指頭圧痕 底部ナデ 内面:ナデ	密 良好	外面:灰黄色 内面:浅黄褐色、黄灰色		
72	18	SD15 埋土	弥生土器 壺もしくは甕	*8.55	△9.0	外面:ミガキ 底部ナデ 他は磨耗のため調整不明 内面:ミガキ、指頭圧痕 底部粗雑なナデ 煤付着	密 良好	外面にぶい黄褐色、黒色 内面にぶい黄褐色、黒色		
73	18	SD15 埋土	弥生土器 壺もしくは甕	*6.9	△3.05	外面:磨耗のため調整不明 内面:磨耗のため調整不明	密 良好	黒褐色		
74	18	SD15 埋土	弥生土器 壺もしくは甕	*5.7	△3.0	外面:ナデ 内面:ナデ 黒斑有り	密 良好	外面:黒褐色 内面:黒色		
75	20	SD16 埋土	突帯文土器 深鉢	—	△3.7	外面:無刻目突帯 磨耗のため調整不明 内面:磨耗のため調整不明	密 良好	外面にぶい褐色 内面にぶい褐色、黒褐色		
76	20	SD16 埋土	弥生土器 壺	*14.05	△5.85	外面:ナデ、ミガキ 頸部沈線(2条) 内面:頸部指頭圧痕 他は磨耗のため調整不明瞭	密 良好	にぶい黄褐色		
77	20	SD16 埋土	弥生土器 壺	*16.0	△6.8	外面:磨耗のため調整不明 内面:ナデ、ミガキ 口縁部黒斑有り	密 良好	灰黄色		
78	20	SD16 埋土	弥生土器 壺	*13.2	△4.0	外面:ナデ、ミガキ 磨耗のため調整不明瞭 内面:ナデ、ミガキ 磨耗のため調整不明瞭	密 良好	外面:明褐色 内面:灰褐色		
79	20	SD16 埋土	弥生土器 壺	*20.0	△27.15	外面:口縁部円形透かし 頸部へラ描き沈線(3条) 胴部へラ描き沈線 (4条)、沈線下ミガキ 他は磨耗のため調整不明 内面:頸部指頭圧痕 他は磨耗のため調整不明	密 良好	にぶい黄褐色		
80	20	SD16 埋土	弥生土器 壺	—	△6.6	外面:胴部ミガキ 黒斑有り 内面:胴部指頭圧痕 磨耗のため調整不明瞭	密 良好	にぶい黄褐色		
81	20	SD16 埋土	弥生土器 壺	—	△4.2	外面:木葉文 他は磨耗のため調整不明 内面:磨耗のため調整不明	密 良好	外面にぶい黄褐色 内面:灰黄色		
82	20	SD16 埋土	弥生土器 壺	—	△4.85	外面:ナデ 指頭圧痕貼付突帯(2条) 突帯下刻目有り 内面:ナデ、ミガキ 磨耗のため調整不明瞭	密 良好	外面:明褐色 内面:灰黄色		
83	20	SD16 埋土	弥生土器 甕	*31.3	△5.25	外面:ナデ 胴部上位に沈線(2条) 内面:ナデ 磨耗のため調整不明瞭	密 良好	にぶい黄褐色、灰黄色		
84	20	SD16 埋土	弥生土器 甕	*13.0	△4.2	外面:口縁端部刻目 口縁下指頭圧痕、褥描き沈線文(8条) 内面:磨耗のため調整不明	密 良好	灰黄色、黄灰色		
85	21	SD17 埋土	突帯文土器 深鉢	—	△4.4	外面:刻目突帯 磨耗のため調整不明 内面:磨耗のため調整不明	密 良好	浅黄褐色		
86	21	SD17 埋土	突帯文土器 深鉢	—	△3.7	外面:無刻目突帯 磨耗のため調整不明 内面:ナデ 磨耗のため調整不明瞭	密 良好	褐色		
87	21	SD17 埋土	弥生土器 壺	*14.5	△5.9	外面:口縁部~頸部ミガキ 頸部沈線1条 内面:ナデ 磨耗のため調整不明瞭	密 良好	外面:灰色、灰黄色 内面:灰黄色		

表19 坂長第7遺跡出土土器・陶磁器観察表(3)

遺物番号	挿図番号	遺構層位	種別器種	口径(cm) 底径(cm)	器高(cm)	特徴	胎土焼成	色調	備考
88	21	SD17 埋土	弥生土器 甕	*10.4 4.2	8.65	外面:粗雑なナデ 口縁部:胴部指頭圧痕 底部ナデ 内面:粗雑なナデ	密 良好	にぶい黄橙色、褐灰色	
89	21	SD17 埋土	弥生土器 甕	—	△8.0	外面:口縁端部突帯貼付(刻目) 胴部ヘラ描き沈線文(7条) 内面:ナデ	密 良好	外面:灰黄褐色 内面:にぶい黄褐色	
90	21	SD17 埋土	弥生土器 甕	*15.15 —	△8.3	外面:口縁端部刻目 胴部指頭圧痕、ヘラ描き沈線文(4条) 内面:ナデ	密 良好	灰黄色	
91	21	SD17 埋土	弥生土器 甕	*19.5 —	△9.45	外面:口縁端部刻目 胴部ヘラ描き沈線文(7条)、ハケ、指頭圧痕 内面:ナデ	密 良好	外面:灰黄褐色、黒褐色 内面:灰黄褐色	
92	21	SD17 埋土	弥生土器 甕	*17.7 —	△8.2	外面:口縁端部刻目 胴部:櫛描き沈線文 沈線下ミガキ 内面:ナデ 磨耗のため調整不明	密 良好	にぶい黄橙色、灰黄褐色	
93	21	SD17 埋土	弥生土器 壺もしくは甕	*8.0 —	△15.45	外面:ナデ 磨耗のため調整不明 内面:ナデ 胴部下位・底部指頭圧痕	密 良好	橙色	
94	21	SD17 埋土	弥生土器 壺もしくは甕	*7.3 —	△6.1	外面:磨耗のため調整不明 内面:ナデ	密 良好	外面:灰黄色、褐灰色 内面:灰黄色	
95	21	SD17 埋土	弥生土器 壺もしくは甕	*8.6 —	△2.7	外面:ハケ 底部ナデ 内面:ナデ	密 良好	にぶい黄橙・橙色	
96	21	SD17 埋土	弥生土器 壺もしくは甕	*6.8 —	△3.4	外面:ナデ 内面:磨耗のため調整不明	密 良好	灰黄色	
97	21	SD17 埋土	弥生土器 壺もしくは甕	*10.7 —	△7.05	外面:ミガキ 胴部下端・底部粗雑なナデ 黒斑有り 内面:粗雑なナデ	密 良好	外面:灰黄色 内面:浅黄褐色、灰黄色	
98	23	SD18 埋土	弥生土器 壺もしくは甕	*10.2 —	△4.2	外面:ナデ 内面:指頭圧痕 他は磨耗のため調整不明	密 良好	にぶい黄橙色、灰黄褐色	
99	23	SD18 埋土	弥生土器 壺もしくは甕	*6.8 —	△3.15	外面:ナデ 内面:ナデ 磨耗のため調整不明	密 良好	外面:明赤褐色、褐灰色 内面:にぶい黄褐色	
100	23	SD18 埋土	弥生土器 壺もしくは甕	*6.1 —	△2.75	外面:ナデ 内面:磨耗のため調整不明	密 良好	にぶい橙色	
101	23	SD18 埋土	弥生土器 壺もしくは甕	*9.2 —	△2.85	外面:ナデ 内面:粗雑なナデ	密 良好	にぶい黄色、にぶい黄褐色	
102	23	SD18 埋土	弥生土器 壺もしくは甕	*7.3 —	△2.7	外面:ナデ 胴部下位・底部煤付着 内面:粗雑なナデ	密 良好	外面:灰黄褐色 内面:灰黄褐色、褐灰色	
103	24	SD19 埋土	突帯文土器 深鉢	— —	△2.4	外面:無刻目突帯 磨耗のため調整不明 内面:磨耗のため調整不明	密 良好	外面:浅黄褐色、灰色 内面:浅黄褐色	
104	24	SD19 埋土	突帯文土器 深鉢	— —	△4.85	外面:無刻目突帯 磨耗のため調整不明 内面:磨耗のため調整不明	密 良好	外面:にぶい黄褐色 内面:灰色、浅黄色	
105	24	SD19 埋土	弥生土器 壺	— —	△6.4	外面:突帯貼付(2条:刻目有り) 他は磨耗のため調整不明 内面:磨耗のため調整不明	密 良好	浅褐色	
106	24	SD19 埋土	弥生土器 壺	— —	△2.3	外面:磨耗のため調整不明 内面:磨耗のため調整不明	密 良好	浅黄褐色	
107	24	SD19 埋土	弥生土器 壺もしくは甕	*9.15 —	△5.3	外面:ナデ 内面:ナデ	密 良好	外面:浅黄褐色、灰色 内面:浅黄褐色	
108	24	SD19 埋土	弥生土器 壺もしくは甕	*9.1 —	△8.7	外面:胴部下端粗雑なナデ 他は磨耗のため調整不明 内面:磨耗のため調整不明	密 良好	浅黄褐色	
109	24	SD19 埋土	弥生土器 壺もしくは甕	*6.1 —	△4.7	外面:磨耗のため調整不明 内面:底部指頭圧痕 他は磨耗のため調整不明	密 良好	外面:浅黄褐色、灰色 内面:浅黄褐色	
110	30	SD25 埋土	突帯文土器 深鉢	— —	△4.3	外面:無刻目突帯 磨耗のため調整不明 内面:磨耗のため調整不明	密 良好	明黄褐色	
111	30	SD25 埋土	弥生土器 壺もしくは甕	*11.1 —	△3.8	外面:ナデ、ミガキ 底部粗雑なナデ 内面:回転ナデ	密 良好	外面:にぶい黄褐色 内面:褐灰色、灰黄色	
112	30	SD25 埋土	弥生土器 器台	*18.6 —	△3.75	外面:ナデ 内面:ナデ	密 良好	外面:灰白色 内面:灰色	器受部か
113	33	SD28 埋土	弥生土器 甕	*14.0 —	△4.2	外面:ナデ 磨耗のため調整不明 内面:ナデ 磨耗のため調整不明	密 良好	にぶい橙色	
114	35	P3 埋土	突帯文土器 深鉢	— —	△3.75	外面:無刻目突帯 突帯下工具による条痕 内面:磨耗のため調整不明	密 良好	にぶい黄褐色	
115	38	SS1 埋土	土師器 坏	17.3 —	4.9	外面:ナデ、ミガキ 底部ケズリ後ナデ、指頭圧痕 内面:体部放射状暗文 底部螺旋状暗文 鉄錆?付着	密 良好	明赤褐色、にぶい橙色	内外面赤色塗彩
116	38	SS1 埋土	土師器 坏	*12.0 —	2.75	外面:ナデ、ミガキ 内面:ナデ、ミガキ	密 良好	外面:にぶい赤褐色、灰褐色 内面:橙色、にぶい赤褐色	内外面赤色塗彩
117	38	SS1 埋土	土師器 高坏	30.2 16.9	10.4	外面:坏部ナデ・ミガキ、磨耗のため不明 脚部調整不明 内面:坏部ナデ・ミガキ、磨耗のため不明 脚部調整不明	密 良好	橙色、明赤褐色	内外面赤色塗彩
118	38	SS1 埋土	須恵器 高台付坏	*13.4 8.7	5	外面:回転ナデ 底部回転ヘラ切り後回転ナデ 内面:回転ナデ 底部回転ナデ後不整方向ナデ	密 良好	灰色	
119	38	SS1 埋土	須恵器 甕	— —	△6.2	外面:平行叩き 内面:同心円状当具痕	密 良好	灰色	
120	43	SD3 埋土	須恵器 甕	— —	△3.7	外面:回転ナデ 自然軸着干付着 内面:同心円状当具痕	密 良好	灰色	
121	43	SD4 埋土	須恵器 甕	— —	△6.6	外面:平行叩き 内面:同心円状当具痕	密 良好	灰色	
122	43	SD6 埋土	須恵器 蓋	*15.7 —	△1.9	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	密 良好	灰色	
123	43	SD6 埋土	須恵器 甕	— —	△6.1	外面:平行叩き 内面:同心円状当具痕	密 良好	灰色	
124	43	SD6 埋土	須恵器 甕	— —	△6.2	外面:平行叩き 内面:同心円状当具痕	密 良好	灰色	
125	43	SD8 埋土	須恵器 甕	— —	△4.7	外面:平行叩き 内面:同心円状当具痕	密 良好	灰色	
126	44	SD9 埋土	須恵器 坏	*13.2 —	△2.3	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	密 良好	灰色	
127	44	SD9 埋土	須恵器 高台付坏	— —	△2.5	外面:回転ナデ 底部回転ヘラケズリ後ナデ 内面:回転ナデ 底部回転ナデ後不整方向ナデ	密 良好	灰色	
128	47	SD11 埋土	土師器 坏	*16.3 —	3.6	外面:ナデ、ミガキ(磨耗のため不明) 底部ケズリ 内面:ナデ、ミガキ(磨耗のため不明)	密 良好	明赤褐色、にぶい黄褐色	内外面赤色塗彩
129	47	SD11 埋土	土師器 坏	*13.0 —	△2.5	外面:ナデ 底部ケズリ 内面:ナデ、ミガキ 磨耗のため調整不明	密 良好	にぶい赤褐色、灰黄褐色	内外面赤色塗彩
131	47	SD11 埋土	土師器 坏	*14.4 —	△2.3	外面:ナデ 底部ケズリ後ナデ? 磨耗のため調整不明 内面:ナデ 磨耗のため調整不明	密 良好	にぶい赤褐色、灰黄色	内外面赤色塗彩

表20 坂長第7遺跡出土土器・陶磁器観察表(4)

遺物番号	挿図番号	遺構層位	種別器種	口径(cm) 底径(cm)	器高(cm)	特徴	胎土 焼成	色調	備考
132	47	SD11 埋土	土師器 坏	*136 —	△2.45	外面ナデ 磨耗のため調整不明瞭 内面ナデ 磨耗のため調整不明瞭	密 良好	明赤褐色、にぶい黄褐色	内外面赤色塗彩
133	47	SD11 埋土	土師器 坏	*15.5 —	△2.6	外面ナデ 底部磨耗のため調整不明 内面ナデ 磨耗のため調整不明瞭	密 良好	明褐色	内外面赤色塗彩
134	47	SD11 埋土	土師器 坏	*13.1 —	2.8	外面ナデ 底部ケズリ後ナデ 磨耗のため調整不明瞭 内面ナデ、ミガキ(磨耗のため不明瞭)	密 良好	にぶい赤褐色、灰黄色	内外面赤色塗彩
135	47	SD11 埋土	土師器 坏	*14.0 —	2.15	外面ナデ 底部ケズリ後ナデ 内面ナデ	密 良好	外面黒色、暗赤褐色、 にぶい赤褐色 内面にぶい赤褐色、暗赤褐色	外面赤色塗彩後 黒色処理 内面赤色塗彩
136	47	SD11 埋土	土師器 坏	*13.9 *12.2	3.4	外面ナデ 底部ケズリ 内面ナデ	密 良好	にぶい赤褐色、赤褐色 褐灰色	内外面赤色塗彩
137	47	SD11 埋土	土師器 坏	12.7 10.15	3.35	外面回転ナデ 底部ヘラ切り後ハケ状工具によるナデ調整 内面回転ナデ 底部回転ナデ後不整方向ナデ	密 良好	にぶい赤褐色、灰黄褐色	内外面赤色塗彩
138	47	SD11 埋土	土師器 坏	12.8 —	3.2	外面回転ナデ 底部ヘラ切り後ナデ 内面回転ナデ 底部回転ナデ後不整方向ナデ	密 良好	褐色	内外面赤色塗彩
139	47	SD11 埋土	土師器 坏	*13.55 9.7	3.3	外面回転ナデ 底部ヘラ切り後ナデ 内面回転ナデ 底部回転ナデ後不整方向ナデ	密 良好	にぶい黄褐色、明赤褐色	内外面赤色塗彩
140	47	SD11 埋土	土師器 坏	13.0 9.9	3.3	外面回転ナデ 底部ヘラ切り後ナデ 内面回転ナデ 底部回転ナデ後不整方向ナデ	密 良好	にぶい褐色	内外面赤色塗彩
141	47	SD11 埋土	土師器 坏	*13.1 *10.6	3.3	外面回転ナデ 底部ヘラ切り後ナデ 内面回転ナデ 底部回転ナデ後不整方向ナデ	密 良好	にぶい黄褐色、黒褐色	外面赤色塗彩 内面磨耗で不明
142	47	SD11 埋土	土師器 坏	*14.6 *10.3	2.8	外面回転ナデ 底部ヘラ切り後ナデ 磨耗のため調整不明瞭 内面回転ナデ 磨耗のため調整不明瞭	密 良好	褐色	
143	47	SD11 埋土	土師器 坏	*13.4 *9.6	2.75	外面回転ナデ 底部ヘラ切り後ナデ 内面回転ナデ	密 良好	にぶい黄橙-褐色	外面赤色塗彩 内面磨耗で不明
144	47	SD11 埋土	土師器 坏	13.0 9.2	△3.05	外面回転ナデ 底部ヘラ切り後ナデ? 内面回転ナデ	密 良好	にぶい黄橙-褐色、褐色 にぶい褐色、灰色	
145	47	SD11 埋土	土師器 坏	*13.0 *8.4	3.25	外面回転ナデ 底部ヘラ切り後ナデ? 内面回転ナデ	密 良好	明褐色	
146	47	SD11 埋土	土師器 坏	12.95 8.1	2.95	外面回転ナデ 底部ヘラ切り後ナデ 内面回転ナデ 底部回転ナデ、押圧?	密 良好	にぶい黄橙-褐色、褐灰色	内外面赤色塗彩 (磨耗で不明瞭)
147	47	SD11 埋土	土師器 坏	12.95 7.95	3.45	外面回転ナデ 底部ヘラ切り後ナデ 内面回転ナデ、押圧?	密 良好	灰白色、にぶい黄橙-褐色	
148	47	SD11 埋土	土師器 坏	*12.9 *8.3	△3.25	外面回転ナデ 内面回転ナデ	密 良好	外面にぶい黄橙-褐色 内面にぶい黄橙-褐色	
149	47	SD11 埋土	土師器 坏	12.8 8.3	3.1	外面回転ナデ 底部ヘラ切り後ナデ、押圧? 内面回転ナデ 底部回転ナデ、押圧?	密 良好	褐色	
150	47	SD11 埋土	土師器 坏	12.75 8.65	3.4	外面回転ナデ 底部ヘラ切り後ナデ、押圧? 内面回転ナデ 底部回転ナデ、押圧?	密 良好	にぶい赤褐色 にぶい黄褐色	内外面赤色塗彩
151	47	SD11 埋土	土師器 坏	12.7 8.35	3.05	外面回転ナデ 底部ヘラ切り後ナデ、押圧? 内面回転ナデ 底部回転ナデ、押圧?	密 良好	にぶい黄褐色、灰黄褐色 にぶい赤褐色	内外面赤色塗彩
152	47	SD11 埋土	土師器 坏	12.7 7.7	3.3	外面回転ナデ 底部ヘラ切り後ナデ、押圧? 内面回転ナデ 底部回転ナデ、押圧?	密 良好	にぶい褐色	
153	47	SD11 埋土	土師器 坏	*12.6 *9.0	2.75	外面回転ナデ 底部ヘラ切り後ナデ? 内面回転ナデ	密 良好	灰白色、褐色	
154	47	SD11 埋土	土師器 坏	*12.6 *8.8	△3.15	外面回転ナデ 底部ヘラ切り? 内面回転ナデ	密 良好	にぶい褐色、灰褐色	
155	47	SD11 埋土	土師器 坏	*12.6 *8.6	△2.95	外面回転ナデ 底部ヘラ切り後ナデ、押圧? 内面回転ナデ	密 良好	褐色、にぶい黄褐色	内外面赤色塗彩
156	47	SD11 埋土	土師器 坏	12.6 8.3	3.3	外面回転ナデ 底部ヘラ切り後ナデ、刻線3条(ヘラ記号?) 内面回転ナデ	密 良好	にぶい黄橙-褐色 にぶい褐色	内外面赤色塗彩
157	47	SD11 埋土	土師器 坏	*12.6 *8.3	△3.3	外面回転ナデ 底部ヘラ切り後ナデ、押圧? 内面回転ナデ 底部回転ナデ後不整方向ナデ、押圧	密 良好	にぶい黄橙-褐色	
158	47	SD11 埋土	土師器 坏	*12.2 *8.9	△2.85	外面回転ナデ 内面回転ナデ	密 良好	外面灰黄色 内面灰黄色、にぶい灰色	
159	47	SD11 埋土	土師器 坏	12.05 8.1	3.2	外面回転ナデ 底部ヘラ切り後ナデ、押圧? 内面回転ナデ	密 良好	褐色	内外面赤色塗彩
160	47	SD11 埋土	土師器 坏	11.95 7.4	3.35	外面回転ナデ 底部ヘラ切り後ナデ、押圧? 内面回転ナデ	密 良好	灰白色、黄灰色、にぶい褐色	
161	47	SD11 埋土	土師器 坏	11.9 7.8	3.2	外面回転ナデ 底部ヘラ切り後ナデ 内面回転ナデ	密 良好	褐色	内外面赤色塗彩
162	47	SD11 埋土	土師器 坏	*11.6 *7.8	3.5	外面回転ナデ 底部ヘラ切り後ナデ 内面回転ナデ 底部回転ナデ、押圧?	密 良好	明褐色	内外面赤色塗彩
163	47	SD11 埋土	土師器 坏	— —	△2.9	外面回転ナデ 内面回転ナデ	密 良好	にぶい黄褐色	
164	47	SD11 埋土	土師器 坏	*11.95 *7.0	3.5	外面回転ナデ 底部ヘラ切り後ナデ 内面回転ナデ	密 良好	褐色	内外面赤色塗彩
165	47	SD11 埋土	土師器 坏	*13.2 *7.3	3.15	外面回転ナデ 底部ヘラ切り後ナデ? 内面回転ナデ	密 良好	にぶい褐色、灰色 黒褐色	器壁薄い
166	47	SD11 埋土	土師器 坏	— *8.3	△2.15	外面回転ナデ 底部ヘラ切り後ナデ? 内面回転ナデ	密 良好	にぶい赤褐色	口縁部打欠き
167	47	SD11 埋土	土師器 坏	*12.4 *6.8	4.5	外面回転ナデ 底部回転糸切り 内面回転ナデ	密 良好	にぶい褐色	
168	47	SD11 埋土	土師器 坏	— *7.0	△1.95	外面回転ナデ 底部回転糸切り 内面回転ナデ 底部回転ナデ後不整方向ナデ	密 良好	浅黄褐色	
169	47	SD11 埋土	土師器 高台付坏	*15.85 *9.3	5.0	外面回転ナデ 底部ヘラ切り後ナデ 内面回転ナデ 底部回転ナデ、押圧?	密 良好	外面黒色、褐色 内面褐色	外面黒色処理
170	47	SD11 埋土	土師器 高台付坏	— *8.6	△4.8	外面回転ナデ 底部磨耗のため調整不明 内面回転ナデ 底部回転ナデ、押圧	密 良好	にぶい褐色	内外面赤色塗彩
171	47	SD11 埋土	土師器 皿	*13.05 *10.75	1.2	外面回転ナデ 底部ヘラ切り後ナデ? 内面回転ナデ	密 良好	にぶい黄橙-褐色	
172	47	SD11 埋土	土師器 皿	*13.3 —	1.65	外面回転ナデ 底部ヘラ切り後ナデ、押圧? 内面回転ナデ 底部回転ナデ後不整方向ナデ、押圧	密 良好	にぶい黄橙-褐色	
173	47	SD11 埋土	土師器 皿	*13.7 —	△1.7	外面ナデ 底部磨耗のため調整不明 内面ナデ	密 良好	明褐色	
174	47	SD11 埋土	土師器 皿	*14.3 *12.0	1.65	外面回転ナデ 底部ヘラ切り後ナデ 内面回転ナデ 底部回転ナデ、押圧?	密 良好	明褐色	
175	47	SD11 埋土	土師器 皿	*14.4 *11.2	1.6	外面回転ナデ 底部ケズリ後ナデ、押圧 内面回転ナデ 底部回転ナデ、押圧	密 良好	褐色	内外面赤色塗彩

表21 坂長第7遺跡出土土器・陶磁器観察表(5)

遺物番号	挿図番号	遺構層位	種別器種	口径(cm) 底径(cm)	器高(cm)	特徴	胎土 焼成	色調	備考
176	48	SD11 埋土	須恵器 蓋	つまみ径 2.65	△1.0	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ後不整方向ナデ	密 良好	灰色	
177	48	SD11 埋土	須恵器 環	*11.1	△2.3	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	密 良好	灰色	
178	48	SD11 埋土	須恵器 環	*12.15 *8.0	3.6	外面:回転ナデ 底部回転糸切り 内面:回転ナデ 底部回転ナデ後不整方向ナデ	密 良好	外面:オリブ灰色 内面:灰色、オリブ灰色	
179	48	SD11 埋土	須恵器 環	*11.8 *6.7	△4.05	外面:回転ナデ 底部回転糸切り 内面:回転ナデ	密 良好	灰色	
180	48	SD11 埋土	土師器 甕	*17.0	△3.45	外面:ナデ 煤付着 内面:ナデ 頸部以下ケズリ	密 良好	外面:黒褐色、灰黄褐色 内面:褐灰色、灰黄褐色	
181	48	SD11 埋土	土師器 甕	*16.8	△6.3	外面:煤付着 磨耗のため調整不明 内面:ナデ 頸部以下ケズリ	密 良好	黒褐色	
182	50	SX 1 埋土	土師器 高台付環	— *8.1	△2.6	外面:回転ナデ? 磨耗のため調整不明 内面:磨耗のため調整不明	密 良好	橙色	
183	50	SX 1 埋土	須恵器 環	11.8 7.5	3.6	外面:回転ナデ、回転ヘラケズリ 底部ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ 底部回転ナデ後不整方向ナデ	密 良好	灰色	
184	50	SX 1 埋土	須恵器 高台付環	— *5.6	△4.35	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	密 良好	灰色	楕状の形態をもつ
185	50	SX 1 埋土	須恵器 甕	*18.5	△3.2	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	密 良好	灰色	
186	50	SX 1 埋土	須恵器 甕	—	△2.9	外面:平行叩き 他の甕片付着 内面:同心円状当具痕	密 良好	灰褐色	底部資料
189	52	SX 3 埋土	土師器 環	*14.0	△3.8	外面:ナデ、ミガキ 内面:放射状暗文 底部螺旋暗文 磨耗のため調整不明瞭	密 良好	にぶい黄橙-橙色	内外面赤色塗彩
190	52	SX 3 埋土	土師器 環	*15.7	3.0	外面:ナデ、ミガキ 内面:ミガキ、放射状暗文	密 良好	明赤褐色、灰褐色	内外面赤色塗彩
191	52	SX 3 埋土	土師器 環	*15.6	△3.2	外面:赤色塗彩後、黒色処理(漆塗布か) 他の調整不明瞭 内面:ナデ? 磨耗のため調整不明瞭	密 良好	外面:黒色、にぶい赤褐色 内面:にぶい赤褐色、灰黄褐色	内外面赤色塗彩 赤褐色、黒褐色
192	52	SX 3 埋土	土師器 高台付皿	*16.4	3.8	外面:ナデ 底部調整は不明 内面:ナデ	密 良好	赤褐色、黒褐色	内外面赤色塗彩
193	52	SX 3 埋土	土師器 高台付壺?	—	△9.5	外面:胴部ミガキ 高台剥離痕有り 高台周辺ナデ 内面:胴部ハケ 胴部下位~底部指頭圧痕	密 良好	外面:明赤褐色 内面:にぶい黄褐色	外面赤色塗彩
194	52	SX 3 埋土	土師器 甕	*21.2	△7.6	外面:ナデ、ハケ 内面:ナデ 頸部下ケズリ	密 良好	灰黄褐色	
195	52	SX 3 埋土	須恵器 蓋	つまみ径 5.65	△1.15	外面:天井部回転ヘラケズリ後回転ナデ 内面:回転ナデ後不整方向ナデ	密 良好	灰色	
196	52	SX 3 埋土	須恵器 環	*11.7 *7.15	4.6	外面:回転ナデ 底部回転糸切り 内面:回転ナデ	密 良好	灰色	
197	52	SX 3 埋土	須恵器 環	*13.6 *8.8	4.4	外面:回転ナデ 底部回転糸切り 内面:回転ナデ 底部回転ナデ後不整方向ナデ	密 良好	灰色	
198	52	SX 3 埋土	須恵器 環	*14.0	△3.1	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	密 良好	灰色	
199	52	SX 3 埋土	須恵器 壺	*14.1	△8.2	外面:回転ナデ 自然袖付着 内面:回転ナデ 口縁部自然袖付着	密 良好	外面:灰色、灰白色 内面:灰色	
200	52	SX 3 埋土	手づくね土器 甕	— *6.15	△5.15	外面:粗雑なナデ、指頭圧痕 内面:粗雑なナデ	密 良好	灰白色	
201	53	SD 1 埋土	土師器 蓋	*10.5	△2.1	外面:ナデ、煤付着 つまみ痕跡有り 内面:ナデ、煤付着	密 良好	にぶい橙色、灰黄色 黒色(煤)	
202	53	SD 1 埋土	磁器 碗	— 3.9	△3.35	外面:施釉 畳付露胎 具須により圏線、文様を描く。 高台内路款有り(不明) 内面:施釉	密 良好	灰白色	肥前系
203	53	SD 1 埋土	磁器 猪口?	— *5.3	△4.6	外面:施釉 高台具須による圏線 体部下半文様を描く。 内面:施釉	密 良好	灰白色	肥前系
204	53	SD 1 埋土	磁器 油壺	3.1	△5.25	外面:施釉 胴部圏線-露胎状文様を描く(上絵) 内面:口縁部~頸部施釉 胴部以下露胎、ロクロケズリ	密 良好	釉調:明緑灰色 露胎部:灰白色	
205	53	SD 2 埋土	陶器 皿	*11.5	△1.25	外面:ロクロケズリ 口縁部~体部上半に灰白色釉を施す。 内面:灰白色釉を施す。	密 良好	釉調:灰白色 露胎部:灰黄色	唐津系陶器 溝緑皿
206	55	F 64 I層	磁器 皿	*18.5 *11.0	△3.1	外面:施釉 畳付露胎 内面:施釉 具須により圏線2条、草花文を描く。 見込環状の松竹梅文か。	密 良好	灰白色	肥前系
207	55	E 64 I層	磁器 皿	*12.7 *7.7	△2.25	外面:施釉 畳付露胎 内面:施釉 型紙摺りによる絵付け	密 良好	灰白色	
208	56	北壁際Tr II層	土師器 環	— *6.7	△3.6	外面:回転ナデ 底部回転糸切り 内面:回転ナデ	密 良好	灰白色、浅黄色	
209	56	E 65 II層	土師器 環	— *7.1	△1.5	外面:回転ナデ 底部回転糸切り 内面:回転ナデ	密 良好	にぶい黄褐色	
210	56	F 65 II層	土師器 環	— *6.7	△2.4	外面:回転ナデ 底部回転糸切り 内面:回転ナデ	密 良好	にぶい黄褐色	
211	56	G 66 II層	土師器 環	— *6.3	△1.6	外面:回転ナデ 底部回転糸切り 内面:回転ナデ	密 良好	にぶい黄褐色、褐灰色	
212	56	北壁際Tr II層	土師器 環	— *6.05	△1.35	外面:回転ナデ 底部回転糸切り 内面:回転ナデ	密 良好	灰白色	
213	56	H 70 II層	土師器 環	— *6.0	△1.5	外面:回転ナデ 底部回転糸切り 内面:回転ナデ	密 良好	外面:灰黄色 内面:暗灰黄色	
214	56	G 69 II層	土師器 環	— *6.0	△1.4	外面:回転ナデ 底部回転糸切り 内面:回転ナデ	密 良好	にぶい橙色	
215	56	E 68 II層	土師器 環	— *5.9	△1.4	外面:回転ナデ 底部回転糸切り 内面:回転ナデ	密 良好	にぶい黄褐色	
216	56	E 67 II層	土師器 環	— *5.45	△1.35	外面:回転ナデ 底部回転糸切り 内面:回転ナデ	密 良好	灰白色、にぶい黄褐色	
217	56	I 69 II層	土師器 環	— 5.4	△1.55	外面:回転ナデ 底部回転糸切り 内面:回転ナデ	密 良好	にぶい黄褐色、灰黄褐色 黒褐色、灰褐色	
218	56	北壁際Tr II層	土師器 小皿	— *4.5	△1.35	外面:回転ナデ 底部回転糸切り 内面:回転ナデ	密 良好	にぶい黄褐色、褐灰色	
219	56	北壁際Tr II層	土師器 小皿	— *4.35	△1.1	外面:回転ナデ 底部回転糸切り 内面:回転ナデ	密 良好	にぶい黄橙-褐色	
220	56	H 71 II層	土師器 小皿	*7.3 *4.9	1.15	外面:回転ナデ 底部回転糸切り 内面:回転ナデ	密 良好	灰白色	

表22 坂長第7遺跡出土土器・陶磁器観察表(6)

遺物番号	挿図番号	遺構層位	種別器種	口径(cm) 底径(cm)	器高(cm)	特徴	胎土 焼成	色調	備考
221	56	J71 II層	土師器 小皿	*8.1 *6.4	1.0	外面:回転ナデ 底部調整不明 内面:回転ナデ	密 良好	外面:灰白色、褐灰色 内面:灰白色	
222	56	F67 II層	土師器 小皿	*9.2 *7.0	△1.05	外面:回転ナデ 底部調整不明 内面:回転ナデ	密 良好	外面:灰黄褐色、にぶい橙色 内面:灰黄褐色	
223	56	H71 II層	土師器 小皿	*7.85 *5.0	1.5	外面:回転ナデ 底部回転系切り 内面:回転ナデ	密 良好	灰白色、灰黄色	
224	56	H69 II層	土師器 柱状高台皿?	— 6.5	△3.4	外面:回転ナデ 底部回転系切り 内面:回転ナデ	密 良好	外面:にぶい黄褐色 内面:にぶい黄褐色・橙色	
225	56	F65 II層	土師器 高台付坏	— *8.4	△2.9	外面:回転ナデ 底部回転系切り後ナデ 内面:回転ナデ	密 良好	黒褐色	
226	56	H69 II層	土師器 高台付坏	— *7.5	△2.1	外面:底部回転系切り後ナデ 他は磨耗のため調整不明 内面:磨耗のため調整不明	密 良好	にぶい橙色	
227	56	西壁Tr II層	黒色土器 高台付坏	— *8.8	△1.65	外面:ナデ 内面:黒色処理、ミガキ	密 良好	にぶい黄褐色	
228	56	G64 II層	黒色土器 高台付坏	— —	△3.85	外面:回転ナデ 底部調整不明 内面:黒色処理、他は磨耗のため調整不明	密 良好	外面:にぶい黄褐色 内面:灰褐色	
229	56	H72 II層	瓦質土器 罌鉢	*22.9 —	△4.9	外面:ナデ 磨耗のため調整不明瞭 内面:ナデ、卸目 磨耗のため調整不明瞭	密 良好	外面:灰色 内面:灰色、にぶい橙色	
230	56	E66 II層	瓦質土器 罌鉢	— *9.6	6.0	外面:磨耗のため調整不明 内面:卸目 他は磨耗のため調整不明	密 やや軟	灰白色	
231	56	H67 II層	瓦質土器 罌鉢	— *9.3	△2.65	外面:体部指頭圧痕 他は磨耗のため調整不明 内面:卸目 他は磨耗のため調整不明	密 良好	外面:灰褐色、淡褐色 内面:灰褐色	
232	56	G66 II層	瓦質土器 罌鉢	— *10.3	2.3	外面:磨耗のため調整不明 内面:卸目 他は磨耗のため調整不明	密 良好	灰白色	
233	56	G66 II層	瓦質土器 罌鉢	— —	△10.45	外面:不整方向のハケ 内面:不整方向のハケ	密 良好	にぶい黄橙・橙色、褐灰色 暗灰褐色、灰白色	
234	56	南壁際Tr II層	瓦質土器 壺?	— *10.3	△5.2	外面:回転ナデ 底部回転系切り 内面:回転ナデ	密 良好	外面:灰白色、灰色 内面:灰白色	
235	56	西壁Tr II層	土師器 罌	28.5 —	△6.95	外面:口縁部~胴部にかかけ縦方向のハケ 内面:受部ハケ後ナデ 胴部ハケ	密 良好	浅黄褐色	
236	56	H68 II層	土師器 罌	*25.9 —	△5.0	外面:煤付着、調整不明 内面:受部ナデ 胴部ハケ	密 良好	外面:暗褐色 内面:にぶい黄褐色	
237	56	G65 II層	土師器 罌	*25.6 —	△4.85	外面:煤付着、調整不明 内面:受部ナデ 胴部ハケ	密 良好	にぶい黄褐色	
238	56	I68 II層	白磁 碗	— —	△2.6	外面:施釉 内面:施釉	密 良好	釉調:灰白色 胎土:灰白色	白磁Ⅳ類
239	56	F66 II層	白磁 碗	— —	△2.25	外面:施釉 内面:施釉	密 良好	釉調:にぶい黄色 胎土:にぶい黄褐色	白磁Ⅳ類
240	56	H70 II層	白磁 碗	— *5.8	△2.1	外面:体部下位まで施釉 高台~底部露胎 内面:施釉	密 良好	釉調:浅黄色 露胎部:灰白色、灰色	白磁Ⅱ類?
241	56	H72 II層	青磁 碗	— —	△3.5	外面:菊蓮弁 施釉 内面:施釉	密 良好	釉調:灰オリーブ色 胎土:灰色	龍泉窯青磁Ⅰ5b類
242	56	G67 II層	備前焼 罌鉢	*30.1 —	△5.7	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ、卸目	密 良好	外面:灰色、にぶい赤褐色 内面:灰色	重根編年ⅣB
243	56	F68 II層	陶器 天目茶碗	*10.2 —	△3.35	外面:暗褐色釉施釉 内面:暗褐色釉施釉	密 良好	釉調:暗褐色、オリーブ灰色 露胎部:明黄褐色	瀬戸美濃産?
244	56	G66 II層	須恵器 甕	— —	△7.1	外面:格子目叩き 内面:同心円状当て具痕	密 良好	外面:灰白色、灰色 内面:灰色	亀山系か
245	56	J70 II層	須恵器 甕	— —	△5.2	外面:格子目叩き 内面:カキメ	密 良好	灰白色、灰黄色	勝間田系か
246	56	F67・68 II層	須恵器 甕	— —	△10.65	外面:格子目叩き 内面:カキメ	密 良好	外面:灰白色、黒色 内面:灰白色、灰黄褐色	勝間田系か
247	57	土層確認用Tr III層	土師器 壺	*18.0 —	△5.8	外面:口縁部ナデ 頸部ハケ 内面:口縁部ナデ 頸部磨耗のため調整不明	密 良好	灰白色	
248	57	H65 III層	須恵器 坏	*11.4 *11.3	△3.6	外面:回転ナデ 底部回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ	密 良好	灰色	
249	57	G69 III層	須恵器 高坏	— *8.9	△5.0	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	密 良好	灰色	
250	58	D64 黒褐色土	土師器 皿?	*24.2 —	△3.5	外面:ナデ、ミガキ 内面:ナデ 体部放射状暗文	密 良好	明赤褐色	内外面赤色塗彩 高坏の可能性有り
251	58	D65 黒色土	須恵器 蓋	*11.4 —	△2.9	外面:回転ナデ 天井部回転ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ 天井部回転ナデ後不整方向ナデ	密 良好	灰色	
252	58	D65 黒褐色土	須恵器 蓋	*4.6 *16.0	△2.7 △2.05	外面:回転ナデ 天井部回転ヘラケズリ 内面:回転ナデ	密 良好	灰色	
253	58	D65 黒褐色土	須恵器 蓋	*16.0 —	△2.05	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	密 良好	外面:灰色、灰オリーブ色 内面:灰色	
254	58	D65 黒褐色土	須恵器 蓋	*13.6 —	△1.35	外面:回転ナデ 天井部自然袖付着 内面:回転ナデ	密 良好	外面:灰色、灰オリーブ色 内面:灰色	
255	58	D65 黒色土	須恵器 坏	*11.4 —	4.2	外面:回転ナデ 底部回転ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ 口縁部~底部自然袖付着	密 良好	外面:灰色 内面:灰色、明黄褐色	
256	58	D63 黒褐色土	須恵器 皿	*16.3 —	△2.2	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	密 良好	外面:灰色、灰白色 内面:灰色	
257	58	D63 黒褐色土	土製品 移動式竈	最大高 △15.2	最大幅 △6.8	外面:ナデ 焚口との接合部粗雑なナデ、ケズリ 内面:ナデ	密 良好	明黄褐色、橙色	庇(側部)資料
258	58	D65 黒褐色土	土製品 移動式竈	— —	△5.0	外面:ナデ 内面:内面ケズリ 体部内面粗雑なナデ、指頭圧痕	密 良好	褐灰色	焚口・底部資料
259	58	D65 黒褐色土	瓦質土器 甕	— —	△6.95	外面:縁彩文状叩き 内面:ナデ	密 良好	褐灰色、灰白色	
260	59	I70 II層	土師器 坏	*12.9 —	△2.4	外面:磨耗のため調整不明 内面:磨耗のため調整不明	密 良好	橙色	
261	59	J72 II層	土師器 坏	— *9.8	△1.7	外面:回転ナデ 底部ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ	密 良好	橙色	
262	59	H71 II層	土師器 坏	*12.6 *7.7	3.6	外面:回転ナデ 底部回転系切り 内面:回転ナデ	密 良好	灰黄褐色、橙色	
263	59	北壁際Tr II層	土師器 坏	*8.4 *7.2	3.4	外面:ナデ 底部粗雑なヘラケズリ 内面:回転ナデ ナデ	密 良好	橙色	
264	59	北壁際Tr II層	土師器 皿	14.8 9.5	2.3	外面:回転ナデ 底部回転系切り 内面:回転ナデ 底部回転ナデ後不整方向ナデ	密 良好	褐色、暗灰黄色	
265	59	J72 II層	土師器 片口鉢?	— —	△4.15	外面:磨耗のため調整不明 内面:磨耗のため調整不明	密 良好	橙色	内外面赤色塗彩

表23 坂長第7遺跡出土土器・陶磁器観察表(7)

遺物番号	挿図番号	遺構層位	種別器種	口径(cm) 底径(cm)	器高(cm)	特徴	胎土 焼成	色調	備考
266	59	E 67 II層	土師器 高坏	— —	△6.6	外面:脚部ケズリ 脚部ナデ 内面:ケズリ	密 良好	にぶい橙色	外面赤色塗彩
267	59	I 71 II層	土師器 脚部資料	— *9.2	△2.6	外面:回転ナデ 上端剥離面を呈する。 内面:回転ナデ	密 良好	にぶい橙色	内外面赤色塗彩
268	59	E 67 II層	須恵器 蓋	*12.0 —	△2.1	外面:回転ナデ つまみ痕跡有り 内面:回転ナデ 天井部回転ナデ後不整方向ナデ	密 良好	灰色	
269	59	SD 2 埋土	須恵器 蓋	— —	△2.0	外面:回転ヘラケズリ後回転ナデ つまみ痕跡有り 内面:回転ナデ 墨痕有り	密 良好	灰色	
270	59	F 66 II層	須恵器 蓋	*11.2 *11.6	1.9	外面:回転ナデ 天井部回転ヘラケズリ後回転ナデ 内面:回転ナデ	密 良好	灰色	蓋蓋か
271	59	F 68 II層	須恵器 坏	*12.8 —	△3.9	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	密 良好	灰色	
272	59	E 66・67 II層	須恵器 坏	— 8.05	△3.15	外面:回転ナデ 底部回転糸切り 内面:回転ナデ 底部回転ナデ後不整方向ナデ	密 良好	灰色	
273	59	J 72 II層	須恵器 坏	*10.9 *7.9	△0.7	外面:回転ナデ 底部回転糸切り 内面:回転ナデ 底部回転ナデ後不整方向ナデ	密 良好	灰色	
274	59	F 65 II層	須恵器 坏	*13.8 9.3	4.7	外面:回転ナデ 底部静止糸切り 内面:回転ナデ 口縁部~底部漆附着	密 良好	灰色	
275	59	H 71 II層	土師器 坏	*12.2 *7.8	△3.3	外面:磨耗のため調整不明 内面:底部押圧 他は磨耗のため調整不明	密 軟	灰色	
276	59	土師確認用Tr II層	須恵器 坏	*12.9 *8.3	△3.7	外面:回転ナデ 底部回転糸切り 内面:回転ナデ 底部回転ナデ後不整方向ナデ	密 やや軟	灰色	
277	59	H 67 II層	須恵器 坏	11.4 6.5	4.0	外面:回転ナデ 底部回転糸切り 内面:回転ナデ 底部回転ナデ後不整方向ナデ	密 やや軟	灰白色	
278	59	北壁際Tr II層	須恵器 坏	*13.9 —	△3.2	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	密 良好	外面:暗灰色 内面:灰白色	
279	59	F 66 II層	須恵器 高台付坏	— —	△2.6	外面:回転ナデ 底部ヘラ切り後ナデ、ヘラ記号有り 内面:底部回転ナデ後不整方向ナデ	密 良好	灰色	
280	59	F 68 II層	須恵器 高台付坏	— *8.4	△2.3	外面:回転ナデ 底部静止糸切り後回転ナデ 内面:回転ナデ後不整方向ナデ	密 良好	灰色	
281	59	F 68 II層	須恵器 高台付坏	— *7.7	△2.3	外面:回転ナデ 底部ヘラ切り後ナデ 内面:回転ナデ 底部回転ナデ後不整方向ナデ	密 良好	灰色	
282	59	F 69 II層	須恵器 高台付坏	— *9.2	△2.35	外面:回転ナデ 底部回転糸切り後ナデ 内面:回転ナデ 底部回転ナデ後不整方向ナデ	密 良好	灰色	
283	59	F 67 II層	須恵器 高台付皿	— *13.9	△1.3	外面:回転ナデ 底部回転ヘラケズリ後ナデ 内面:回転ナデ 底部回転ナデ後不整方向ナデ	密 良好	灰色	底部外面に刻書「東」か
284	59	SD 1 埋土	須恵器 円面規	*10.7 —	△2.6	視面径7.5cm 海幅1.4cm・深さ0.7cm 脚部透かし有り(形状不明) 他の調整:内外面回転ナデ	密 良好	灰色	
285	59	H 69・70・71 II層	須恵器 転用規	— *7.9	△2.0	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 底部磨耗(視面) 視面・体部・破面に墨痕	密 良好	灰色	高台付坏を転用 体部人為的打欠
286	59	F 67 II層	須恵器 転用規	— *7.8	△0.7	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ、底部磨耗(視面)	密 良好	灰色	坏を転用
287	59	H 69 II層	須恵器 転用規	— *10.0	△0.7	外面:回転ナデ 底部回転糸切り 内面:底部磨耗(視面)	密 良好	灰色	坏を転用
288	59	E 68 II層	須恵器 高台付坏	— *8.4	△2.9	外面:回転ナデ 底部回転ヘラケズリ後回転ナデ 内面:回転ナデ 底部に磨耗箇所有り、平滑化	密 良好	灰色	
289	59	F 66 II層	須恵器 高台付坏	— —	△1.85	外面:回転ナデ 底部静止糸切り後回転ナデ 内面:回転ナデ 底部磨耗箇所有り、平滑化	密 良好	橙色	高台人為的打欠
290	59	F 66 II層	須恵器 高坏	— —	△7.0	外面:回転ナデ 脚部上位に切込み(3箇所) 内面:坏部底部磨耗、平滑化 一部黒色化(墨痕か)	密 良好	外面:灰褐色、灰色 内面:灰色	
291	59	SD 1 埋土	須恵器 高坏	— *9.0	△6.25	外面:回転ナデ 脚部三角形透かし・切込み状透かし各1箇所 内面:回転ナデ 坏部底部に磨耗箇所有り、平滑化	密 良好	灰色	
292	59	SD 1 埋土	須恵器 高坏	— —	△5.5	外面:回転ナデ 脚部切込み状透かし1箇所 内面:回転ナデ 底部に磨耗箇所有り、平滑化	密 良好	灰色	
293	59	F 66 II層	須恵器 高坏	— —	△5.65	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ 坏部底部磨耗箇所有り、平滑化	密 良好	灰色	
294	59	C 65 II層	須恵器 壺	*17.3 —	△7.75	外面:口縁部~頸部回転ナデ、自然袖付着 内面:口縁部~頸部回転ナデ、自然袖付着 肩部同心円状当具痕	密 良好	灰色	
295	59	F 65 II層	須恵器 高台付壺	— *10.8	△3.2	外面:回転ナデ 底部調整不明 内面:回転ナデ	密 良好	灰色	
296	59	F 65 II層	須恵器 高台付壺	— *8.6	△4.3	外面:回転ナデ 底部回転ヘラケズリ後ナデ 内面:回転ナデ 底部漆附着	密 良好	灰色	
297	59	西壁際Tr II層	土師器 小片	— —	△1.3	外面:ナデ 内面:口縁部打欠 漆附着	密 良好	外面:にぶい橙色 内面:灰色	古墳時代前期壺の 破片を転用か
298	59	F 67 II層	土師器 壺	*30.3 —	△4.85	外面:ナデ 内面:口縁部ナデ 頸部以下ケズリ	密 良好	にぶい黄褐色	
299	60	G 67 II層	手づくね土器 壺もしくは甕	*6.9 —	△4.3	外面:ナデ 内面:口縁部ナデ 胴部粗雑なナデ	密 良好	灰黄色、灰色	
300	60	E 66 II層	手づくね土器 坏?	6.05 5.7	5.25	外面:粗雑なナデ 内面:粗雑なナデ	密 良好	黄灰色	
301	60	I 69 II層	土製品 紡錘車	最大長 △4.7 最大幅 △4.6	最大厚 0.85	粗いナデ調整 両面から錐状工具による穿孔(中途) 磨耗のため調整不明瞭	密 良好	にぶい橙色	未成品
302	60	F 68 II層	土製品 不明	最大長*5.05 最大幅 2.9	—	ケズリ、粗雑なナデ	密 良好	にぶい橙色	
303	60	F 65 II層	土製品 移動式竈 鹿部	最大高 △16.75 最大幅 △4.55	3.9	ナデ調整 焚口との接合部ナデ、指頭圧痕	密 良好	にぶい橙色、褐色	
304	60	東壁際Tr II層	土製品 土製支脚	6.05 5.7	5.25	外面:粗雑なナデ 内面:粗雑なナデ	密 良好	灰黄褐色	

表24 坂長第7遺跡出土瓦類観察表

遺物 番号	挿図 番号	遺構 層位	種別	厚さ(cm)	重量(g)	文様・調整	胎土 焼成	色調	備考
187	50	SX 1 埋土	平瓦	1.7	62	凸面:正格子タタキ 凹面:布目 模骨痕、糸切痕有り	2~4mmの砂粒を含む 須恵質(硬質)	灰色	
188	50	SX 1 埋土	平瓦	2.7	31.8	凸面:正格子タタキ、やや重複が激しい 凹面:布目	4~5mmの砂粒を含む 土師質(やや硬質)	黄灰色	
305	61	北側トレンチ II層	軒丸瓦	2.0	90	瓦当文様:単弁八弁蓮華文(坂中廃寺I類と同范) 瓦当裏面:粗いナデ	赤橙色の砂粒を含む 土師質(軟質)	淡黄灰色	口径17cm前後
306	61	E 66 II層	軒丸瓦	4.4	620	瓦当文様:単弁八弁蓮華文(坂中廃寺II類と同范) 瓦当裏面:丁寧なケズリ後ナデ 側面調整ケズリ	1mm以下の砂粒を含む 土師質(硬質)	黒褐色	口径13.6cm前後
307	61	F 68 II層	軒丸瓦	2.65	115	瓦当文様:複弁八弁蓮華文(大寺廃寺III類と同范か) 瓦当裏面:丁寧なナデ	1mm以下の砂粒を含む 土師質(やや硬質)	淡赤橙色	口径17cm前後
308	61	G 69 現代用水路	丸瓦	2.3	240	凸面:スリ消し? 凹面:布目	1mm程の砂粒を含む 土師質(硬質)	黄灰色~赤褐色	
309	61	南東壁トレンチ II層	丸瓦	1.8	160	凸面:スリ消し? 凹面:布目?摩滅が著しい	2~3mmの砂粒を含む やや須恵質(軟質)	灰白色	
310	61	G 70 現代用水路	丸瓦	1.8	90	凸面:スリ消し 凹面:布目	1mm以下の砂粒を含む 須恵質(硬質)	灰白色	
311	61	南壁トレンチ II層	丸瓦	1.85	140	凸面:磨耗により調整不明 凹面:布目	4mmの砂礫を含む 須恵質(やや硬質)	灰白色	
312	61	J 2 III層	平瓦	2.2	340	凸面:正格子タタキ 凹面:布目	1mm程の砂粒を含む 須恵質(やや軟質)	灰白色	
313	61	4 Tr 北側 現代用水路	平瓦	1.8	350	凸面:正格子タタキ 凹面:布目 模骨痕明瞭	3~4mmの砂粒を含む 須恵質(硬質)	灰色	
314	61	南東壁トレンチ II層	平瓦	2.6	223	凸面:正格子タタキ 凹面:布目	1mm程の砂粒を含む やや須恵質(軟質)	黒褐色	
315	61	北壁トレンチ 現代用水路	平瓦	1.9	260	凸面:正格子タタキ 凹面:布目	3~5mmの砂粒を含む 須恵質(硬質)	灰色	
316	61	F 64 SD 1	平瓦	1.55	113	凸面:正格子タタキ 凹面:布目	2~3mmの砂粒を含む 須恵質(硬質)	灰白色	
317	61	D 64 黒色土	平瓦	1.7	90	凸面:正格子タタキ 凹面:布目	2~3mmの砂粒を含む 須恵質(硬質)	灰白色	
318	62	F 67 II層	平瓦	1.65	210	凸面:正格子タタキ 凹面:糸切痕残	1mm以下の砂粒を含む 土師質(やや軟質)	淡黄灰色	
319	62	F 66 II層	平瓦	1.6	120	凸面:正格子タタキ 凹面:布目	1mm程の砂粒を含む 須恵質(やや硬質)	淡灰白色	
320	62	J 70 II層	平瓦	2.0	90	凸面:正格子タタキ 凹面:布目	1mm以下の砂粒を含む 須恵質(硬質)	灰色	
321	62	G 65 II層	平瓦	1.6	38	凸面:正格子タタキ 凹面:布目	1mm程の砂粒を含む 須恵質(硬質)	灰白色	
322	62	G 68 現代用水路	平瓦	2.5	140	凸面:縄タタキ 凹面:布目	1mm程の砂粒を含む やや須恵質	黒灰色	
323	62	F 64 SD 1	平瓦	2.4	350	凸面:縄タタキ 凹面:布面	1~2mmの砂粒を含む 土師質(やや硬質)	黄灰褐色	
324	62	東側トレンチ II層	平瓦	2.95	175	凸面:平行タタキ 凹面:布目	1mm程の砂粒を含む 土師質(やや硬質)	淡黄灰色	

表25 坂長第7遺跡出土木器観察表(1)

遺物 番号	挿図 番号	遺構/グリッド 層位	器種	法量(cm)		樹種	備考
				長	幅		
W1	63	SD12 埋土	斧直柄	長△6.5	幅△3.2 厚△2.4	ヤブツバキ	
W2	63	SD25 埋土	直柄平鍬 身	長11.8	幅△4.0 厚1.4	常緑カシ類	
W3	63	SD12 埋土	曲柄又鍬 身	長△39.5	幅△9.55 厚1.1	常緑カシ類	
W4	63	SD12 埋土	曲柄又鍬 身	長△30.3	幅△3.0 厚1.1	常緑カシ類	
W5	63	SD12 埋土	曲柄又鍬 身	長△13.55	幅△2.1 厚0.9	常緑カシ類	
W6	63	SD12 埋土	曲柄又鍬 身	長△10.5	幅△2.5 厚1.1	常緑カシ類	
W7	63	I 71 Ⅲ層	曲柄鍬身か	長△27.5	幅△6.0 厚1.0	常緑カシ類	
W8	63	G64 Ⅲ層	田下駄 足板	長△30.7	幅△7.1 厚1.3	スギ	
W9	63	G65 Ⅲ層	木庖丁	長△13.1	幅5.4 厚1.0	ヤマグワ	
W10	63	SD15 埋土	木庖丁	長△9.35	幅5.2 厚1.1	ヤマグワ	
W11	63	H66 Ⅲ層	木鍬	長6.8	最大幅0.9	スギかヒノキ	
W12	63	SD15 埋土	竪櫛	長5.15	幅10.0 厚0.4		
W13	63	SD12 埋土	匙	長△9.6	身幅△2.5 身深1.6	針葉樹材	
W14	63	F68 Ⅲ層	槽もしくは盤?	長△8.3	幅△2.4 厚△2.6	スギ	
W15	63	SD15 埋土	不明	長14.6	幅△4.2 厚△2.1	ヤマグワ	
W16	63	SD29 埋土	不明	長△18.3	幅2.8 厚1.5	スギ	
W17	64	SD12 埋土	梯子	長△107.1	幅14.5 厚△7.1	トチノキ	
W18	64	SD12 埋土	垂木か	長△112.5	幅△4.2 厚△3.6	ヤブツバキ	
W19	64	SD12 埋土	杭	長△67.3	幅7.6 厚△6.1	常緑カシ類	
W20	64	SD12 埋土	杭	長△85.9	幅△5.5 厚△5.1	針葉樹材	
W21	65	SD12 埋土	不明	長△120.3	幅△13.0 厚△1.9	モミ	
W22	65	SD14 埋土	不明	長△66.1	幅△8.9 厚△3.2	スギ	
W23	65	SD12 埋土	不明	長△62.2	幅△14.2 厚△2.4	オニグルミ	
W24	66	SX 2 埋土	斧膝柄	長47.95	斧台長9.8 斧台幅3.9 斧身装着部幅2.4 柄径1.95	サカキ	
W25	66	西壁際Tr Ⅱ層	田下駄 足板	長△38.3	幅△7.9 厚2.4	広葉樹材	
W26	66	SX 1 埋土	田下駄 足板	長△33.7	最大幅10.2 最大厚2.2	スギ	
W27	66	西壁際Tr Ⅱ層	田下駄部材?	長△12.1	幅△5.5 最大厚2.3	スギ	
W28	66	H71 Ⅱ層	鋤柄	長△21.2	把手幅△6.5 柄径*2.4	ヤマグワ	
W29	66	SX 3 埋土	網杵か	長14.65	幅4.1 最大厚1.6	イヌマキ?	
W30	66	F 64 Ⅱ層	不明	長△22.45	幅△10.0 厚1.85	イヌマキ?	
W31	67	SX 3 埋土	杓子形木器	長△21.6	身幅△4.5 柄幅2.5 厚0.7	スギ	
W32	67	F 65 Ⅱ層	曲物 盖板		径19.0 厚0.7	ヒノキ?	
W33	67	SD11 埋土	曲物 盖板		径15.5 最大厚0.7	ヒノキ	
W34	67	E66 Ⅱ層	曲物 底板		径*20.4 最大幅19.6 厚0.9	ヒノキ	
W35	67	H68 Ⅱ層	曲物 底板		径*24.0 厚0.9	ヒノキ?	
W36	67	G69 Ⅱ層	曲物 底板	長△22.6	幅△6.0 厚1.05	スギ	
W37	67	SD11 埋土	曲物 底板		径*16.6 最大厚△0.7	ヒノキ	
W38	67	SX 3 埋土	曲物 底板または蓋板	長△17.0	幅△5.7 厚0.7 径*16.0	ヒノキ	
W39	67	I 69 Ⅱ層	曲物 底板または蓋板	長△13.6	幅△4.1 厚0.6 径*15.2	ヒノキ	
W40	67	F66 Ⅰ層	曲物 底板または蓋板		径9.0 厚0.6	スギ	
W41	67	H66 Ⅱ層	曲物 底板または蓋板	長△5.5	幅△3.2 厚0.6 径*11.0	スギ?	
W42	67	E65 Ⅱ層	円板		径8.75 厚0.8	針葉樹材	
W43	67	I 68 Ⅱ層	不明	長△10.4	幅△3.3 厚0.7	スギ	
W44	67	G66 Ⅱ層	不明	長△22.6	幅△1.6 厚1.9	スギ	
W45	67	F66 Ⅱ層	皿	口径*9.0	底径- 器高1.2	タブノキ	
W46	67	I 72 Ⅱ層	漆器 椀	口径-	底径*8.0 器高△2.25	ケヤキ	外面黒色漆塗布 内面黒・赤色漆塗布
W47	67	F68 Ⅱ層	漆器 皿か	口径-	底径*6.0 器高△1.1	ケヤキ	内外面黒色漆塗布
W48	68	SX 3 埋土	人形か	長△6.9	幅△1.6 最大厚△0.3	ヒノキ?	

表26 坂長第7遺跡出土木器観察表(2)

遺物 番号	挿図 番号	遺構/グリッド 層位	器種	法量(cm)	樹種	備考	*復元値 △残存値	
W49	68	H71 I層	火鑽白	長△120 幅4.3 厚1.2	スギ			
W50	68	SX3 埋土	火鑽杵か	長△15.6 幅(径)1.2	スギ			
W51	68	SX3 埋土	火鑽杵か	長17.1 幅(径)1.3	広葉樹材			
W52	68	SD11 埋土	不明	長△23.0 幅(径)2.0	ヒノキ			
W53	68	SD6 埋土	不明	長△22.5 幅(径)2.0	ウツギ属			
W54	68	SX3 埋土	不明	長△23.6 幅△2.6 最大厚△1.6	スギ			
W55	68	SX3 埋土	不明	長9.85 最大幅1.65 最大厚1.55	スギ			
W56	68	SX3 埋土	不明	長11.15 最大幅1.9 最大厚1.8	スギかヒノキ			
W57	68	F64 II層	不明	長10.6 最大幅2.75 最大厚1.7	スギ			
W58	68	F64 II層	不明	長△13.3 最大幅2.5 最大厚1.9	スギ			
W59	68	F65 II層	不明	長7.8 最大幅2.0 最大厚1.6	ヒノキ			
W60	68	G67 II層	不明	長8.35 最大幅1.95 最大厚1.7	スギかヒノキ			
W61	68	SD11 埋土	不明	長△19.0 幅3.5 最大厚0.7	スギ	側辺は人為的に割った可能性有り。		
W62	68	F68 II層	針状製品	長15.3 最大幅0.7	スギ			
W63	68	西壁際Tr II層	不明	長△33.6 幅△6.0 厚1.0	スギ			
W64	68	E67 II層	不明	長△25.6 幅△4.6 厚0.8	スギ			
W65	68	I68 II層	へら状製品	長△6.9 身幅1.4 柄幅△0.4 最大厚0.4	スギ			
W66	68	SX3 埋土	不明	長14.5 幅10.7 最大厚2.5	スギ			
W67	68	I68 I層	不明	長△14.2 幅4.9 厚2.9	スギ?			
W68	68	SD11 埋土	樹皮	幅1.6~1.8 厚0.1	針葉樹材			
W69	69	SD11 埋土	串状木製品	長7.8 最大幅2.2 最大厚0.9		一方の端部:粗調整、尖り気味。炭化。 他方:切断		
W70	69	SD11 埋土	串状木製品	長9.9 最大幅2.8 最大厚1.1	ヒノキ	一方の端部:粗調整、尖り気味。炭化。 他方:切断		
W71	69	SX3 埋土	串状木製品	長10.45 最大幅2.35 最大厚2.35		一方の端部:粗調整、尖り気味。炭化。 他方:切断		
W72	69	SX3 埋土	串状木製品	長10.7 最大幅2.4 最大厚1.4		一方の端部:粗調整、炭化。 他方:切断		
W73	69	SD11 埋土	串状木製品	長13.1 最大幅1.5 最大厚2.0	スギ	一方の端部:粗調整、尖り気味。炭化。 他方:切断		
W74	69	SD11 埋土	串状木製品	長12.2 最大幅1.6 最大厚0.9	ヒノキ	一方の端部:粗調整、尖り気味。炭化。 他方:切断		
W75	69	SX3 埋土	串状木製品	長12.2 最大幅1.7 最大厚0.9		一方の端部:粗調整、尖り気味。炭化。 他方:粗切断		
W76	69	SX3 埋土	串状木製品	長9.7 最大幅1.9 最大厚1.65		一方の端部:粗調整、炭化。 他方:粗切断		
W77	69	SD11 埋土	串状木製品	長12.6 最大幅2.1 最大厚0.7		一方の端部:粗調整、尖り気味。炭化。 他方:粗切断		
W78	69	SD11 埋土	串状木製品	長14.6 最大幅2.8 最大厚1.1		一方の端部:粗調整、炭化。 他方:粗切断		
W79	69	SX1 埋土	串状木製品	長11.4 最大幅1.0 最大厚0.8	スギ	一方の端部:粗調整、尖り気味。炭化。 他方:切裂		
W80	69	SX3 埋土	串状木製品	長12.2 最大幅2.75 最大厚2.15		一方の端部:粗調整、炭化。 他方:粗切断		
W81	69	SD11 埋土	串状木製品	長22.3 最大幅2.6 最大厚0.9		一方の端部:粗調整、尖り気味。炭化。 他方:粗切断		
W82	69	SD11 埋土	串状木製品	長23.7 最大幅2.5 最大厚1.1		一方の端部:粗調整、尖り気味。炭化。 他方:粗切断		
W83	69	SD11 埋土	串状木製品	長21.8 最大幅3.1 最大厚1.2		一方の端部:粗調整、炭化。 他方:粗切断		
W84	69	SD11 埋土	串状木製品	長6.9 最大幅2.0 最大厚1.0		一方の端部:粗調整、尖り気味。炭化。 他方:不明		
W85	69	SD11 埋土	串状木製品	長8.4 最大幅3.3 最大厚1.5	広葉樹材?	一方の端部:尖り気味。炭化。枕先の転用か。 他方:粗切断		
W86	69	SX3 埋土	串状木製品	長9.4 最大幅1.3 最大厚1.2		一方の端部:粗調整、尖り気味。炭化。 他方:切裂		
W87	69	SD11 埋土	串状木製品	長21.1 最大幅1.5 最大厚1.2	スギ	一方の端部:粗調整、尖り気味。炭化。 他方:粗切断		
W88	69	SX3 埋土	串状木製品	長25.5 最大幅1.7 最大厚1.05		一方の端部:粗調整、尖り気味。炭化。 他方:切裂		
W89	69	SX3 埋土	串状木製品	長16.95 最大幅2.0 最大厚1.5		一方の端部:粗調整、尖り気味。炭化。 他方:切裂		
W90	69	SX3 埋土	串状木製品	長15.4 最大幅1.45 最大厚0.65		一方の端部:粗調整、尖り気味。炭化。 他方:粗調整、尖り気味。炭化。		
W91	69	SD11 埋土	串状木製品	長13.1 最大幅2.4 最大厚1.7		一方の端部:粗調整、尖り気味。炭化。 他方:粗調整、尖り気味。炭化。		
W92	69	SD4 埋土	串状木製品	長8.8 最大幅1.4 最大厚1.0		一方の端部:粗調整、尖り気味。炭化。 他方:粗調整、尖り気味。炭化。		
W93	70	I70 I層	建築部材か	長△13.2 幅8.3 最大厚5.0	スギ			
W94	70	SX3 埋土	杭	長△25.6 幅△10.4 厚△7.2	スギ	一方の端部に粗い切断痕跡有り。		

表27 坂長第7遺跡出土石器観察表

* 残存値

挿 図 番 号	地区名	遺構名	層位	器種	法量(cm) (g)				石材	備考
					長さ	幅	厚さ	重量		
71 S1	H67	SD12	埋土中	石鏃	2.46	1.87	0.39	1.1	黒曜石	
71 S2	H69	SD12	埋土下層	石鏃	2.97*	1.59	0.62	2.5*	安山岩	
71 S3	H69	SD12	埋土下層	石鏃	1.53	1.43*	0.34	0.4	黒曜石	
71 S4	H70	SD12	埋土中	石鏃未成品	2.22	2.06	0.45	1.5	黒曜石	
71 S5	H67	SD12	埋土下層	石鏃未成品	2.19	1.84	0.35	1.5	黒曜石	
71 S6	G66	SD12	埋土中	削器	9.2	7.2	0.9	52.5	安山岩	
72 S7	J70	SD15	埋土中	石鏃	2.28	1.52	0.32	0.9	安山岩	
72 S8	I69	SD15	埋土中	石鏃	1.44*	1.35*	0.25	0.3*	黒曜石	
72 S9	西壁Tr	SD15	灰色砂	石鏃	1.85*	1.47	0.27	0.7*	安山岩	
72 S10	I68	SD15	埋土中	二次加工剥片	3.36	3.01	1.07	7.6	黒曜石	
72 S11	J70	SD15	埋土中	削器	6.27	7.29	1.99	118.4	粘板岩	
72 S12	I69	SD15	埋土中	二次加工剥片	3.8	9.3	0.9	27.8	安山岩	
72 S13	I69	SD15	埋土中	敲石	6.3*	5.4	2.6	104.6*	石英安山岩	
72 S14	I69	SD15	埋土中	磨石	9.0	8.4	3.9	452.6	花崗岩	
72 S15	I69	SD15	埋土中	玉素材?	8.6	2.8	0.5	10.4	緑色凝灰岩	
72 S16	I68	SD15	埋土中	打製石斧?	18.2*	10.5	3.3	639.2*	多孔質片岩	
73 S17	G66	SD14	埋土中	石鏃	2.74	1.68	0.44	1.3	安山岩	
73 S18	G65	SD14	埋土下層	石鏃	2.33	1.40*	0.32	0.8*	安山岩	
73 S19	I71	SD16	埋土中	敲石	12.3*	3.8	3.3	252.5*	緑色片岩	
73 S20	J72	SD18	埋土中	打製石斧	12.6	7.2	2.0	212.8	板状安山岩	
73 S21	I70	SD17	埋土中	打製石斧	12.6	6.8	2.4	253.3	石英安山岩	
73 S22	I70	SD17	埋土中	敲石	13.5	6.5	3.3	370.7	多孔質凝灰岩	
74 S23	J71	SD11	埋土中	石鏃	2.74	1.97*	0.53	1.7*	安山岩	
74 S24	J71	SD11	埋土中	石鏃	2.29	1.43	0.37	0.9	安山岩	
74 S25	J72	SD11	埋土中	石鏃	1.70*	1.18*	0.29	0.4*	安山岩	
74 S26	J72	SD11	埋土下層	石鏃未成品	1.57*	1.31	0.28	0.5*	黒曜石	
74 S27	J72	SD11	埋土中	石鏃未成品	2.04	1.82	0.38	1.2	黒曜石	
74 S28	J72	SD11	埋土中	敲石	9.9*	6.9	5.4	467.7*	花崗岩	
74 S29	J71	SD11	埋土中	錘?	12.3*	7.5	3.9	629.3*	多孔質安山岩	
75 S30	G69	-	II-3層	石鏃	1.31	1.37	0.22	0.3	安山岩	
75 S31	H69	-	II-3層	石鏃	2.35*	1.60	0.30	1.0*	安山岩	
75 S32	H70	-	II-3層	石鏃	2.10	1.44*	4.20	0.7*	黒曜石	
75 S33	I68	-	III層	石鏃	1.03*	0.93	0.36	0.3	黒曜石	
75 S34	F66	-	III層上面	石鏃	3.41	1.95	0.51	1.9	黒曜石	
75 S35	H70	-	III層	石鏃	3.56	3.01	0.68	4.8	黒曜石	
75 S36	G69	-	II-3層	玉素材?	4.9	1.8	1.3	15.8	玉髓	
75 S37	-	-	IV層上面	削器	4.2	8.9	0.5	28.9	安山岩	
75 S38	I72・J72	-	IV層上面	削器	8.0	3.1	1.0	26.1	安山岩	
75 S39	E68	-	II-3層	線刻のある石製品	4.0	3.9	3.8	65.1	凝灰岩	
76 S40	西壁Tr	-	-	磨製石斧	11.8*	4.6	3.3	266.7*	緑色片岩	
76 S41	西壁Tr	-	-	磨製石斧	6.6*	5.4	2.9	99.3*	砂岩	
76 S42	G70	-	III層?	打製石斧未成品	14.7	10.8	2.1	436.5	凝灰質片岩	
76 S43	H71	-	IV層上面	打製石斧	10.6*	6.8	2.7	315.5*	凝灰質片岩	
76 S44	D64	-	攪乱	敲石	6.9*	5.4	3.9	205.6*	石英安山岩	
76 S45	北壁Tr	-	砂層	砥石	6.6	2.7	0.9	25.1	流紋岩	
76 S46	F64	-	I層	砥石	8.5*	4.5*	3.6*	124.6*	珪質頁岩	
76 S47	北壁Tr	-	-	砥石	7.8*	2.4*	4.9*	99.2*	流紋岩	
77 J1	I69	-	III層	管玉				0.6	碧玉	

表28 坂長第7遺跡出土金属製品観察表

遺物 番号	挿図 番号	遺構/地区名 層位	種 別 器 種	法量(cm)			特徴
C1	82	SD12 埋土	銅鏃	長 幅 厚 重量	3.7 1.9 0.16 2.5 g		
C2	83	H71 I層	銭貨	径	2.5	祥符元寶。北宋銭(初鑄年1008年)	
C3	83	H69 I層	銭貨	径	2.4	皇宋通寶。北宋銭(初鑄年1036年)	真書
C4	83	SD1 埋土	銭貨	径	2.2	熙寧元寶。北宋銭(初鑄年1068年)	篆書
C5	83	1Tr I層	銭貨	径	2.4	端平元寶。南宋銭(初鑄年1234年)	背元
C6	83	近現代用水路	銭貨	径	2.2	寛永通宝(新寛永)。薄手で、孔が大きい。18世紀後半~19世紀前半か。	

※中国銭の分類等、詳細については以下の文献を参考にした。
永井久美男 2002 『新版 中世出土銭の分類図版』 高志書院

図版

PLATE



長者原台地周辺空中写真 昭和43年撮影(鳥取県立博物館提供)



1. 調査地周辺の地形(1)(北西から)



2. 調査地周辺の地形(2)(南西から)



1. 調査地周辺の地形(3) (北東から)



2. 調査地全景 (左が北)



1. 2区土層堆積状況(南西から)



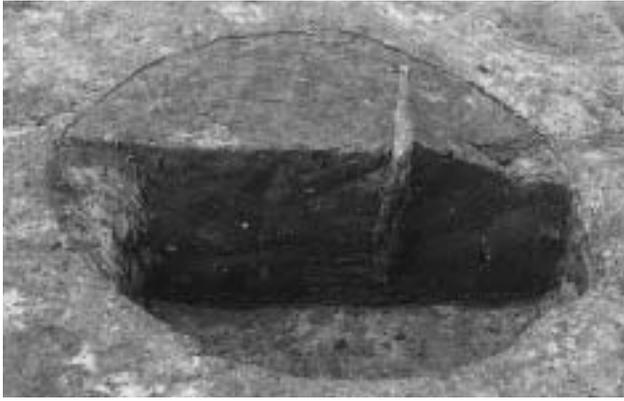
2. 2区西壁土層堆積状況(南東から)



1. 2区第1遺構面完掘全景(南東から)



2. SB1、P1完掘状況(南西から)



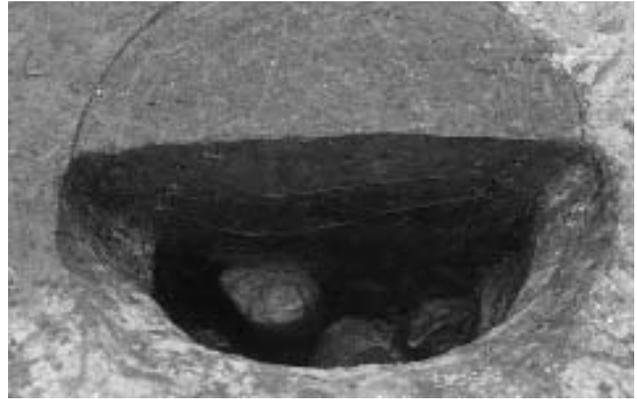
1. SB 1 P 3 土層断面 (南東から)



2. SB 1 P 1 土層断面 (南東から)



3. SB 1 P 2 礫検出状況 (北西から)



4. P 1 土層断面 (南東から)



5. SD12完掘状況 (東から)



1. SD12加工木材等出土状況(南東から)



2. SD12木製遺物出土状況(南東から)



1. SD12木製梯子出土状況
(北西から)



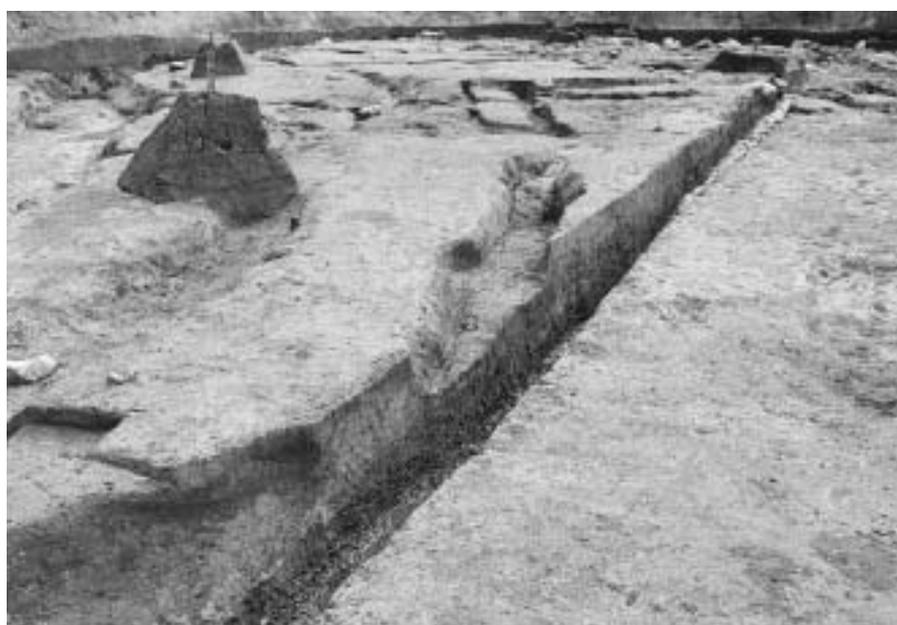
2. SD12銅鍬出土状況
(南東から)



3. SD12土層断面
(西から)



1. SD12・15・17
土層断面(東から)



2. SD13完掘状況
(北西から)



3. SD13土層断面
(東から)



1. SD14完掘状況
(南東から)



2. SD14土層断面(1)
(東から)



3. SD14土層断面(2)
(東から)



1. SD15~17完掘状況(南東から)



2. SD15木製縦櫛出土状況(南東から)



3. SD15玉作関連遺物出土状況(南東から)



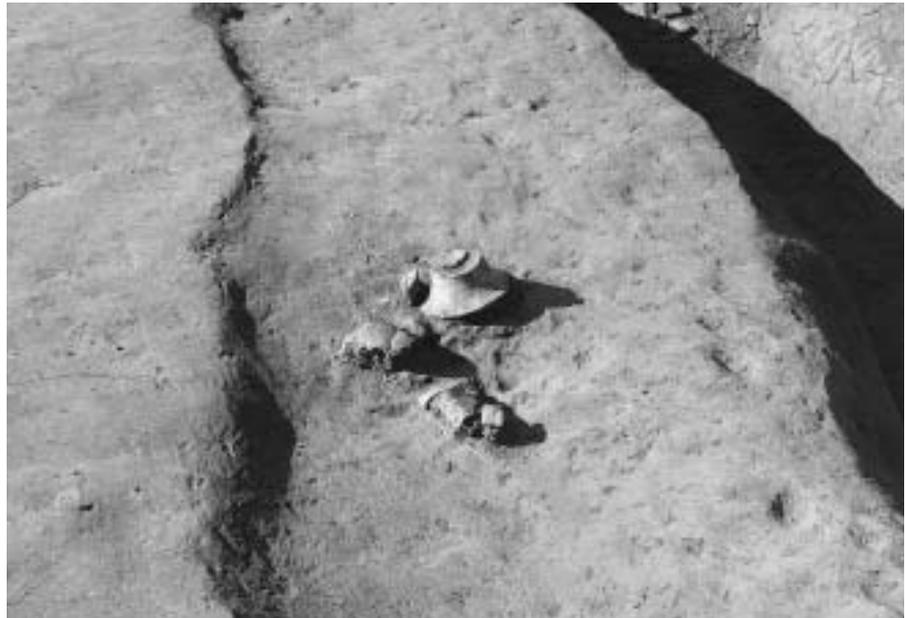
1. SD15木製遺物集積状況
(東から)



2. SD15土層断面(1)
(東から)



3. SD15土層断面(2)
(東から)



1. SD16土器出土状況(1)
(南東から)



2. SD16土器出土状況(2)
(東から)



3. SD16土層断面
(南東から)



1. SD17木製遺物検出状況
(1) (南西から)



2. SD17木製遺物検出状況
(2) (南東から)



3. SD17杭打設痕跡
(西から)

1. SD17遺物出土状況
(東から)



2. SD16・17土層断面
(東から)



3. SD17土層断面
(南東から)





1. SD18完掘状況
(北東から)



2. SD18・19土層断面
(北東から)



3. SD19土層断面
(南から)



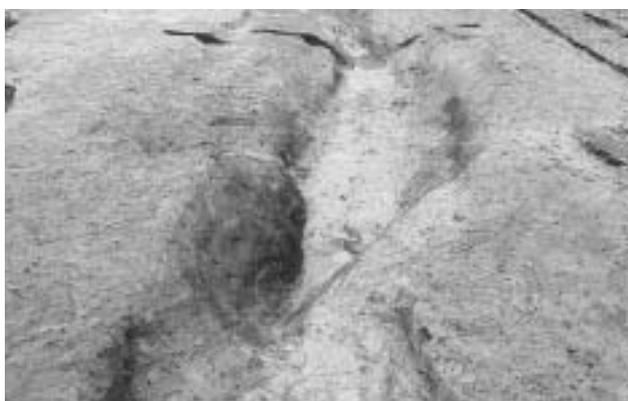
1. SD20土層断面(西から)



2. SD21土層断面(北西から)



3. SD25完掘状況(南東から)



4. SD26完掘状況(北西から)



6. SD27完掘状況(南東から)



5. SD26土層断面(南東から)



7. SD27土層断面(東から)



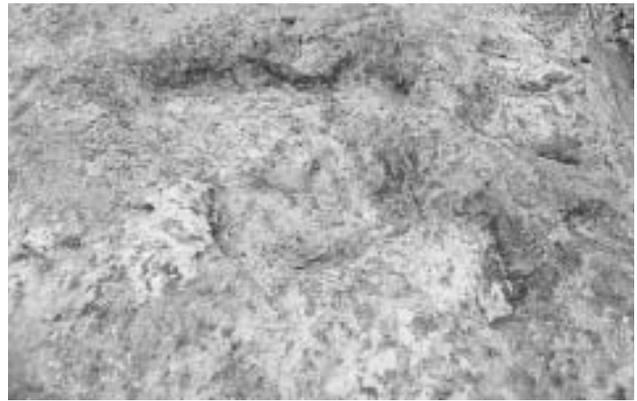
1. SD28土層断面(西から)



2. SD29完掘状況(北東から)



3. SD29土層断面(北西から)



4. SK 1 完掘状況(北東から)



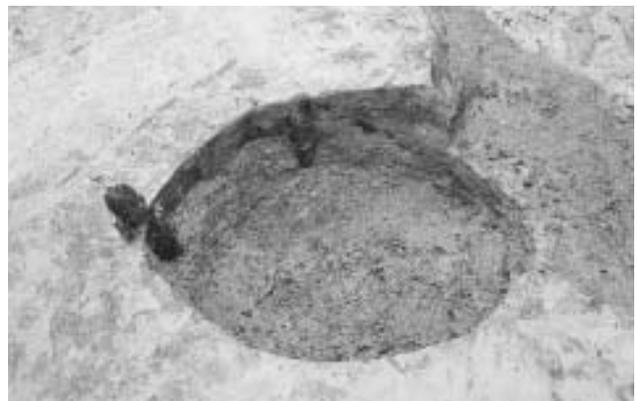
5. SK 1 土層断面(西から)



6. P 2 完掘状況(南東から)



7. P 2 土層断面(南東から)



8. P 3 完掘状況(北西から)



1. 1区西壁トレンチ
土層断面(北東から)



2. 1区中央トレンチ
土層断面(北東から)



3. 1区東壁トレンチ
土層断面(北から)



1. 1区完掘全景(1)(南東から)



2. 1区完掘全景(2)(南から)



1. SS1 完掘状況(南東から)



2. SS1 土師器高坏出土状況(南東から)



3. SS1 土層断面(東から)



1. 2区第2遺構面完掘全景(南東から)



2. SD3完掘状況(北西から)



3. SD3土層断面(南東から)



4. SD4土層断面(南東から)



5. SD5土層断面(1)(南東から)



1. SD5土層断面(2)(東から)



2. SD6土層断面(南東から)



3. SD5・7土層断面(南東から)



4. SD7土層断面(東から)



5. SD8・10土層断面(東から)



6. SD10土層断面(南西から)



7. SD9完掘状況(南西から)



8. SD9土層断面(南西から)



1. SD11完掘状況
(南西から)



2. SD11遺物出土状況(1)
(西から)



3. SD11遺物出土状況(2)
(南東から)

1. SD11遺物出土状況(3)
(北から)



2. SD11土層断面
(北東から)



3. SD11検出状況
(東から)





1. SX 1、SD 4・8・10完掘状況(南西から)



2. SX 1完掘状況(西から)



1. SX1 須恵器坏出土状況(南西から)



2. SX1 土層断面(1)(南西から)



3. SX1 土層断面(2)(南西から)



4. SX1 土層断面(3)(南西から)



5. SX2 完掘状況(東から)



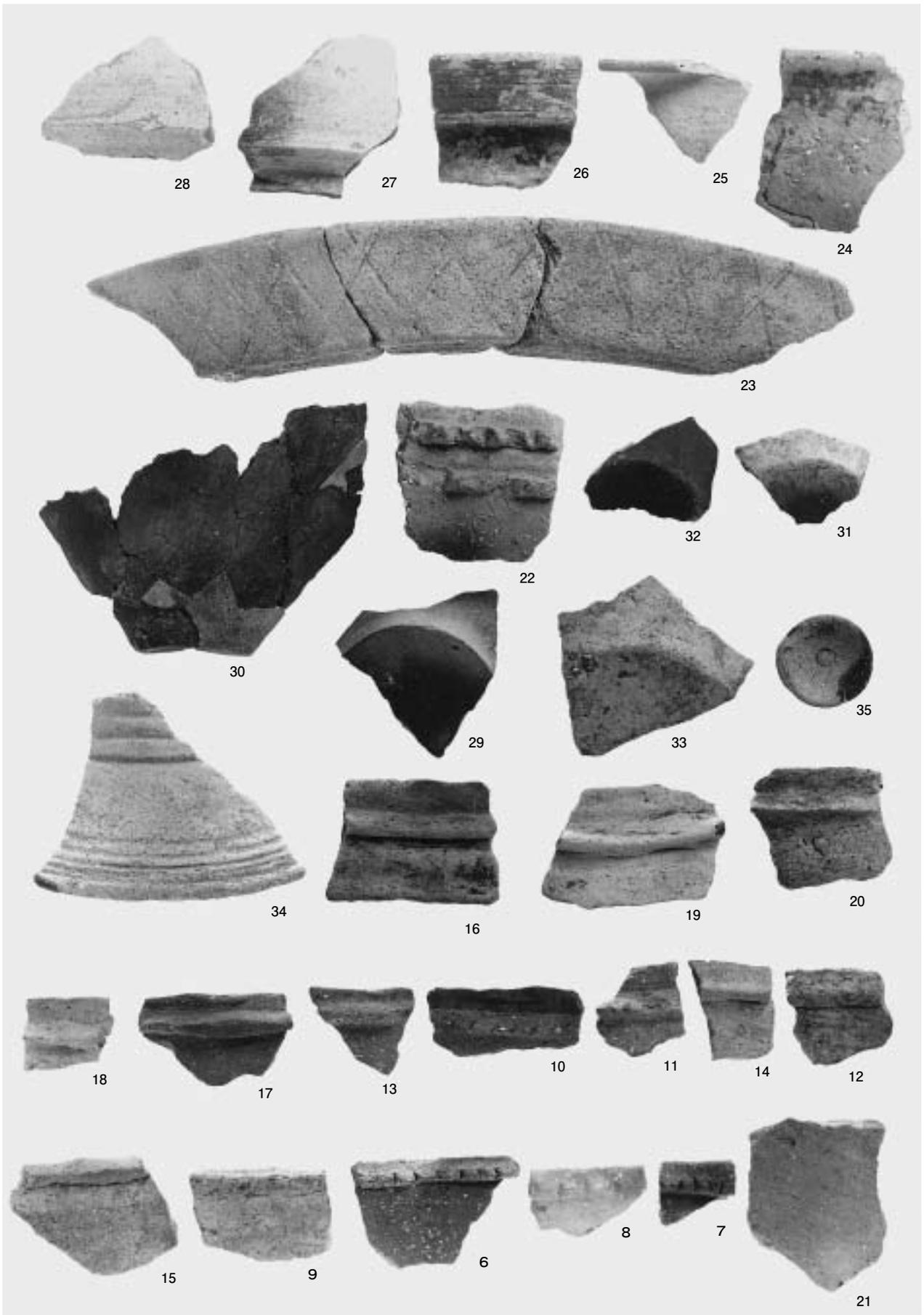
6. SX2 木製品(斧膝柄)出土状況(東から)



7. SD1・2 土層断面(東から)



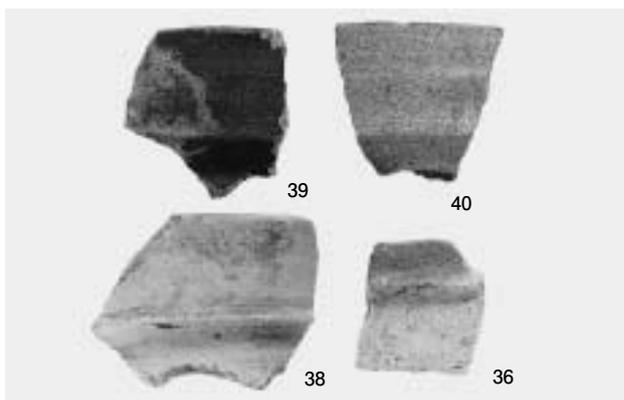
8. SD1・2、近現代用水路土層断面(南から)



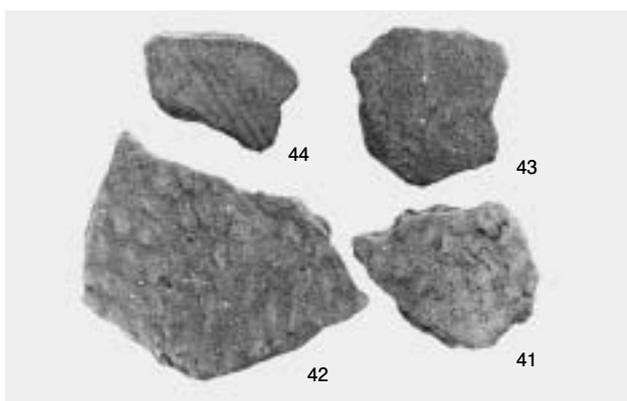
SD12出土土器・土製品



1. SD14出土土器(1)



2. SD14出土土器(2)



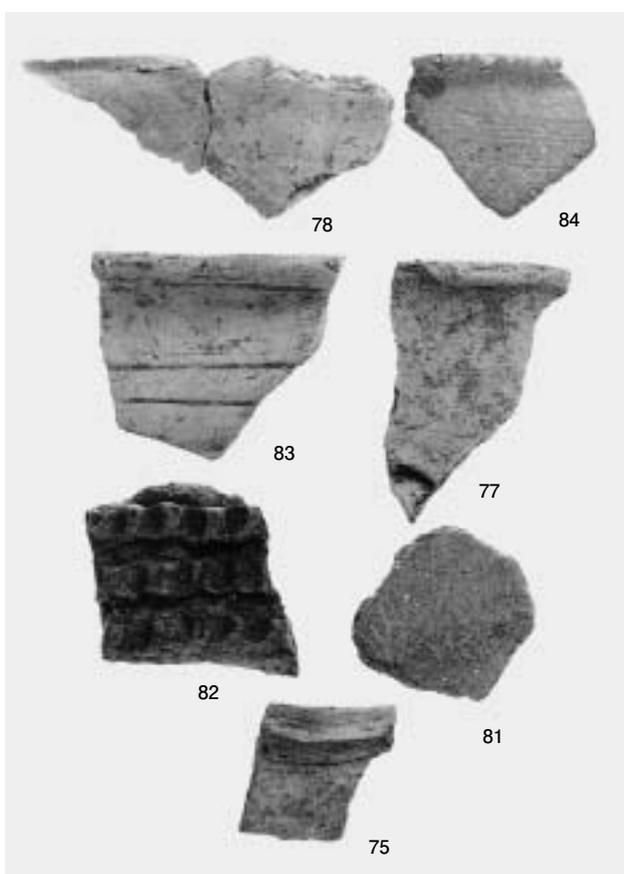
3. SD15出土土器(1)



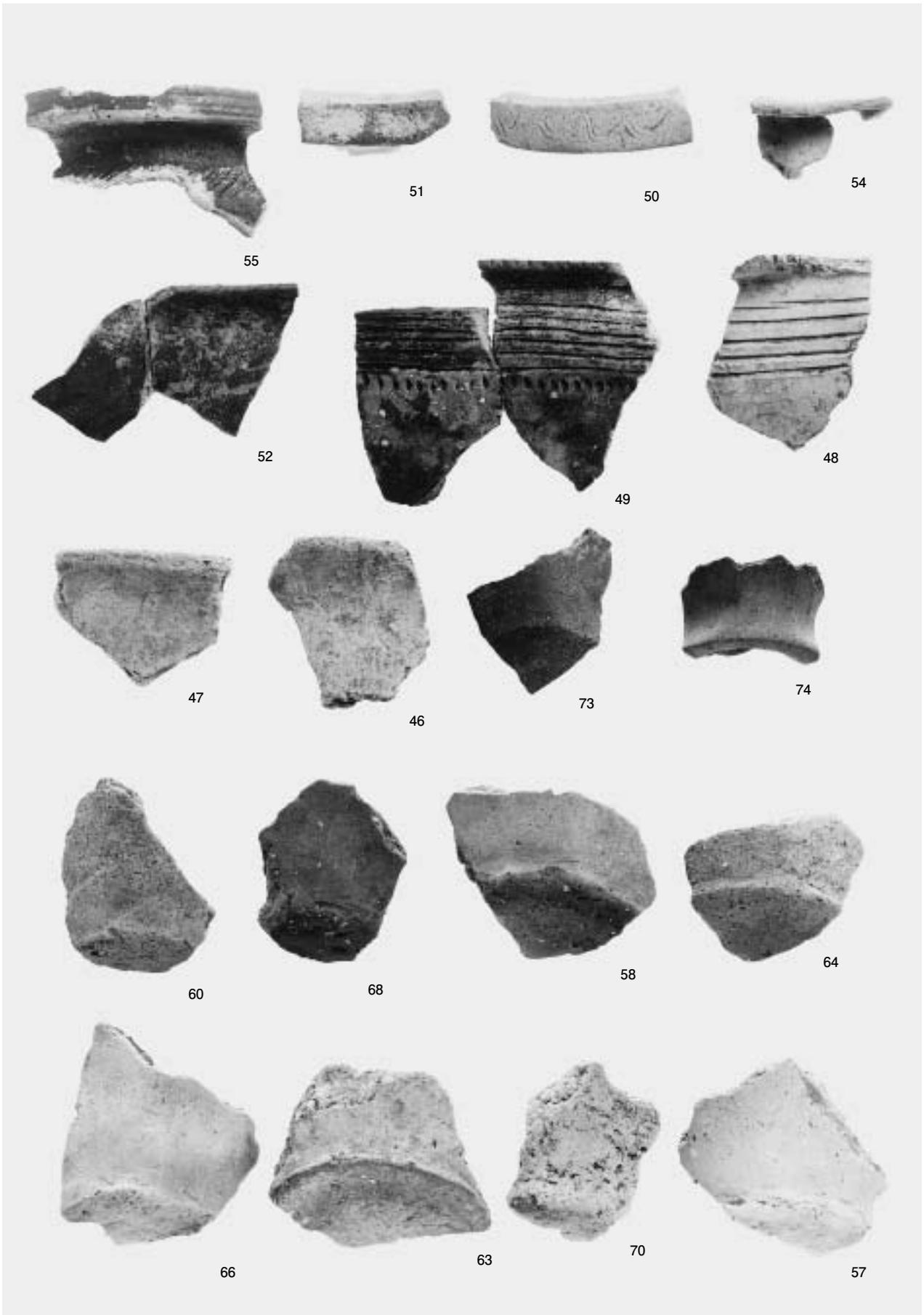
4. SD15出土土器(2)



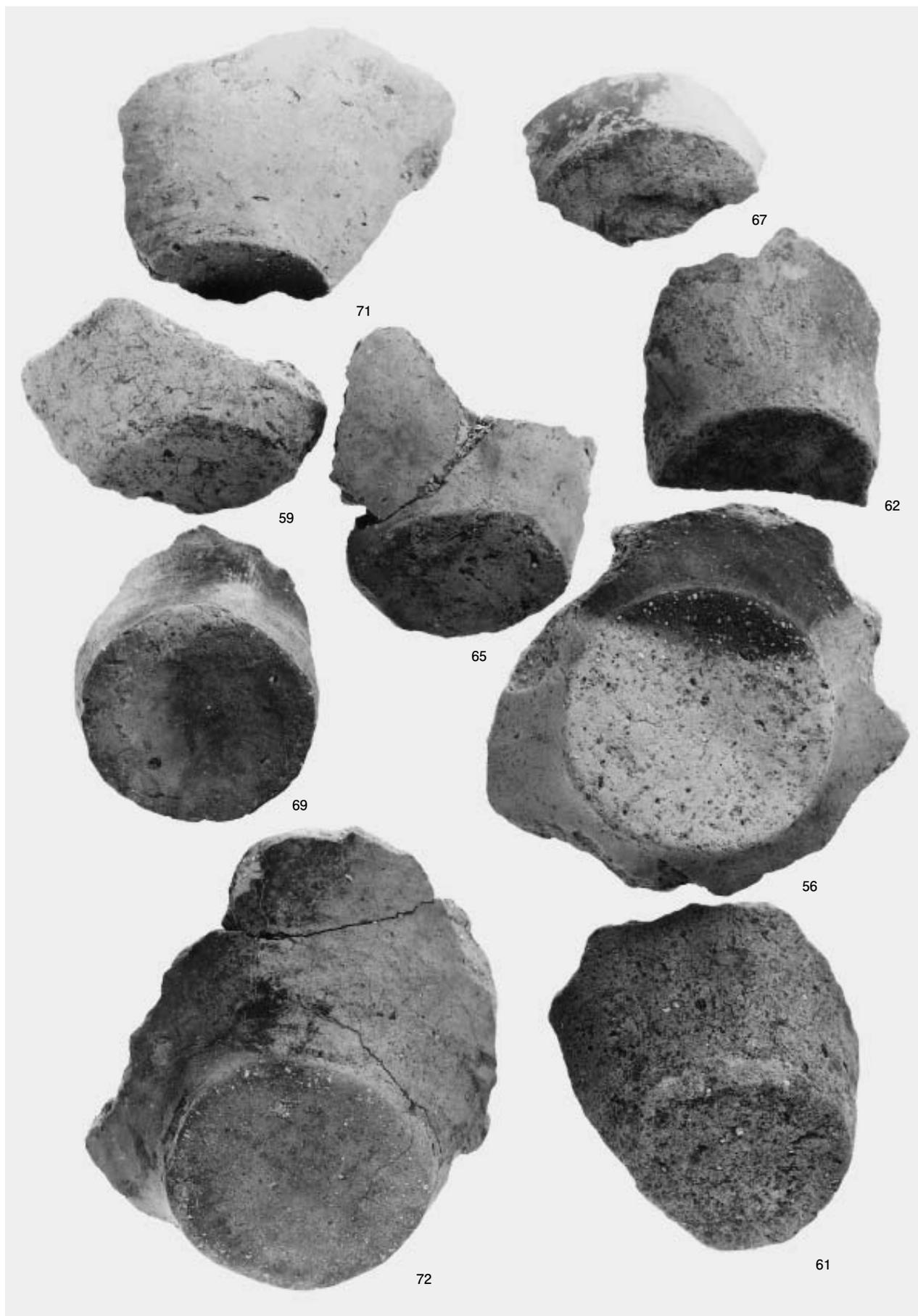
5. SD16出土土器(1)



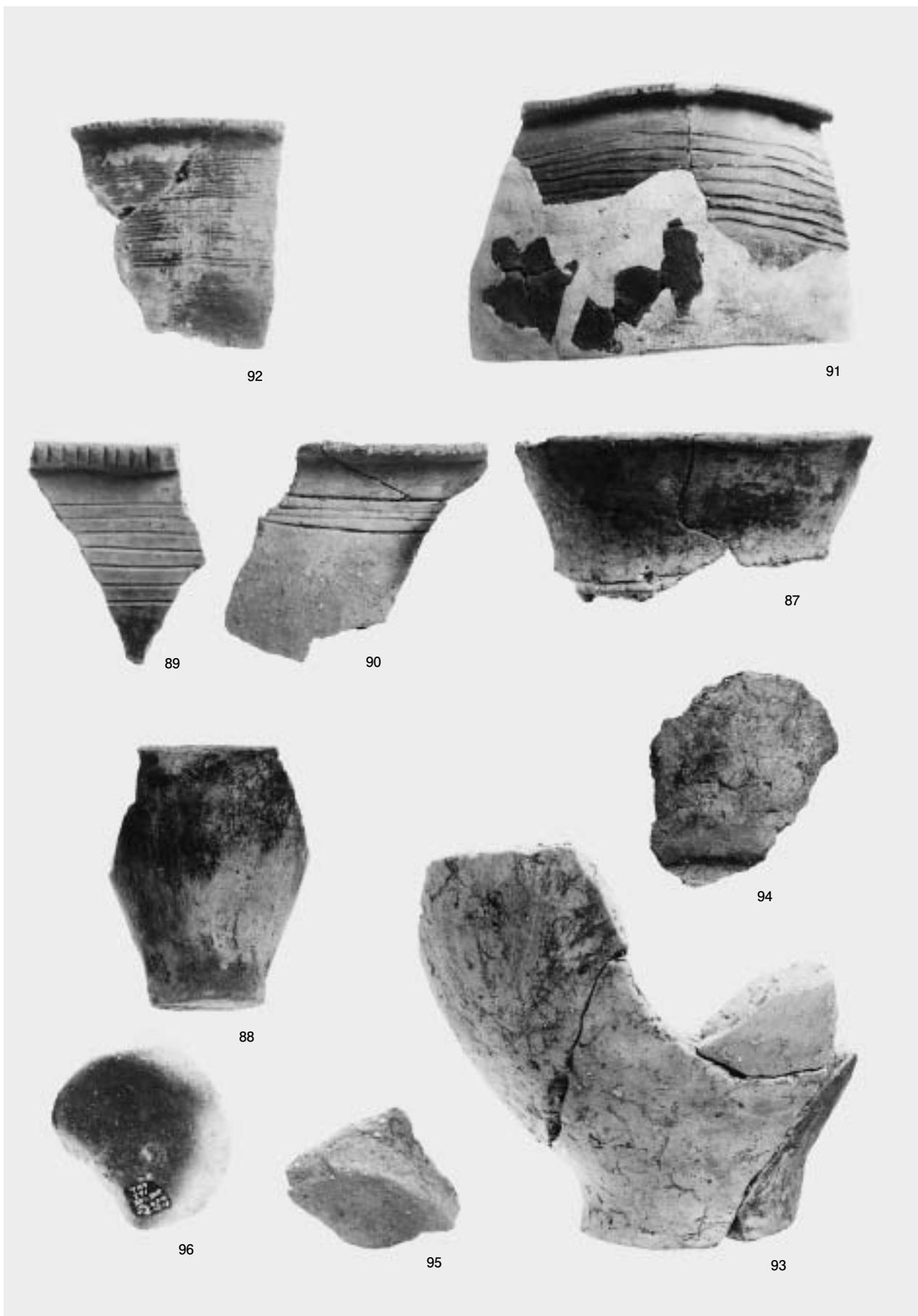
6. SD16出土土器(2)



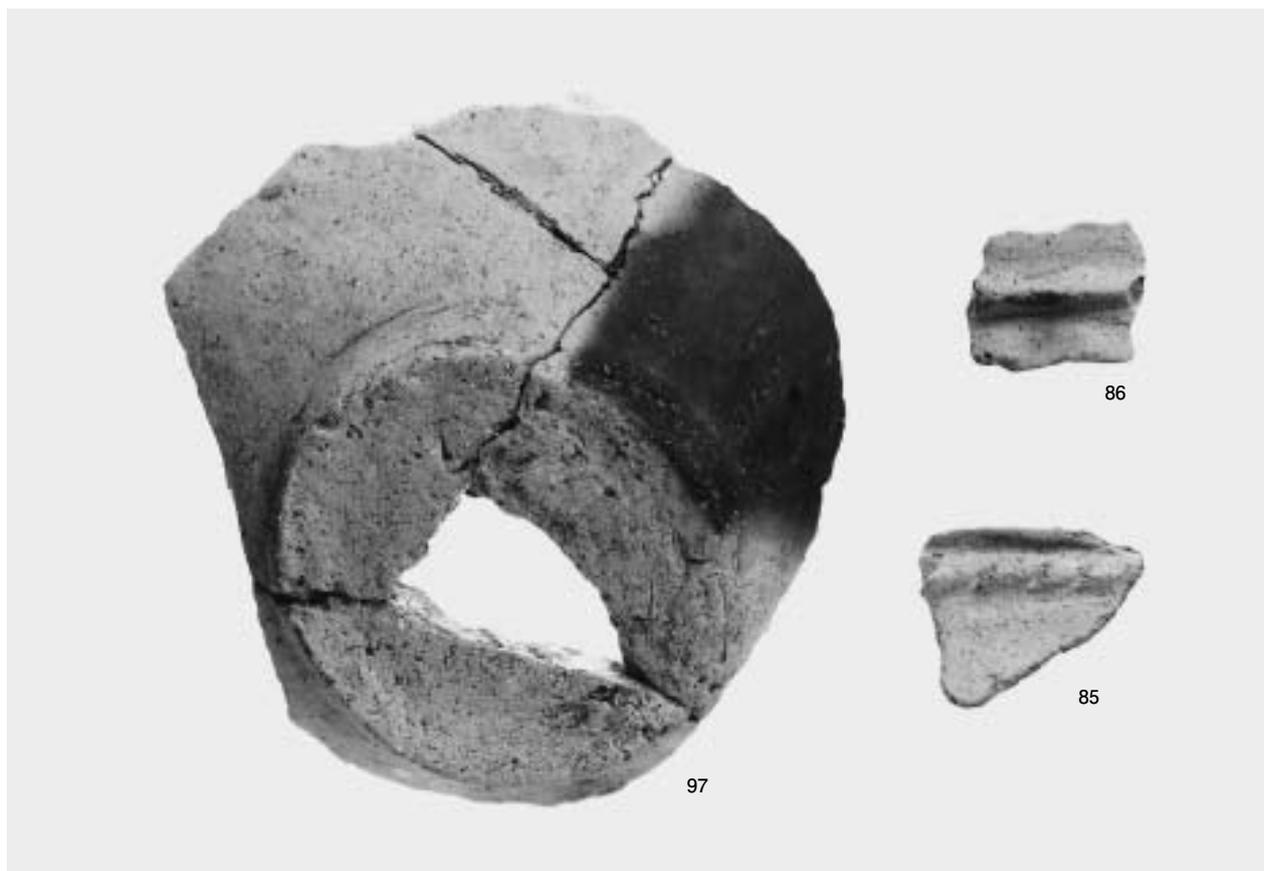
SD15出土土器(3)



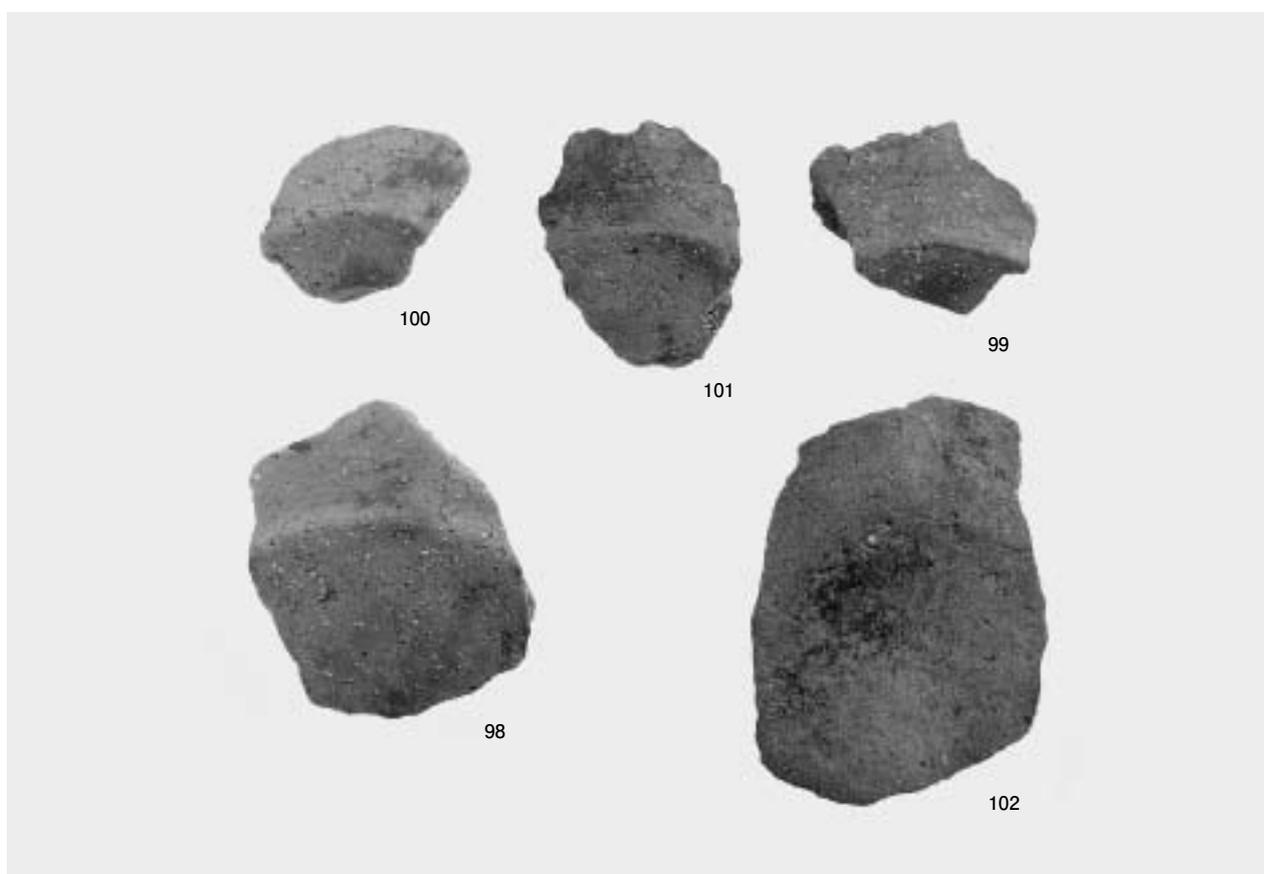
SD15出土土器(4)



SD17出土土器(1)



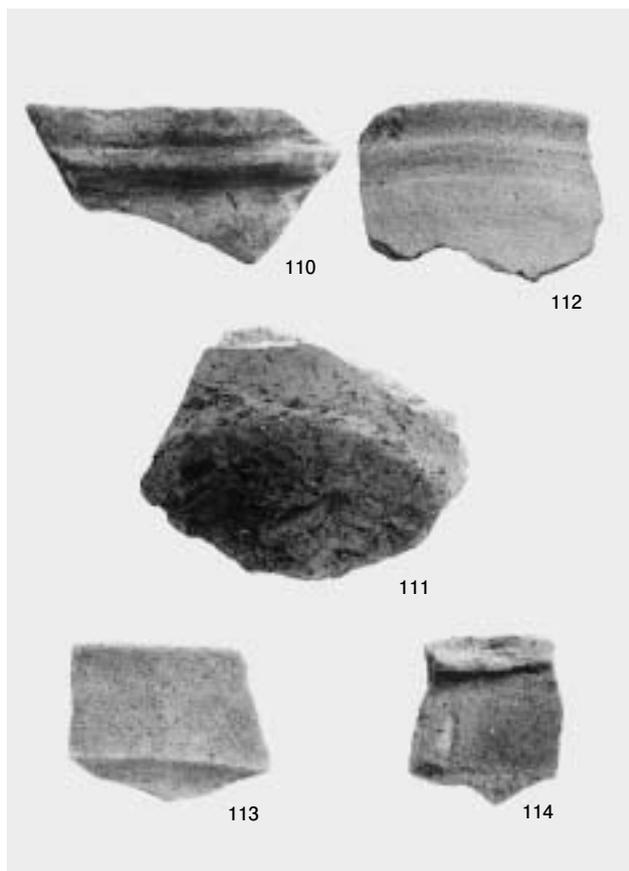
1. SD17出土土器(2)



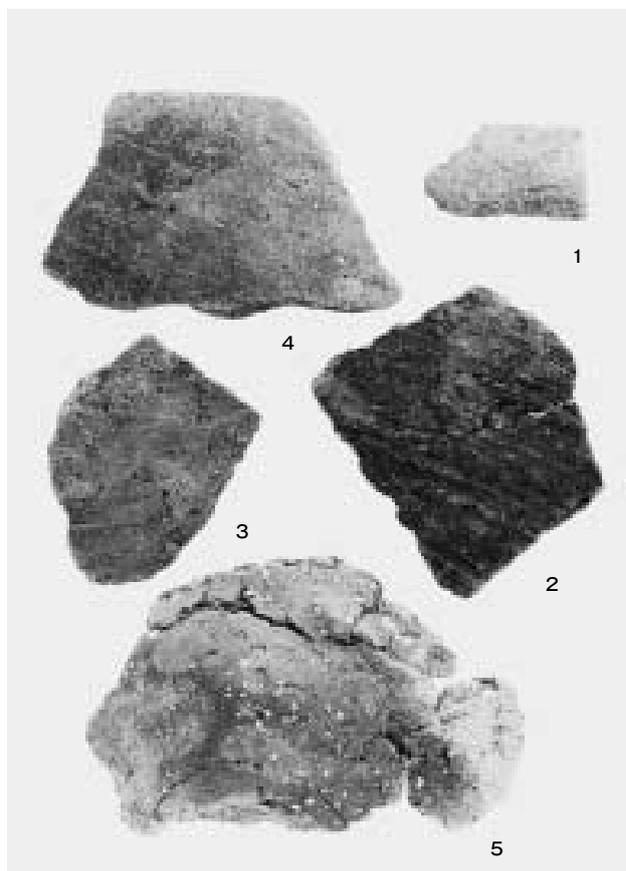
2. SD18出土土器



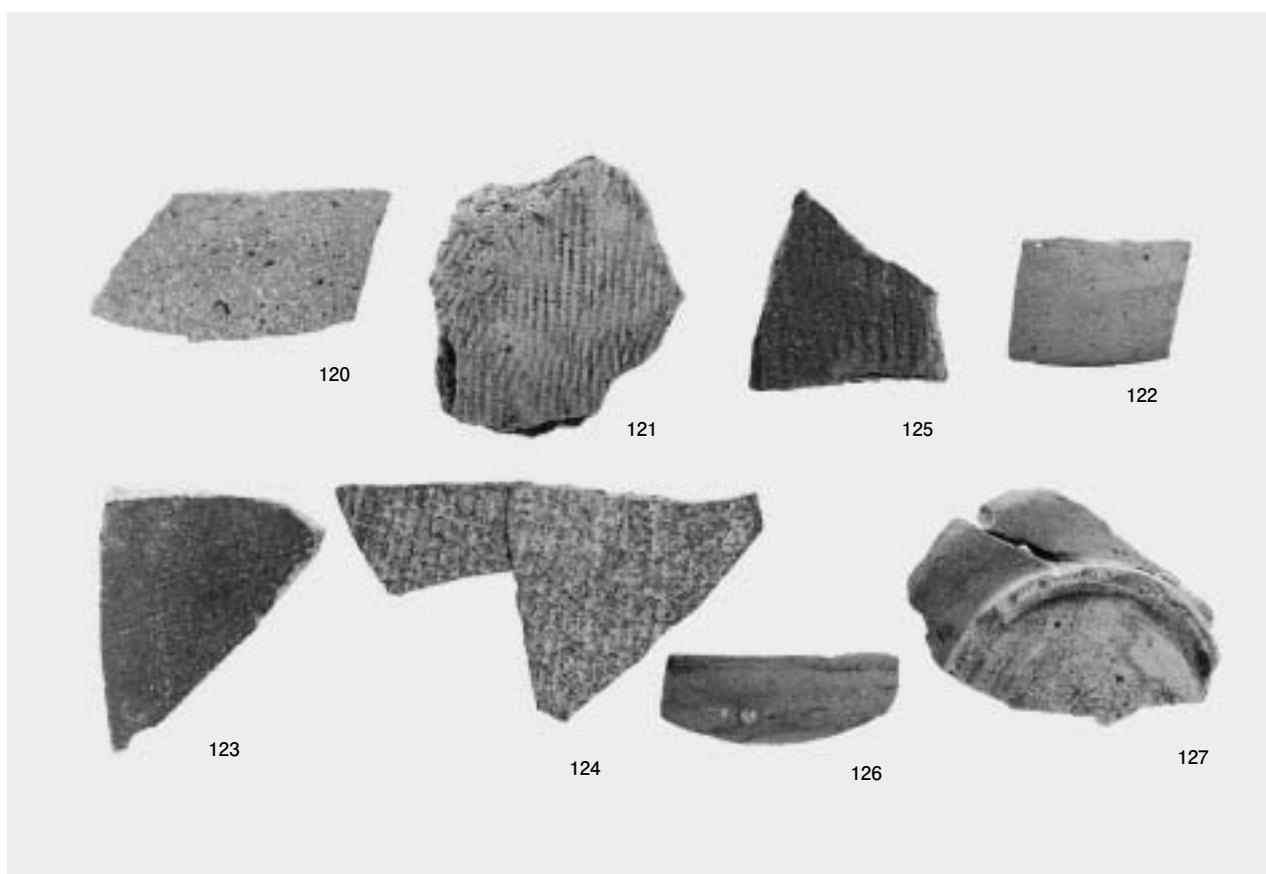
SD19出土土器



1. SD25・28、P3出土土器



2. SB1出土土器



3. SD3・4・6・8・9出土土器









136



137



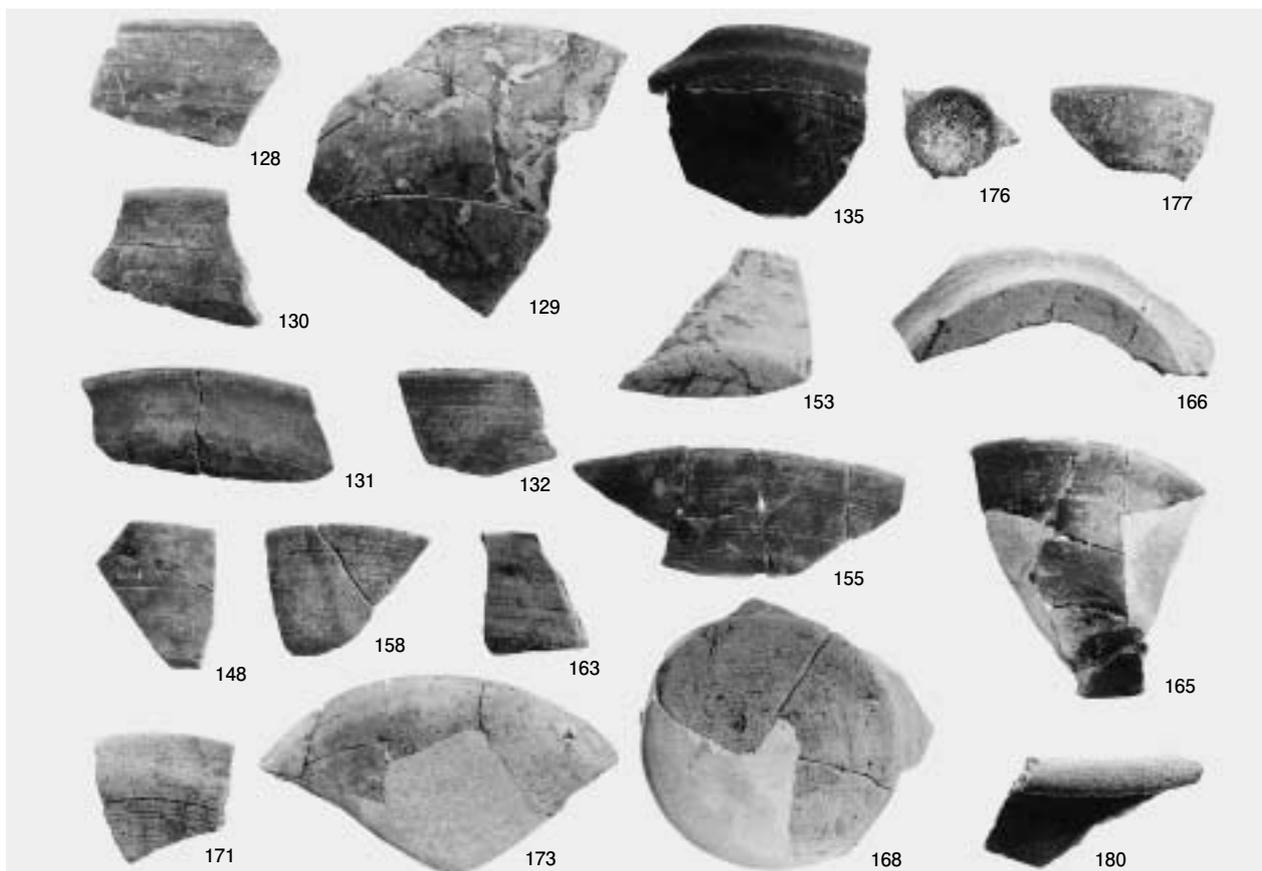
140



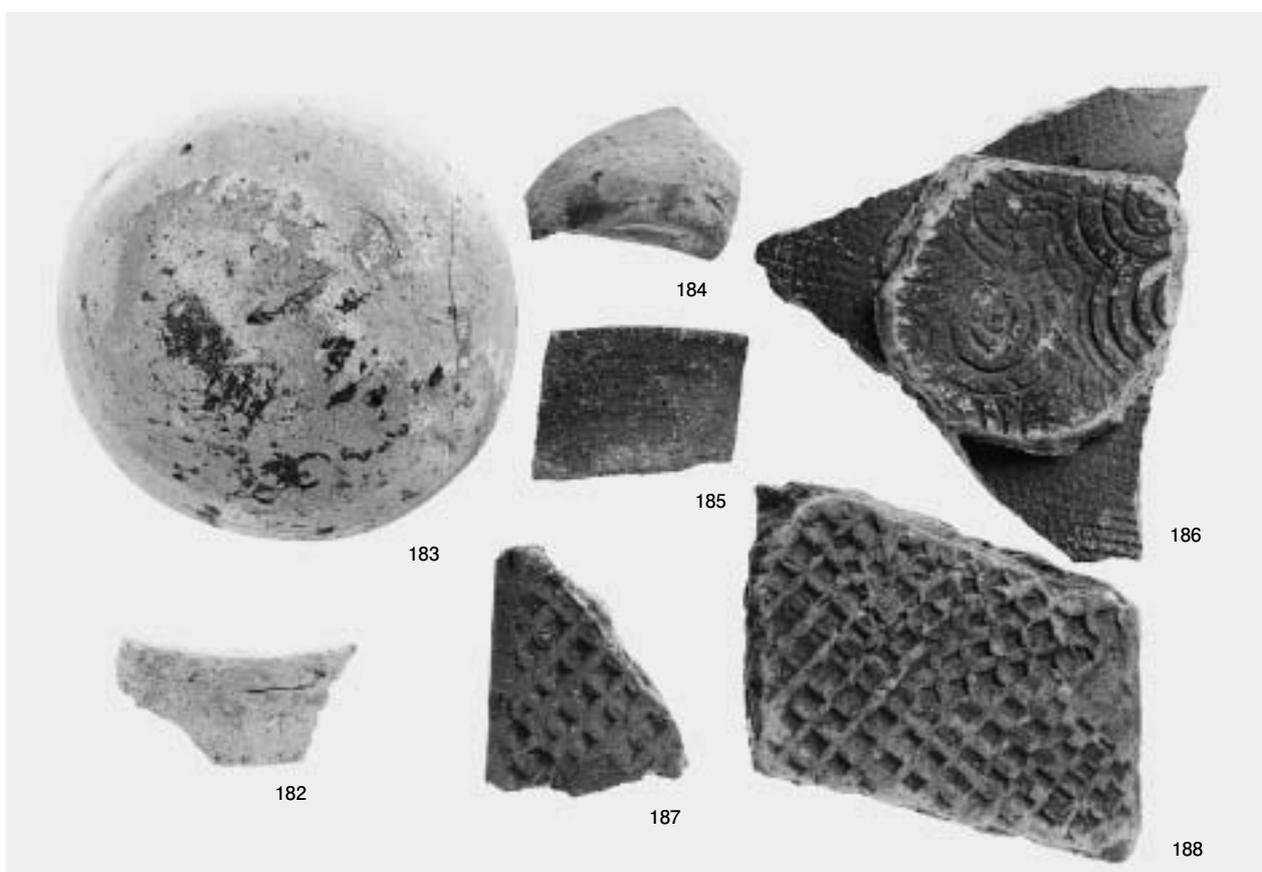
150



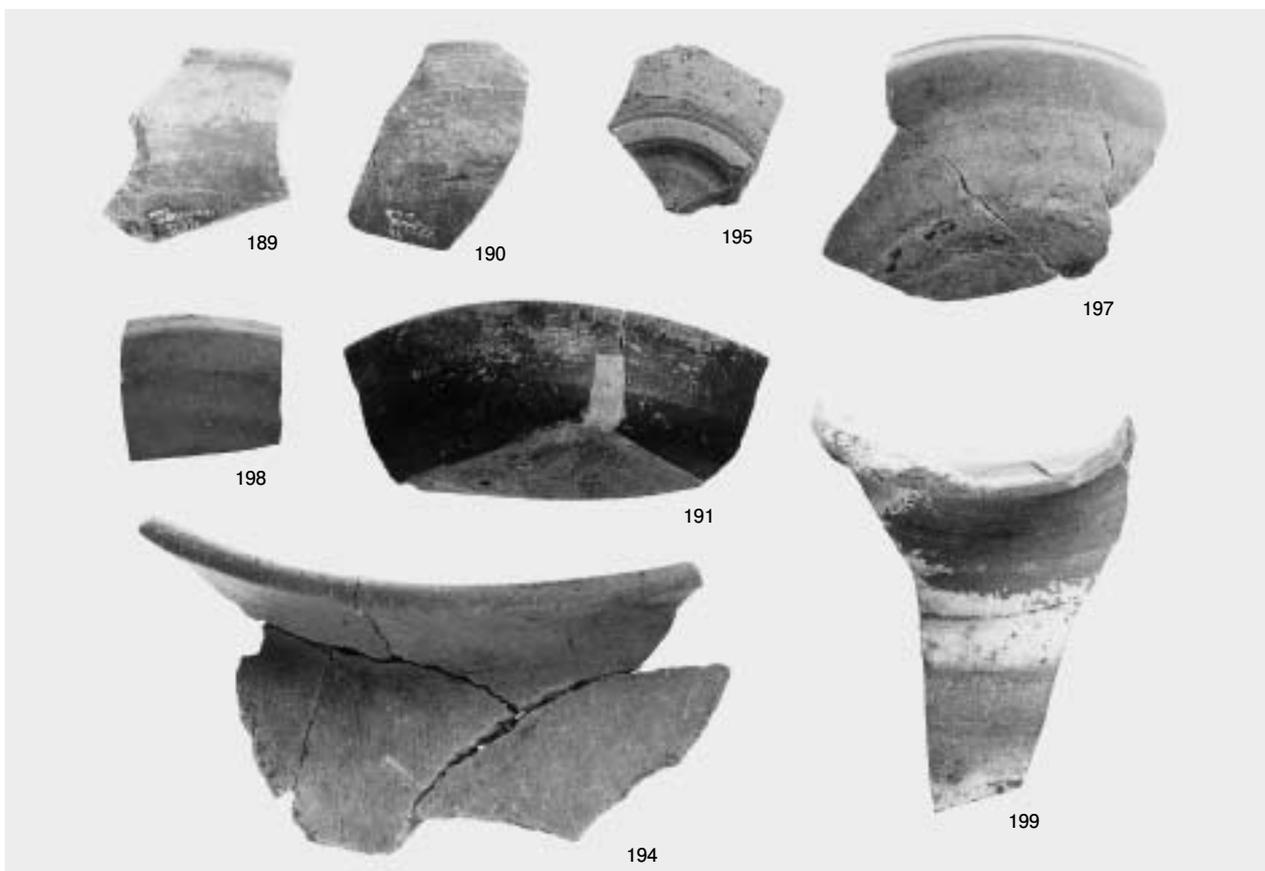
167



1. SD11出土土器(4)

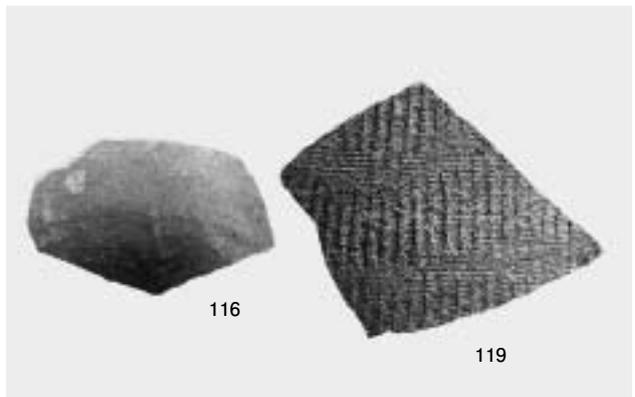


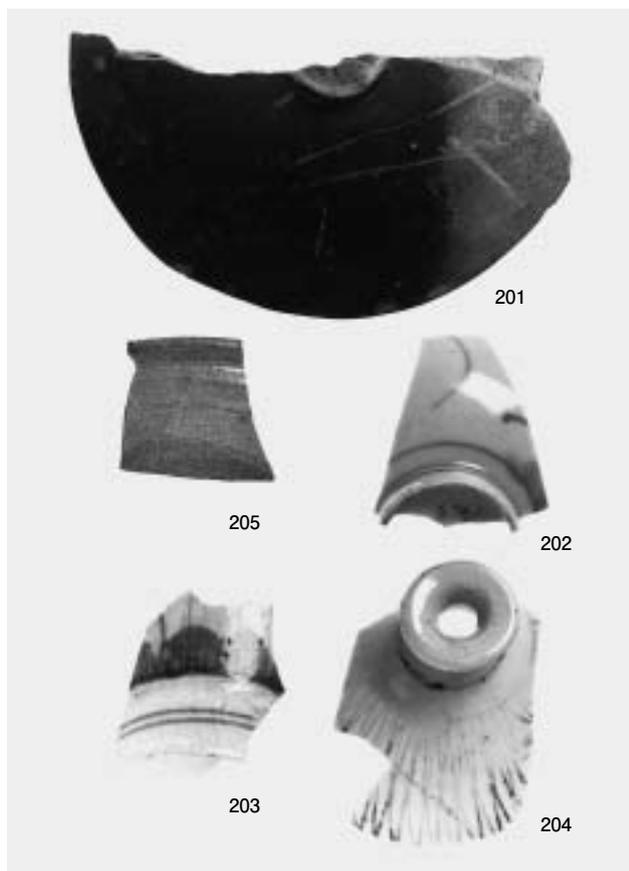
2. SX1出土土器・瓦



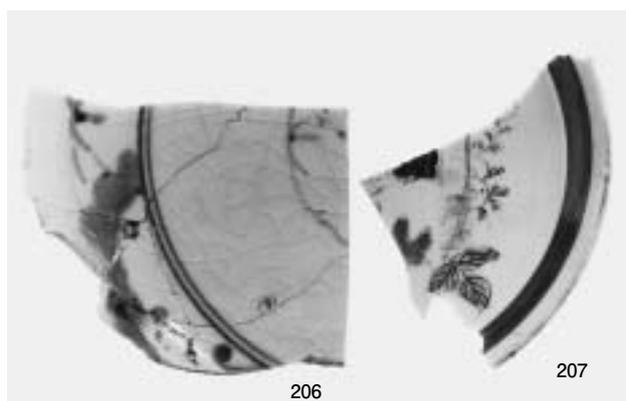


土師器坏(115)内面

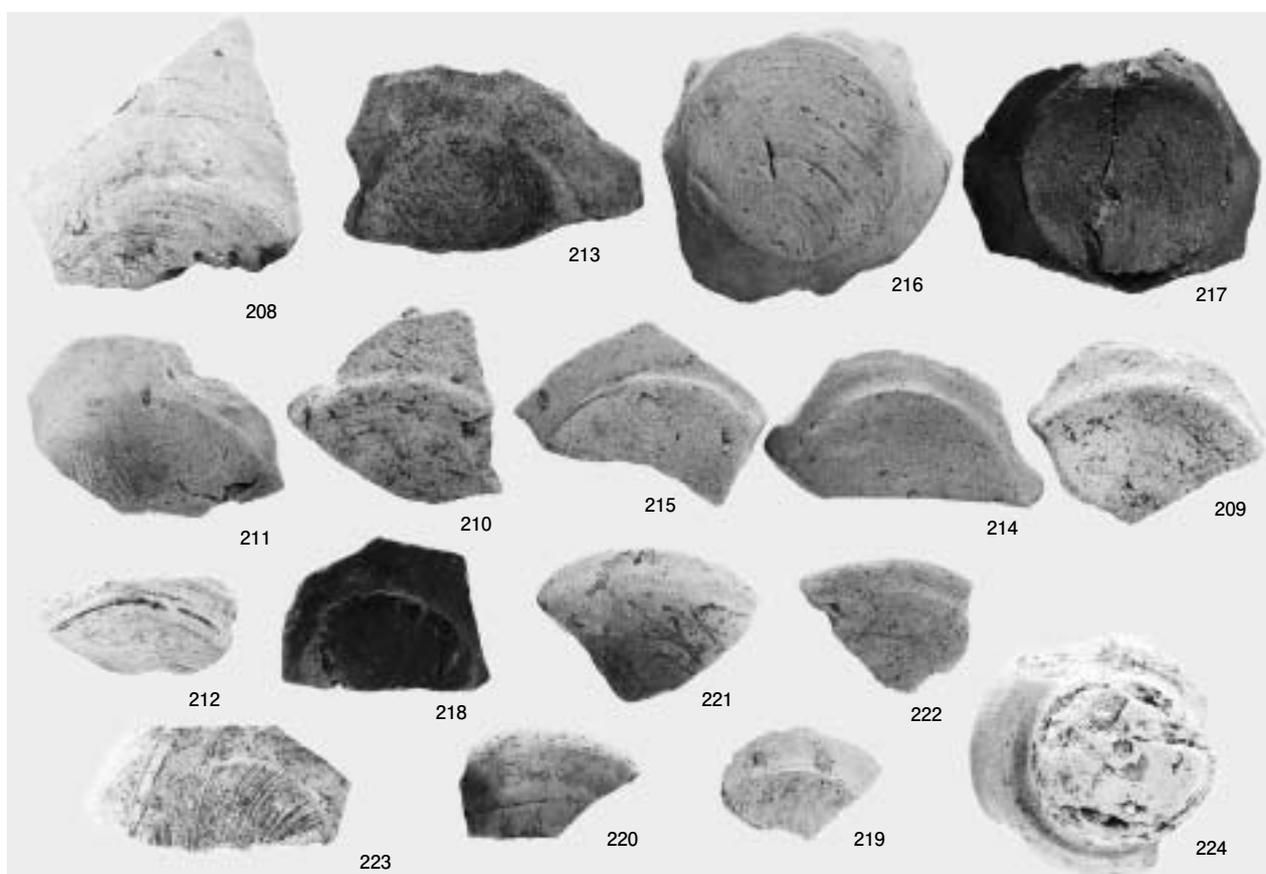




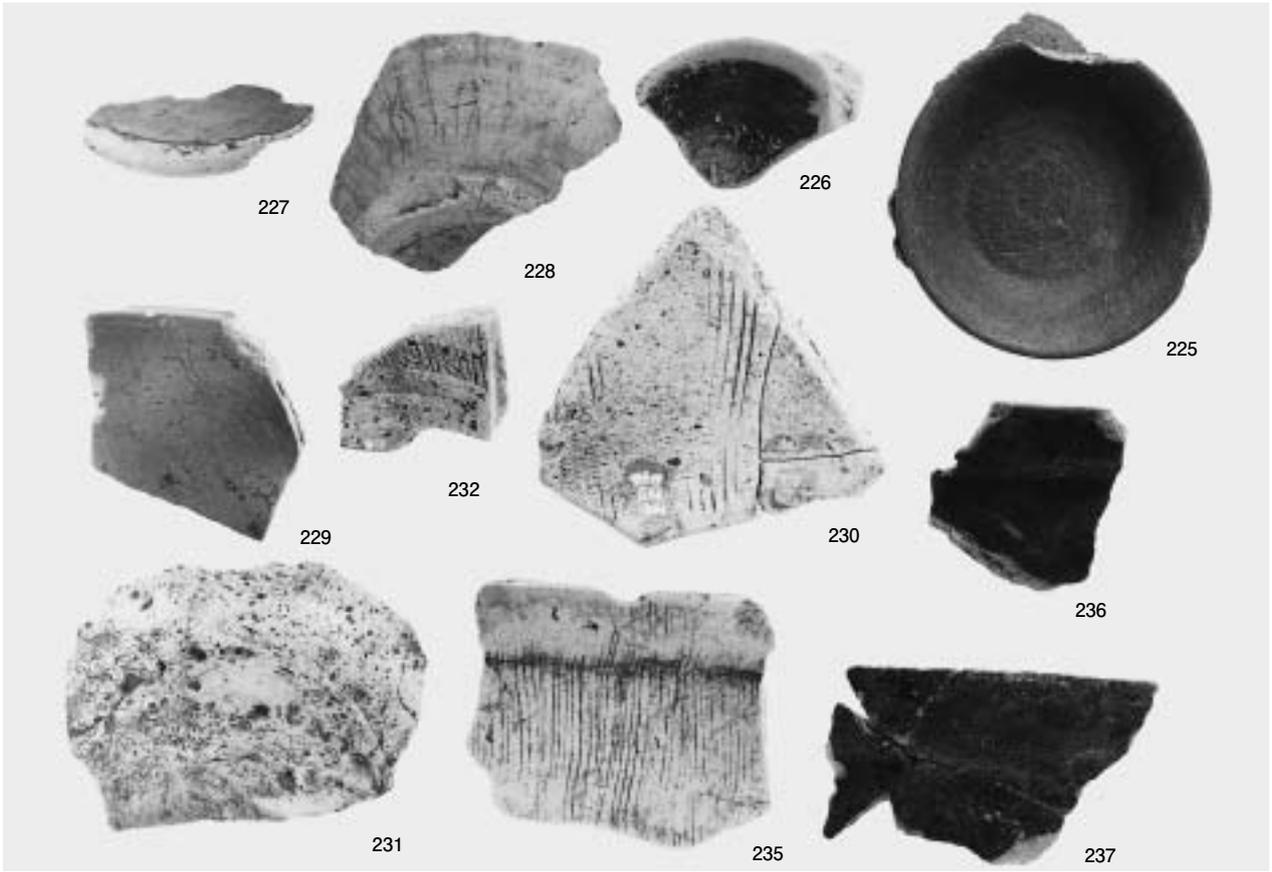
1. SD 1·2出土土器·陶磁器



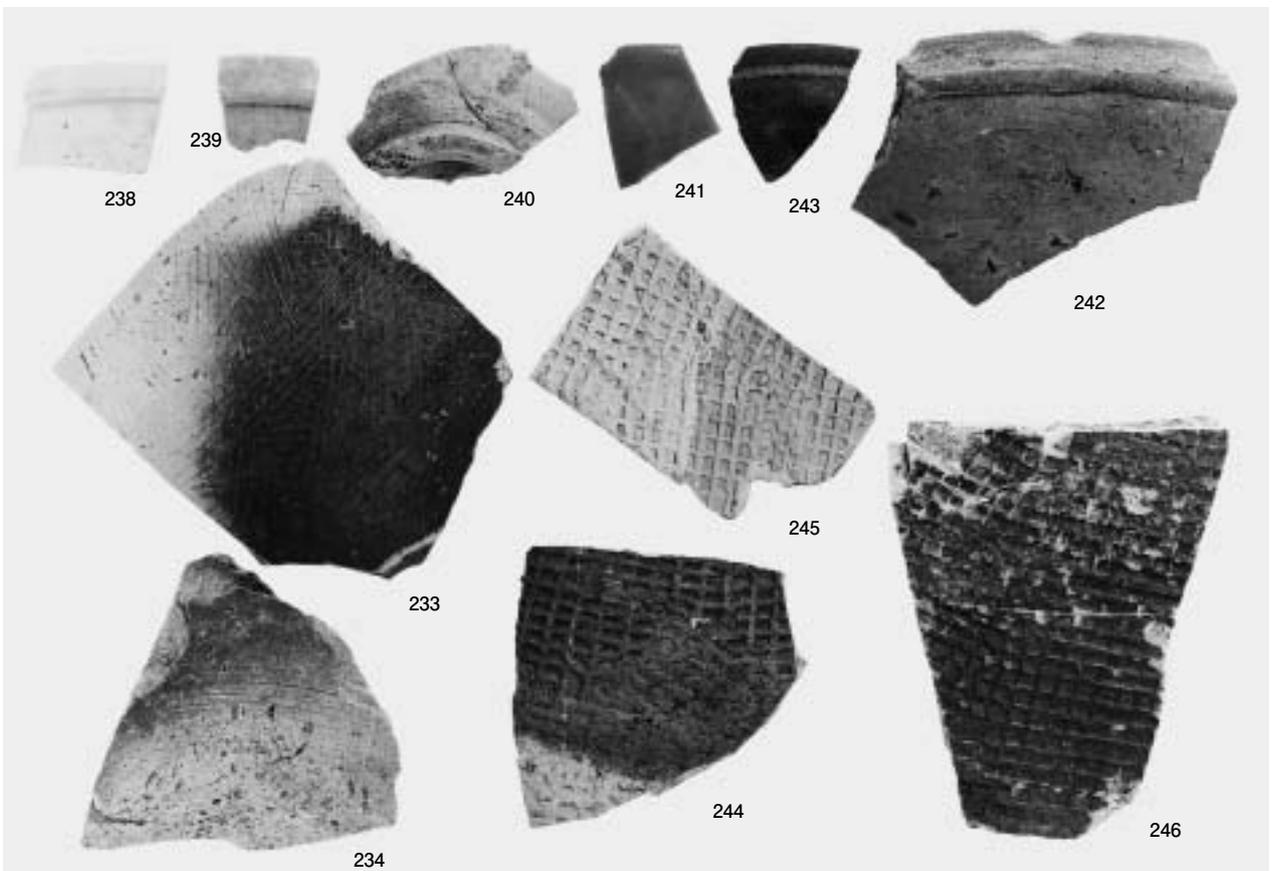
2. 2区I層出土磁器



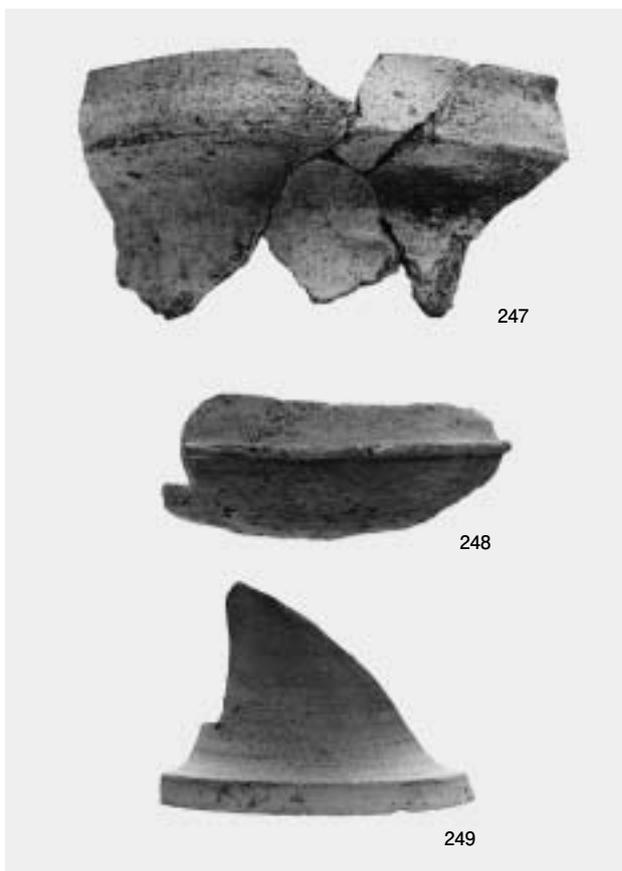
3. 2区II層出土土器(1)



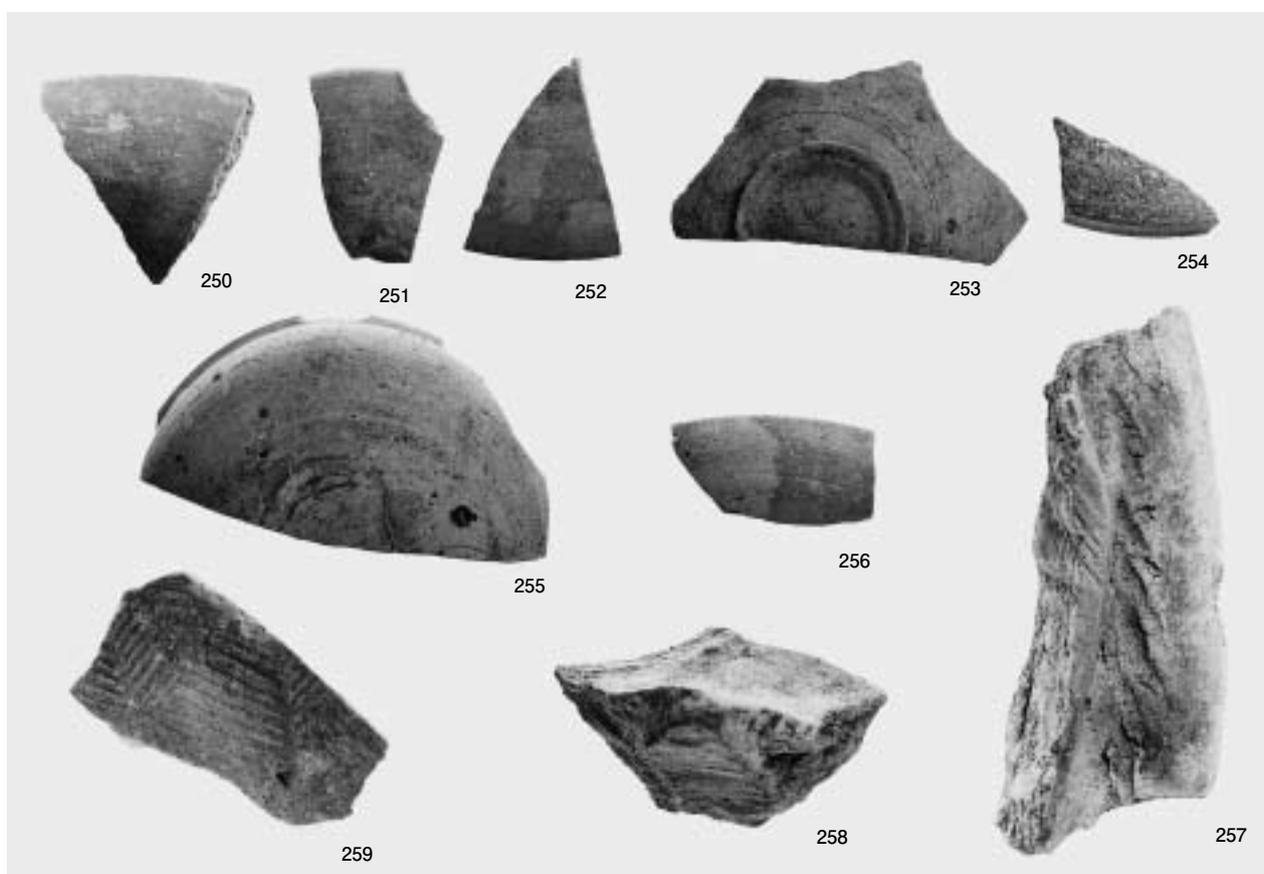
1. 2区II層出土土器(2)



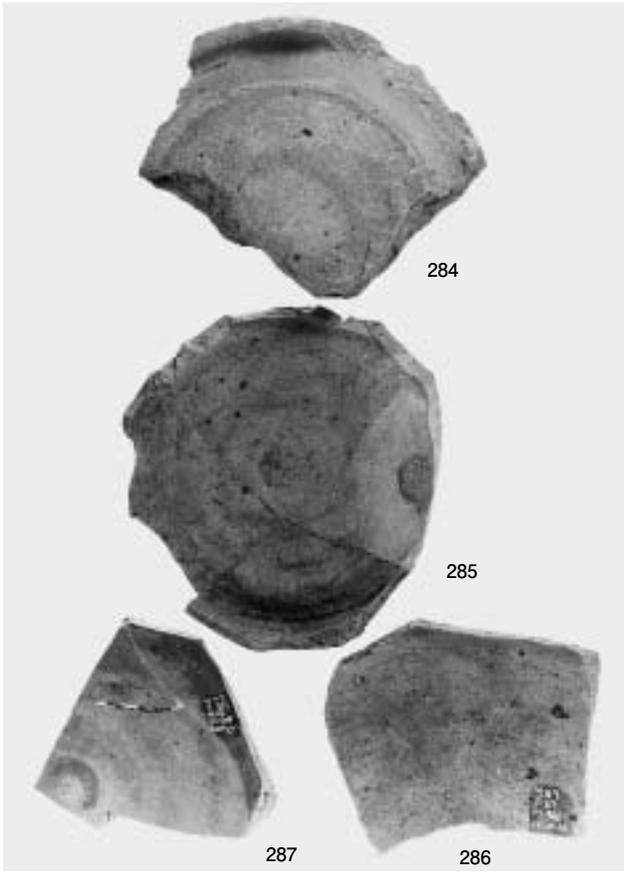
2. 2区II層出土土器・陶磁器



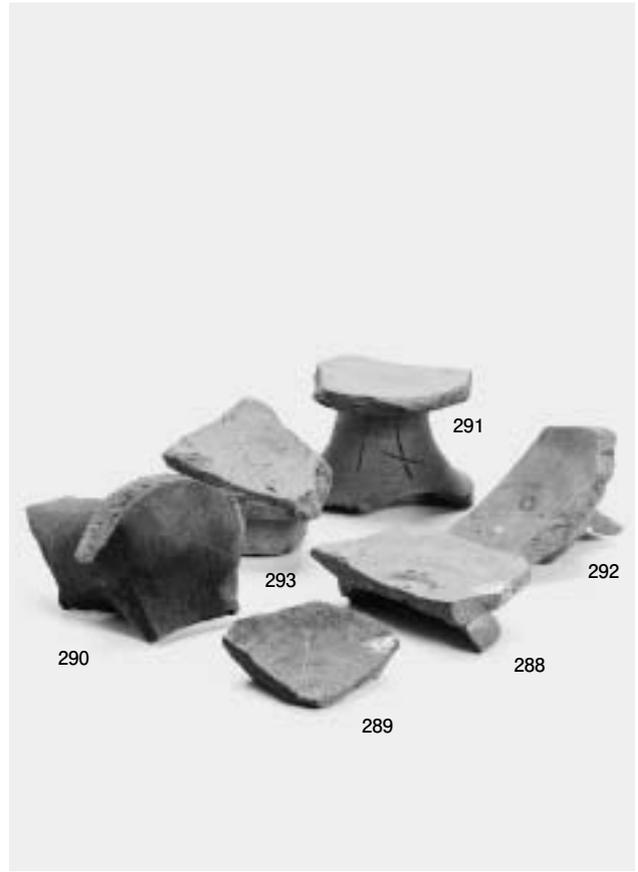
1. 2区Ⅲ層出土土器



2. 1区出土土器・土製品



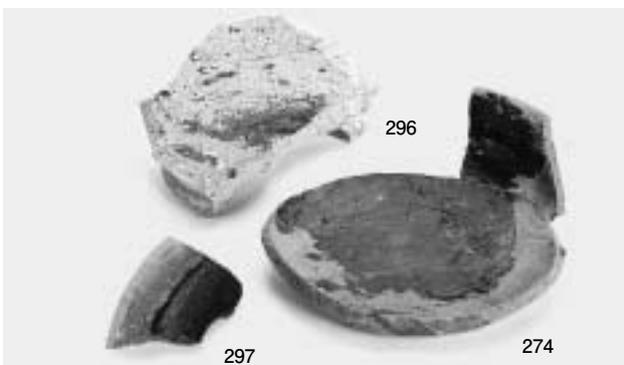
須恵器 硯類



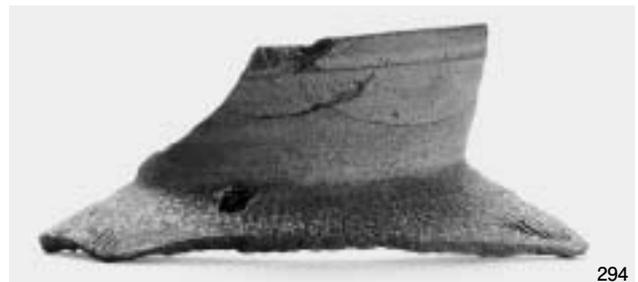
須恵器高坏(器面に磨耗痕有り)



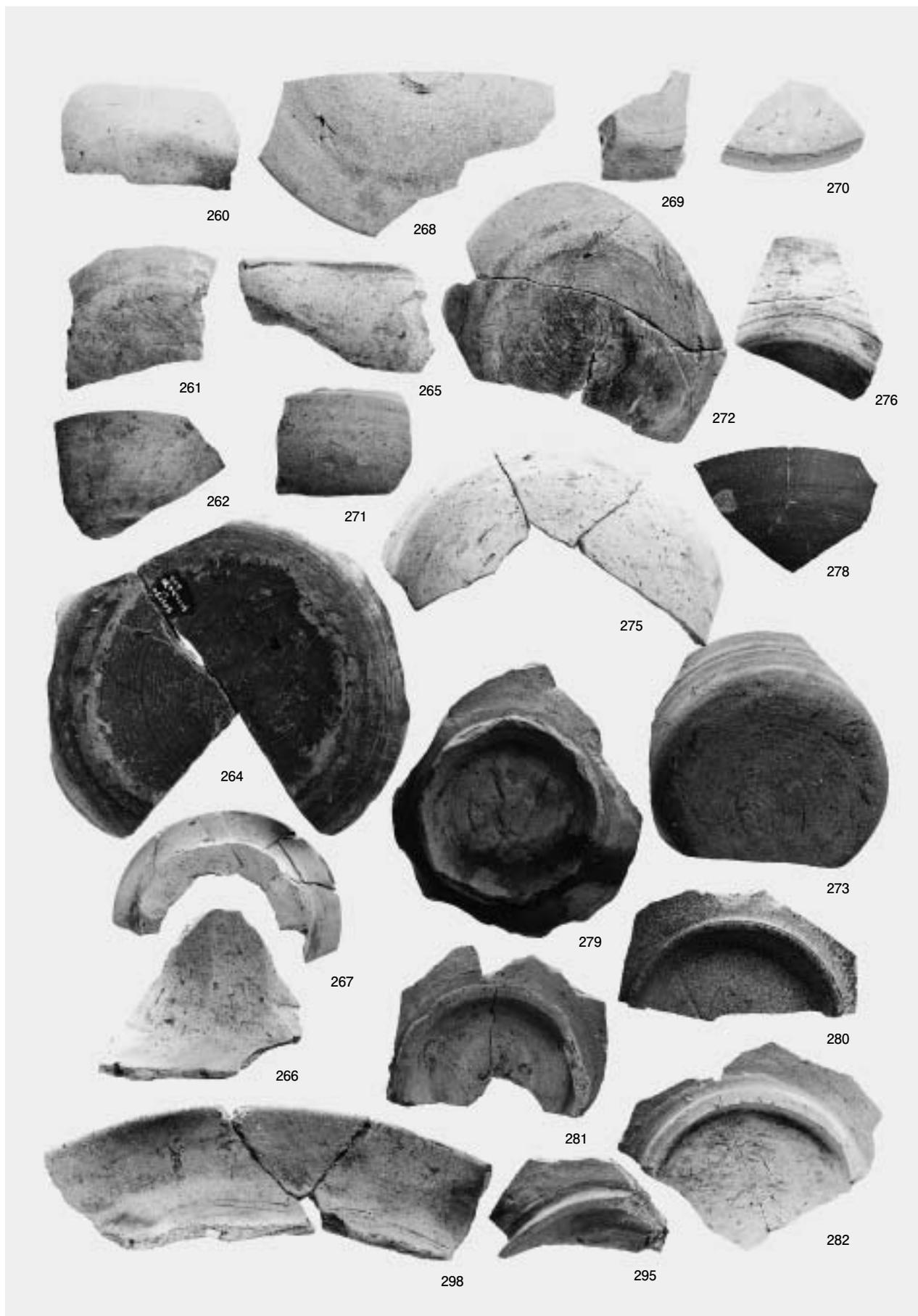
須恵器高台付皿(刻書)



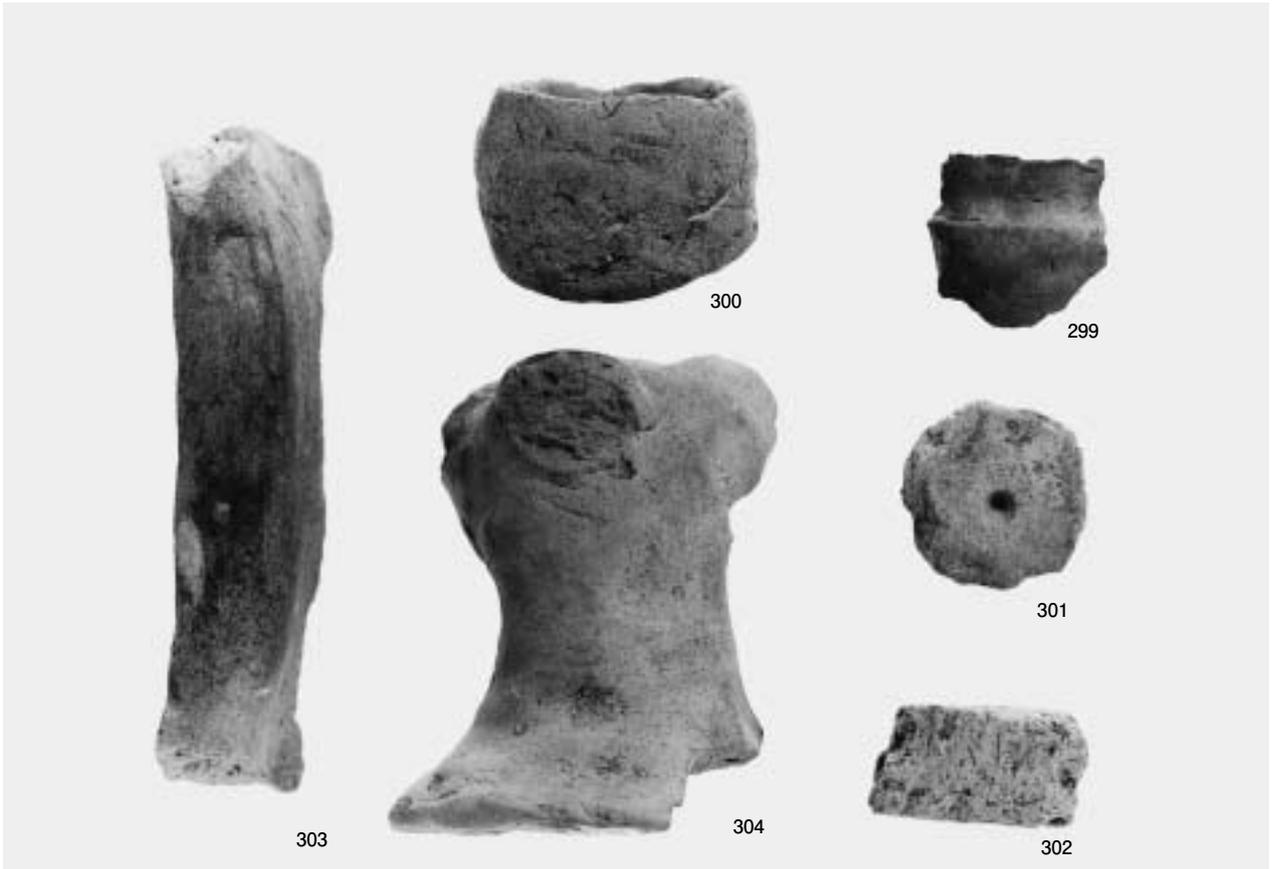
漆が付着した土器



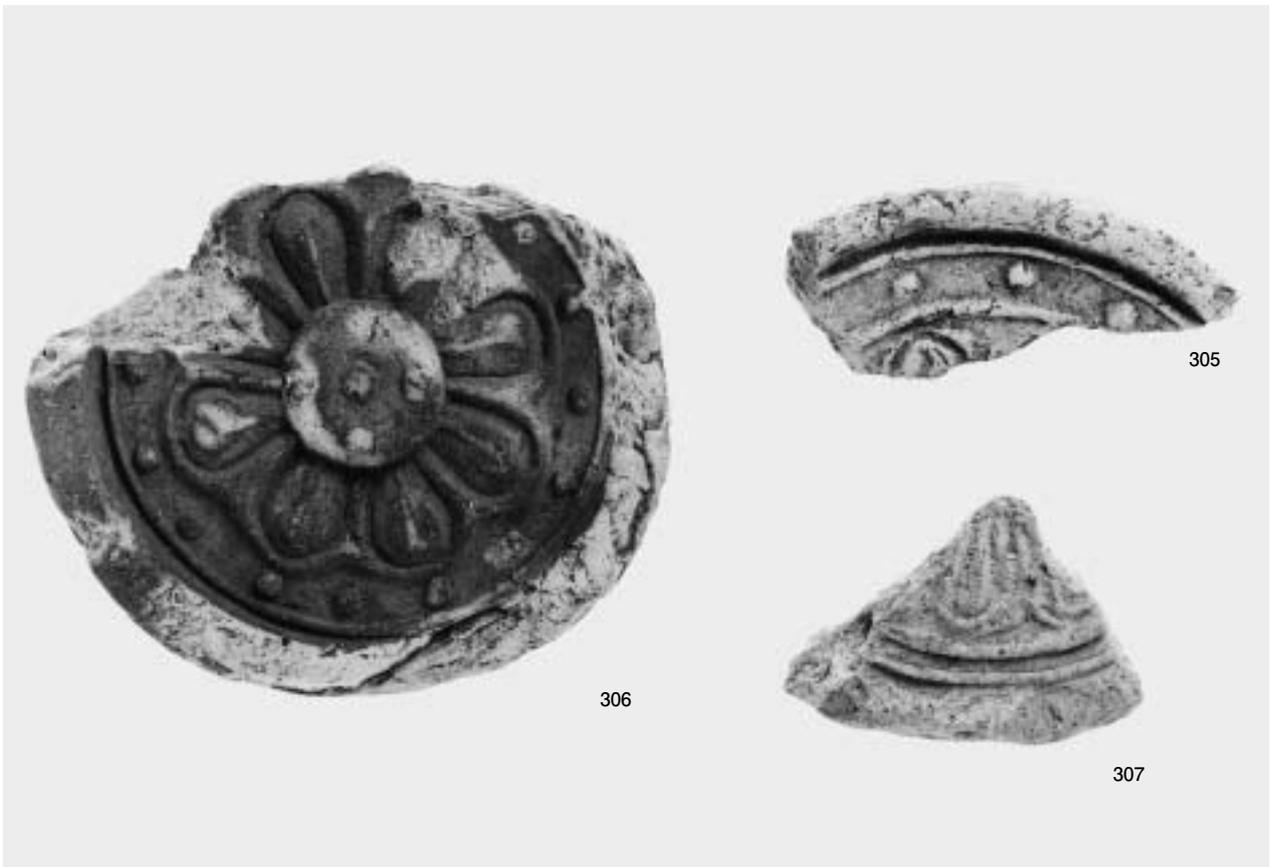
遺構外出土土器(1)



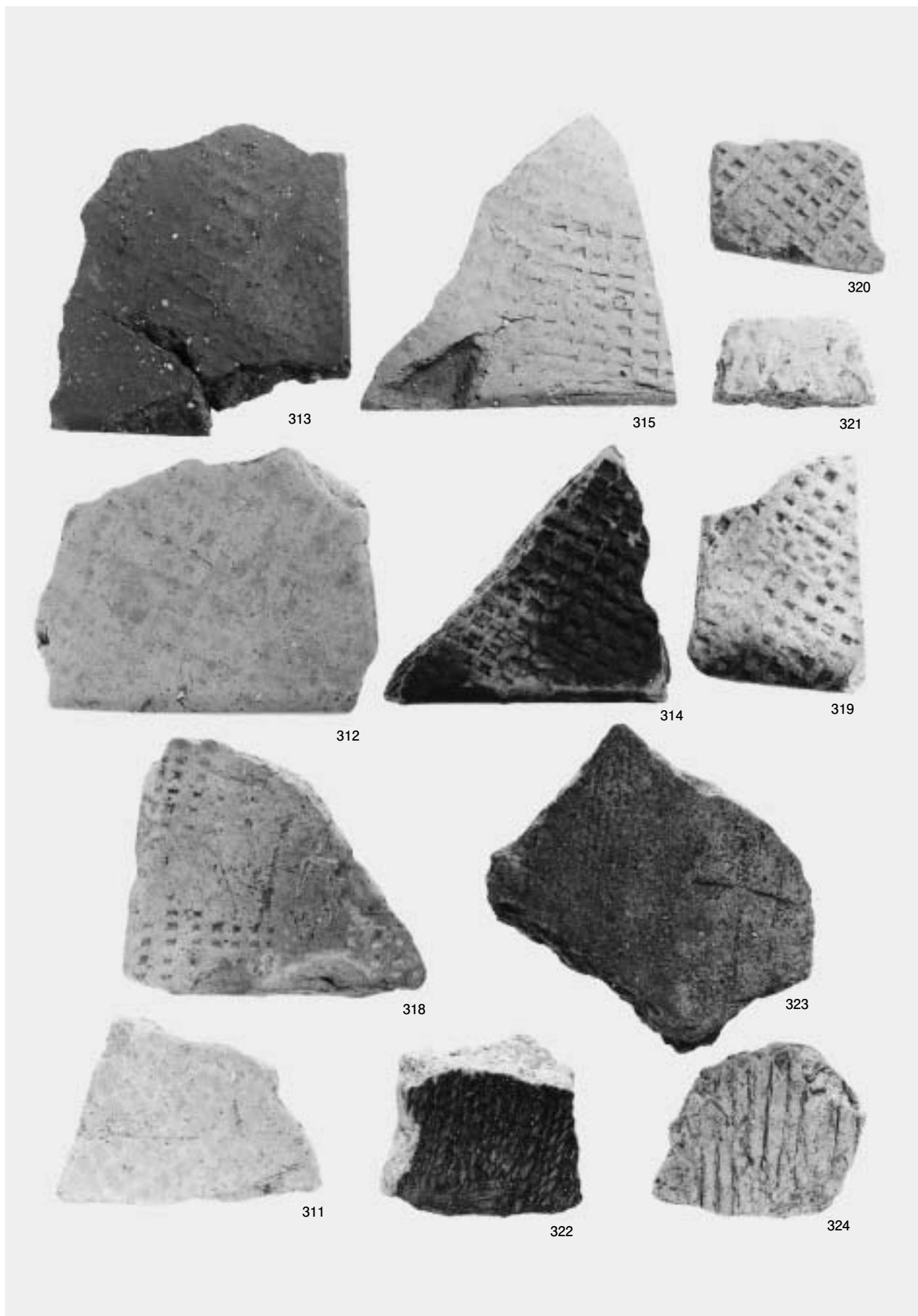
遺構外出土土器(2)



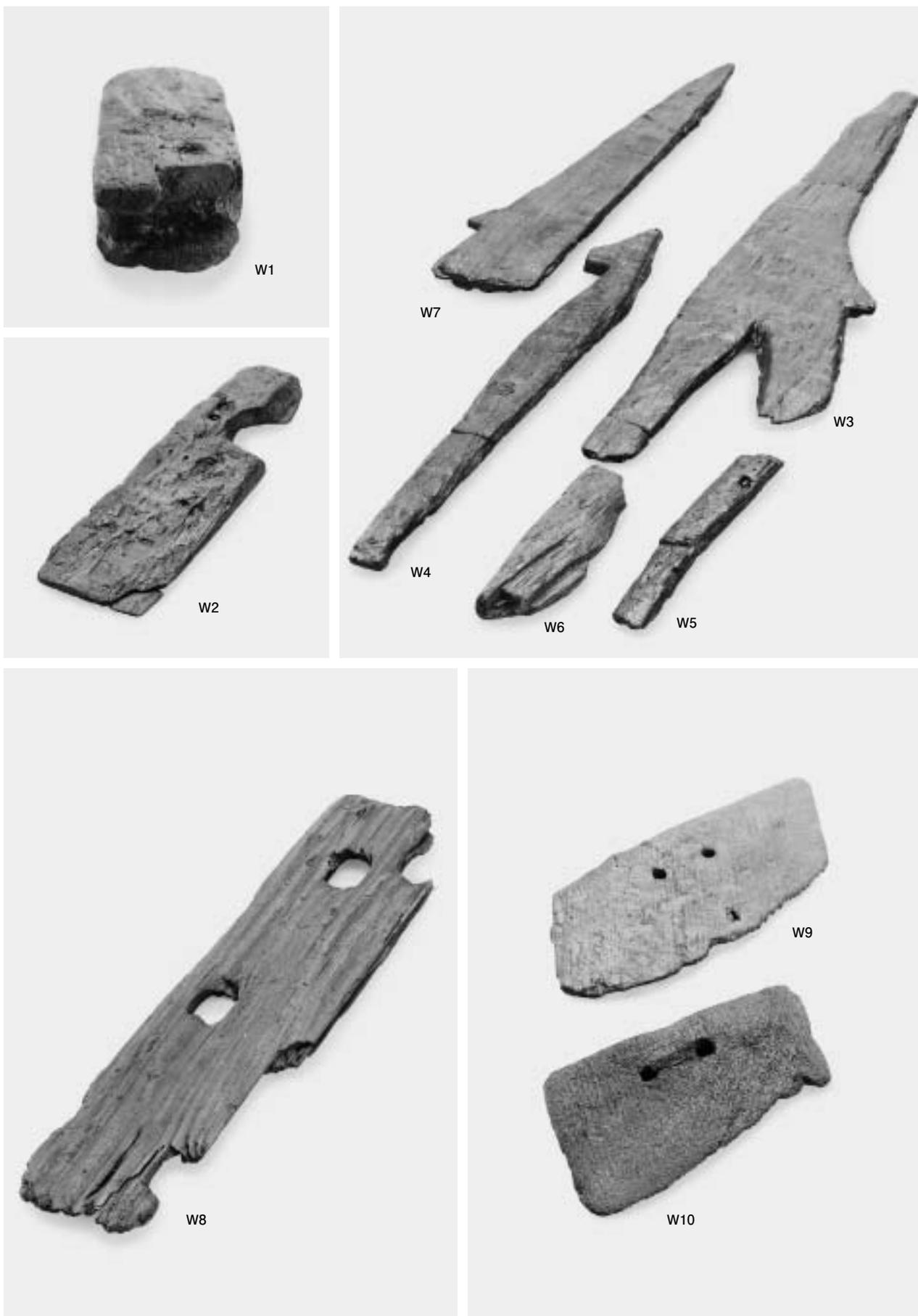
1. 遺構外出土土器・土製品



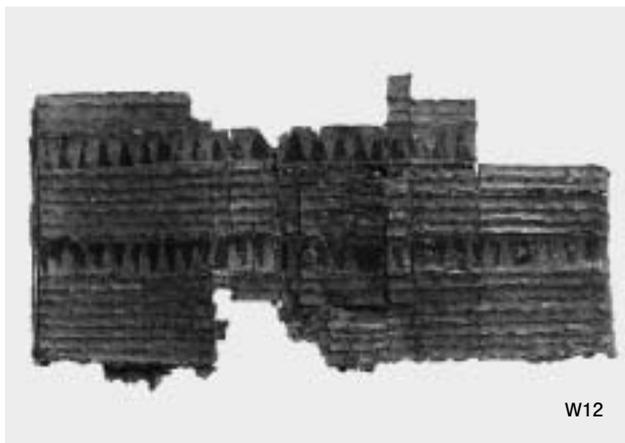
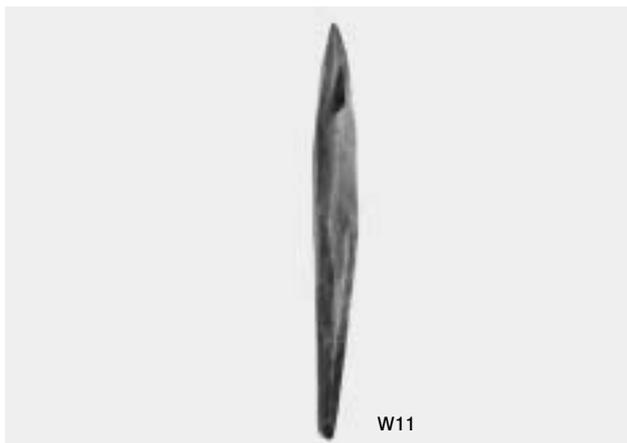
2. 遺構外出土瓦(1)



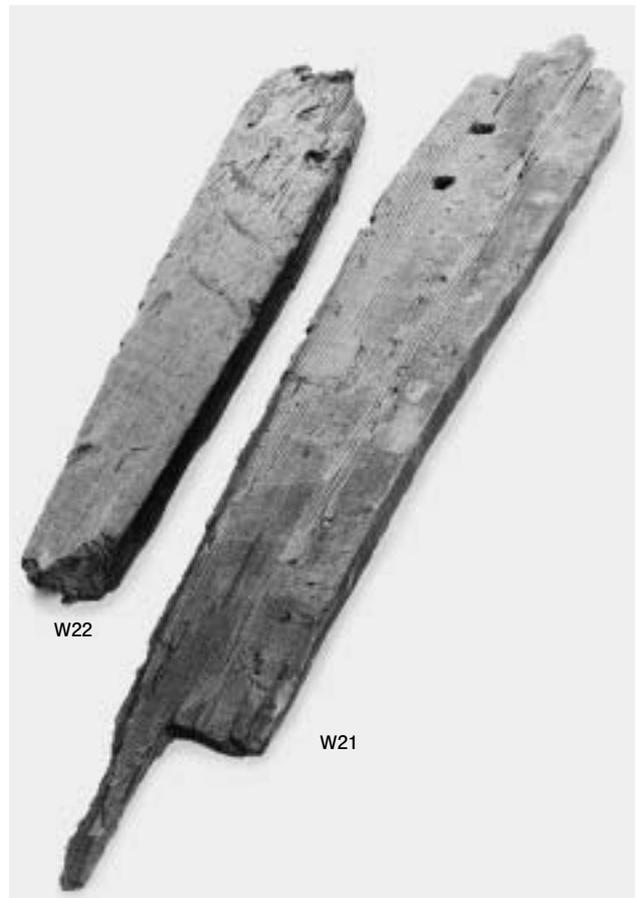
遺構外出土瓦(2)



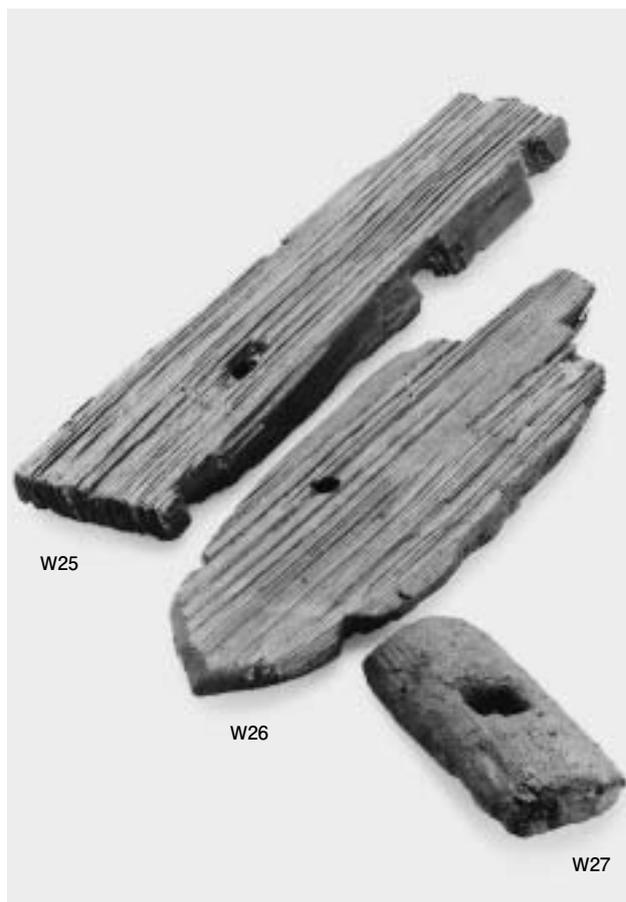
第1遺構面、Ⅲ層出土木器(1)



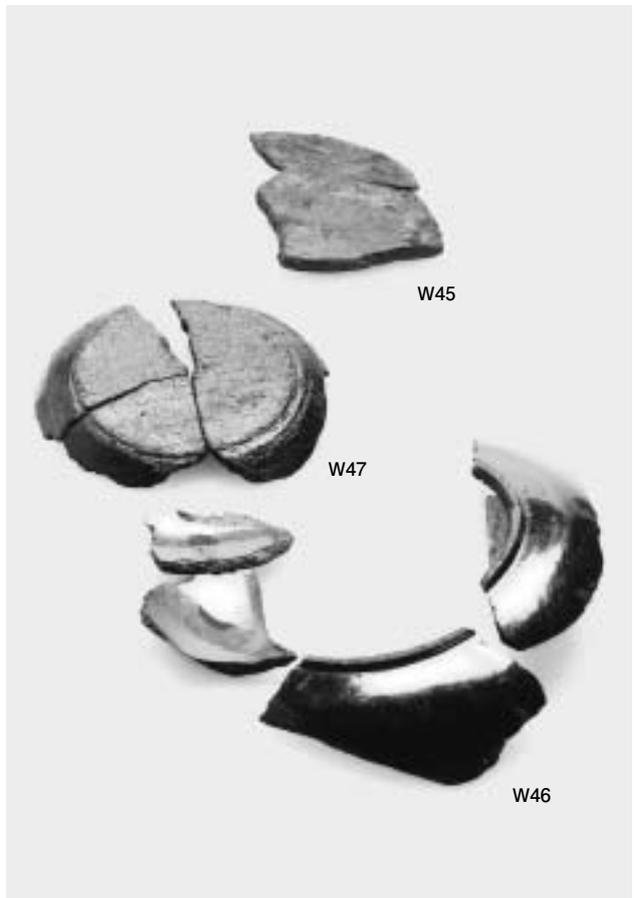
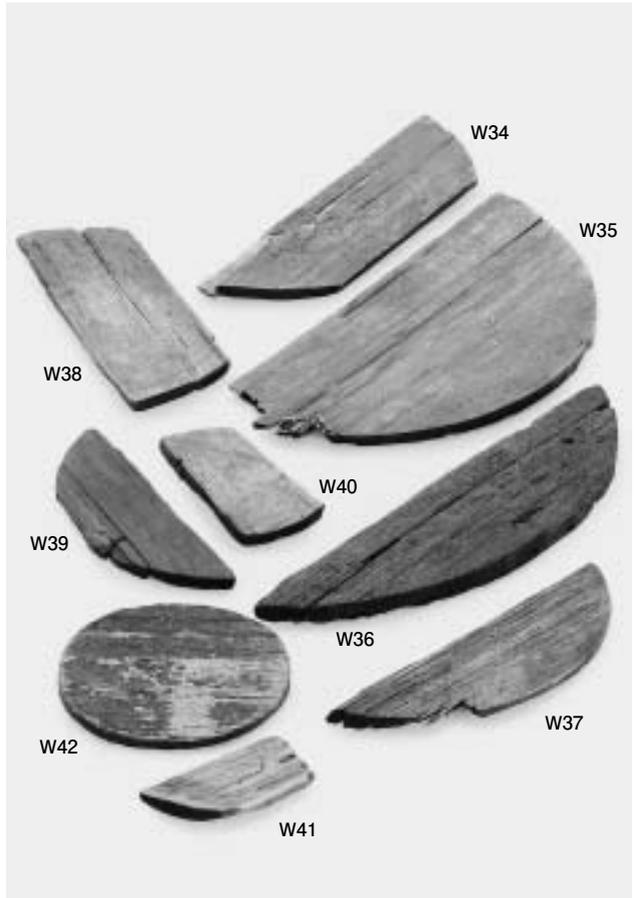
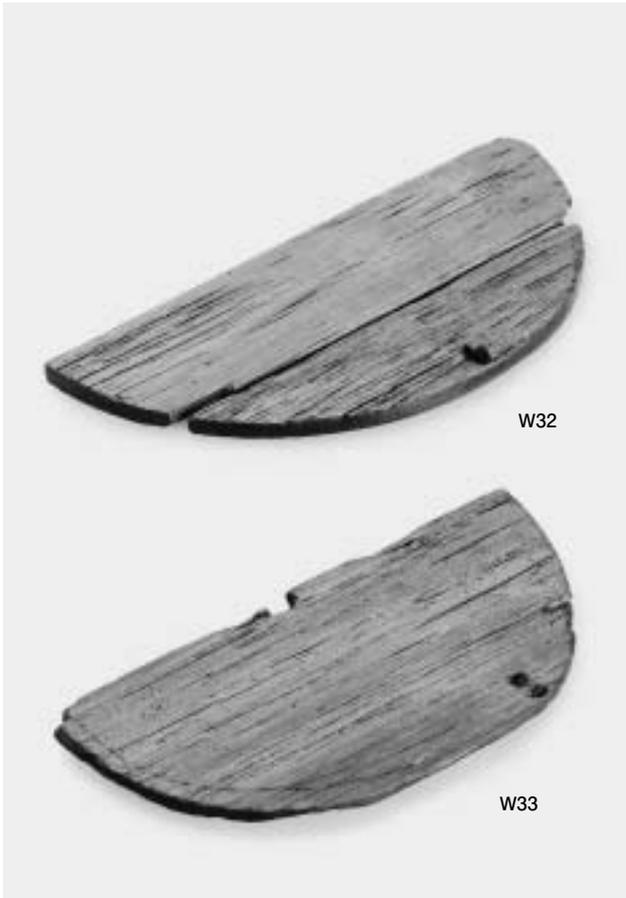
第1遺構面、Ⅲ層出土木器(2)



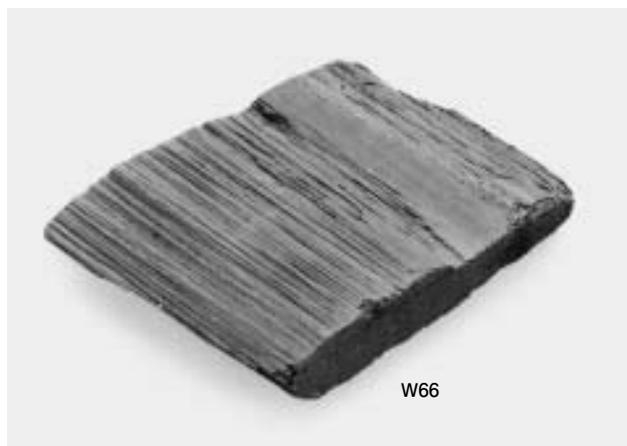
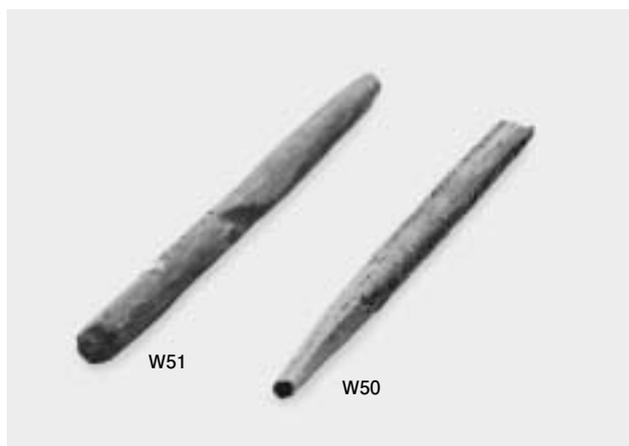
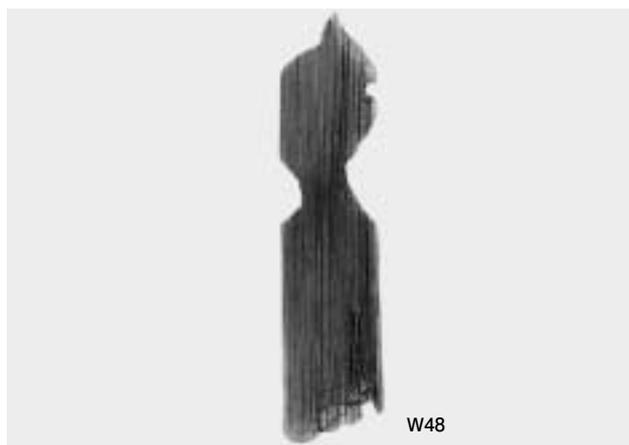
第 1 遺構面、Ⅲ層出土木器(3)



第2遺構面、I・II層出土木器(1)



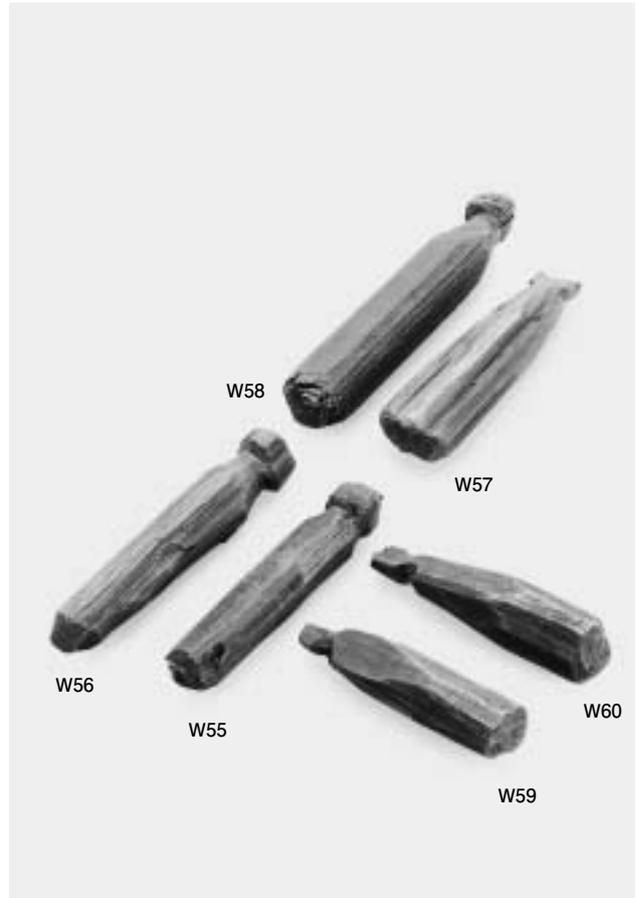
第2遺構面、I・II層出土木器(2)



第2遺構面、I・II層出土木器(3)



W67



W58

W57

W56

W55

W60

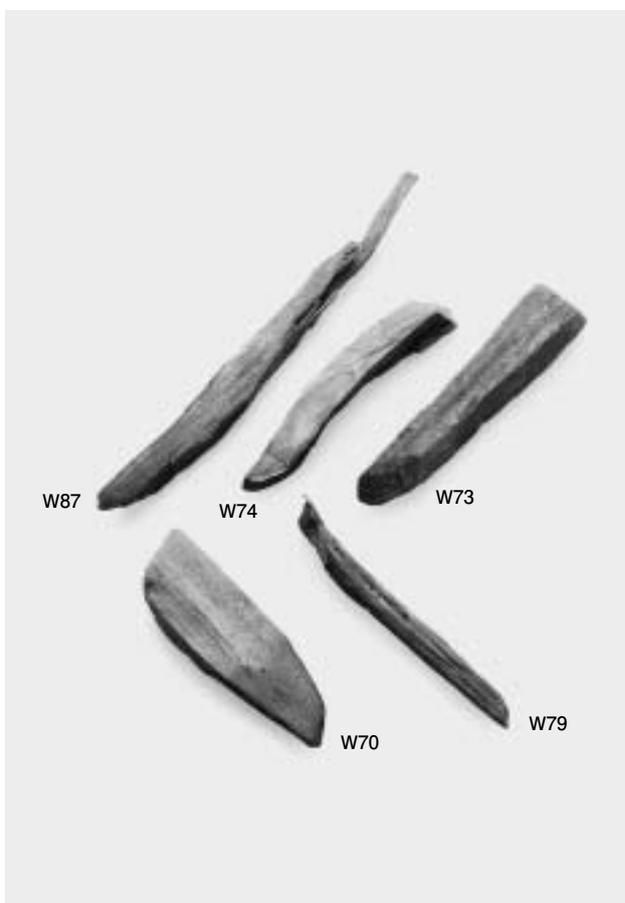
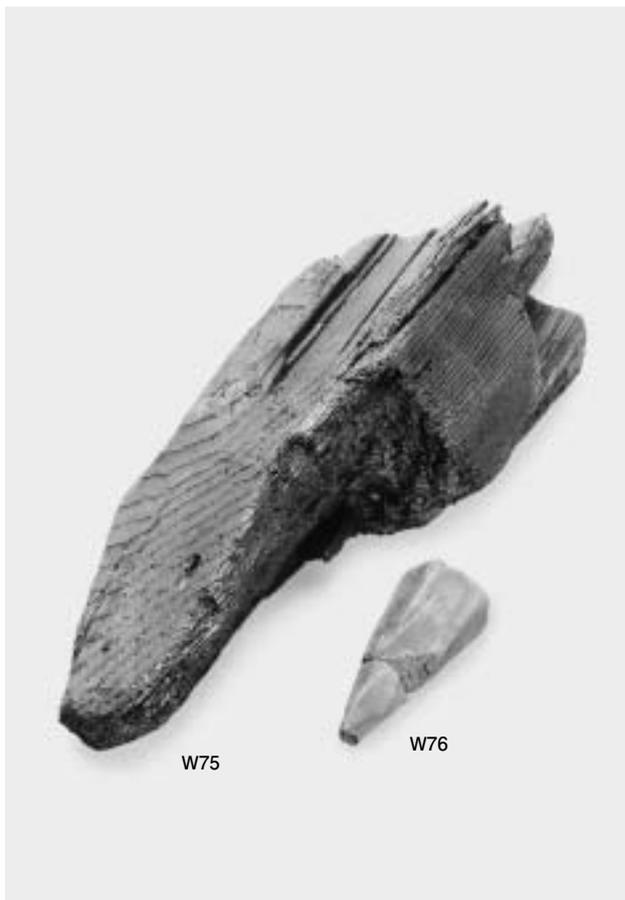
W59



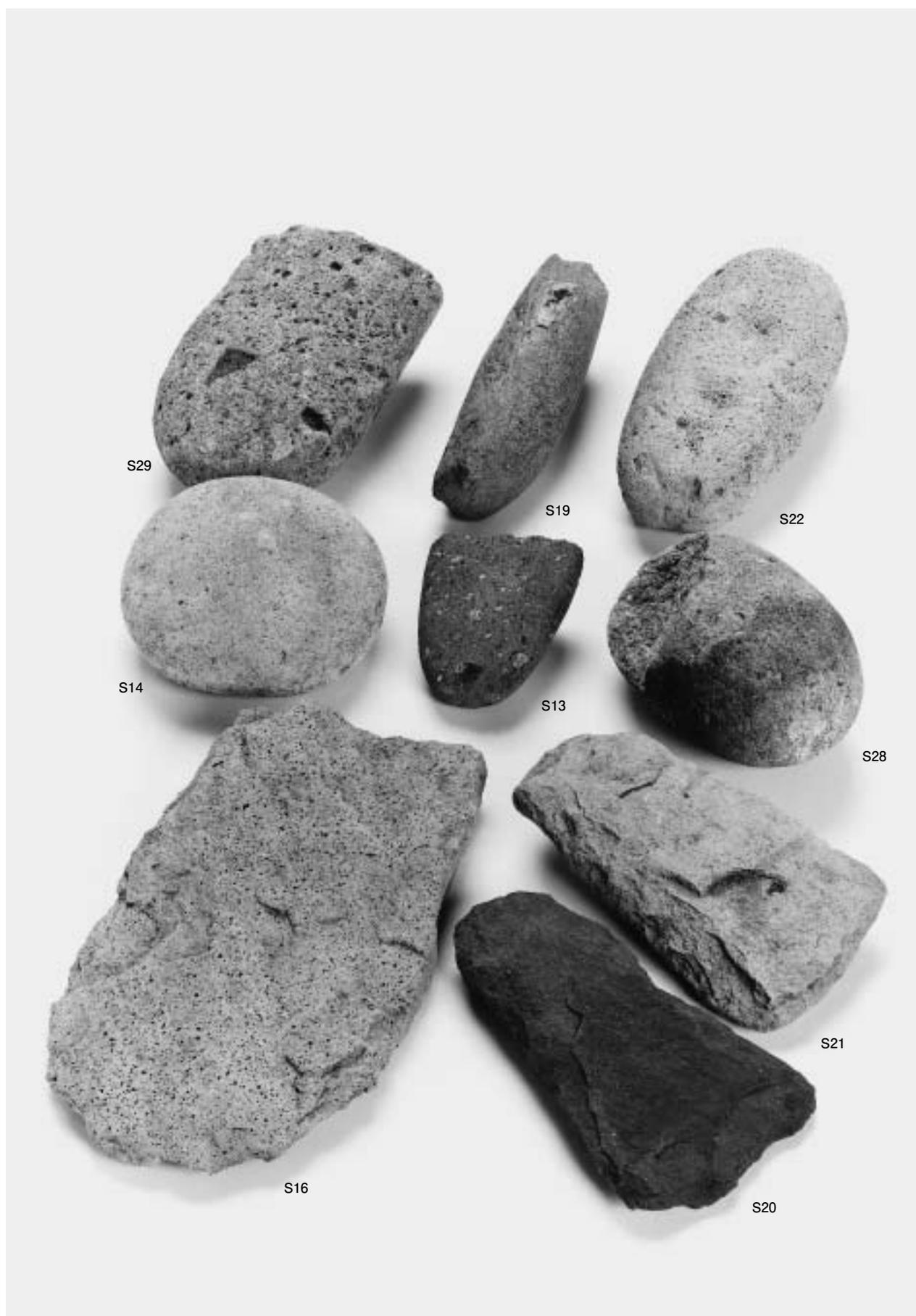
W63



W64



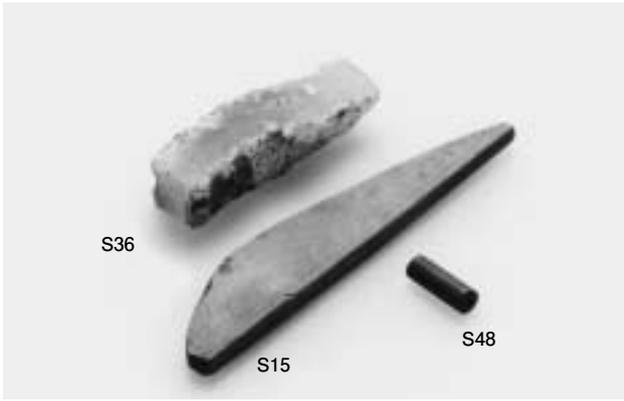
第2遺構面、I・II層出土木器(5)



調査地内出土石器(1)



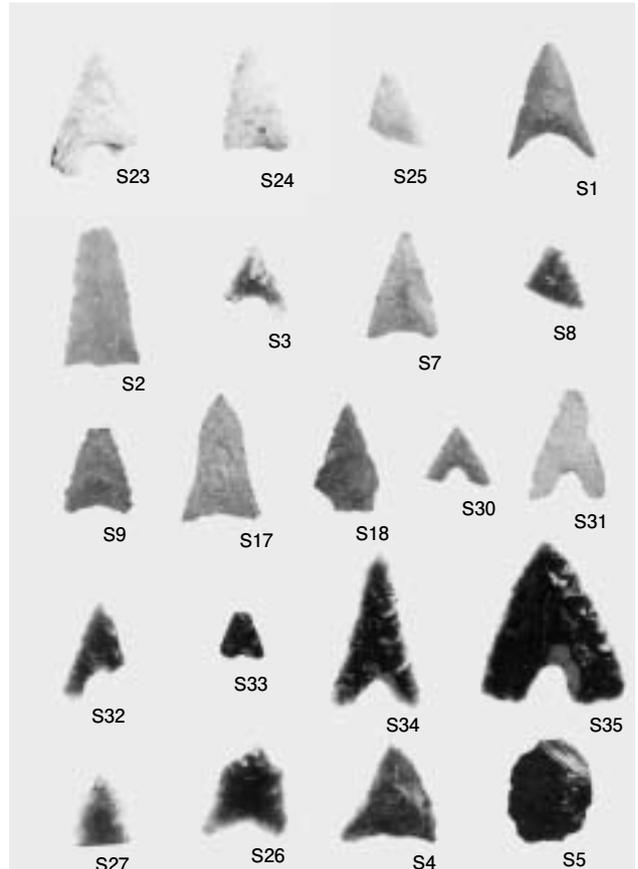
調査地内出土石器(2)



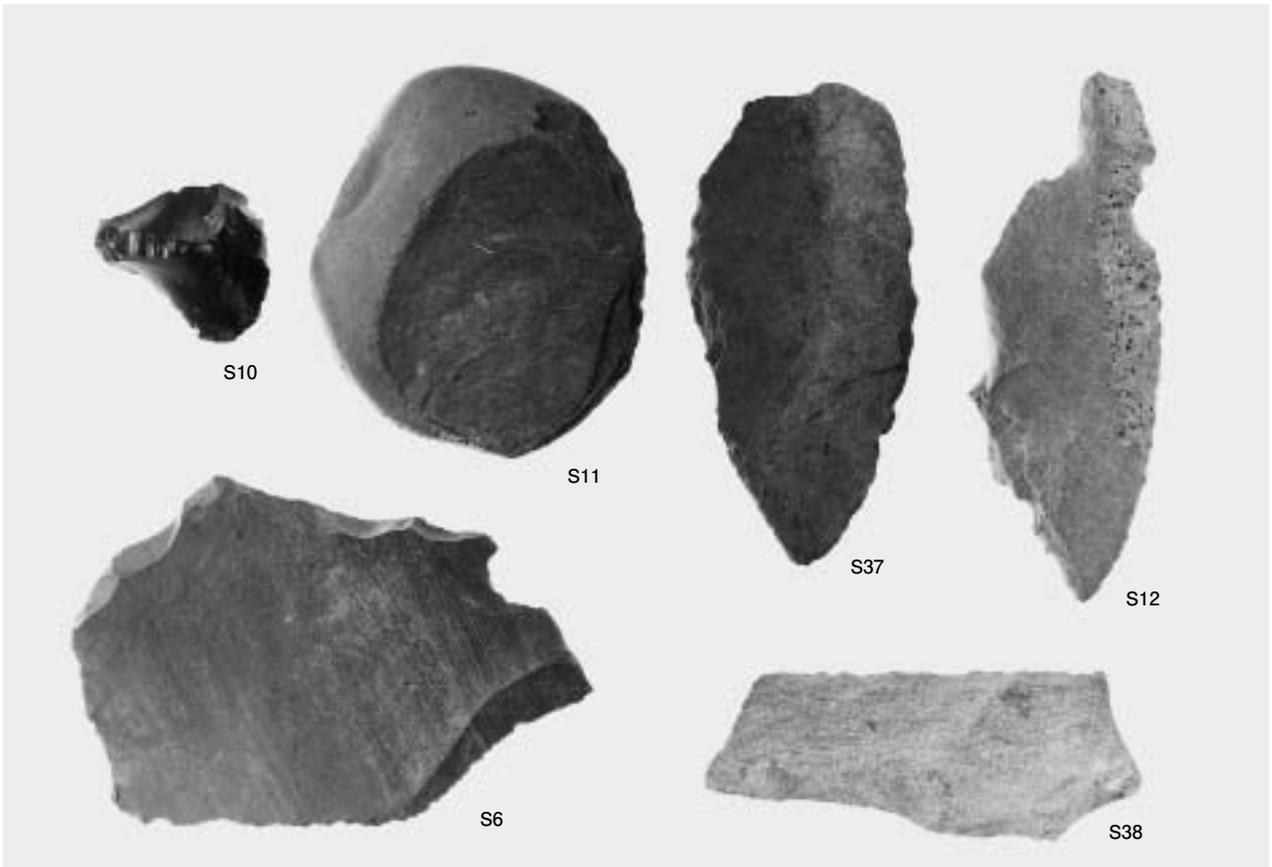
1. 玉作関連遺物



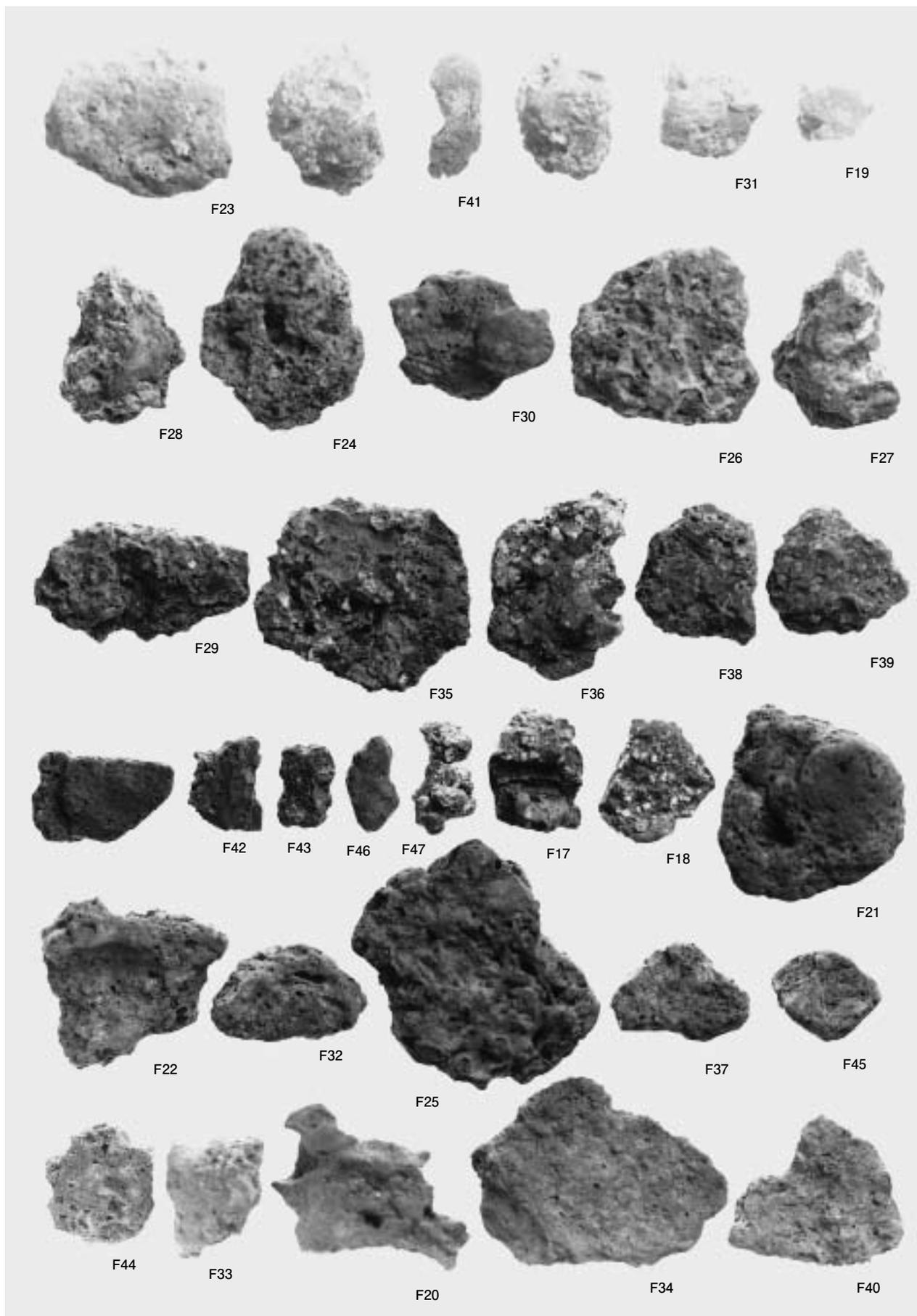
2. 不明石製品



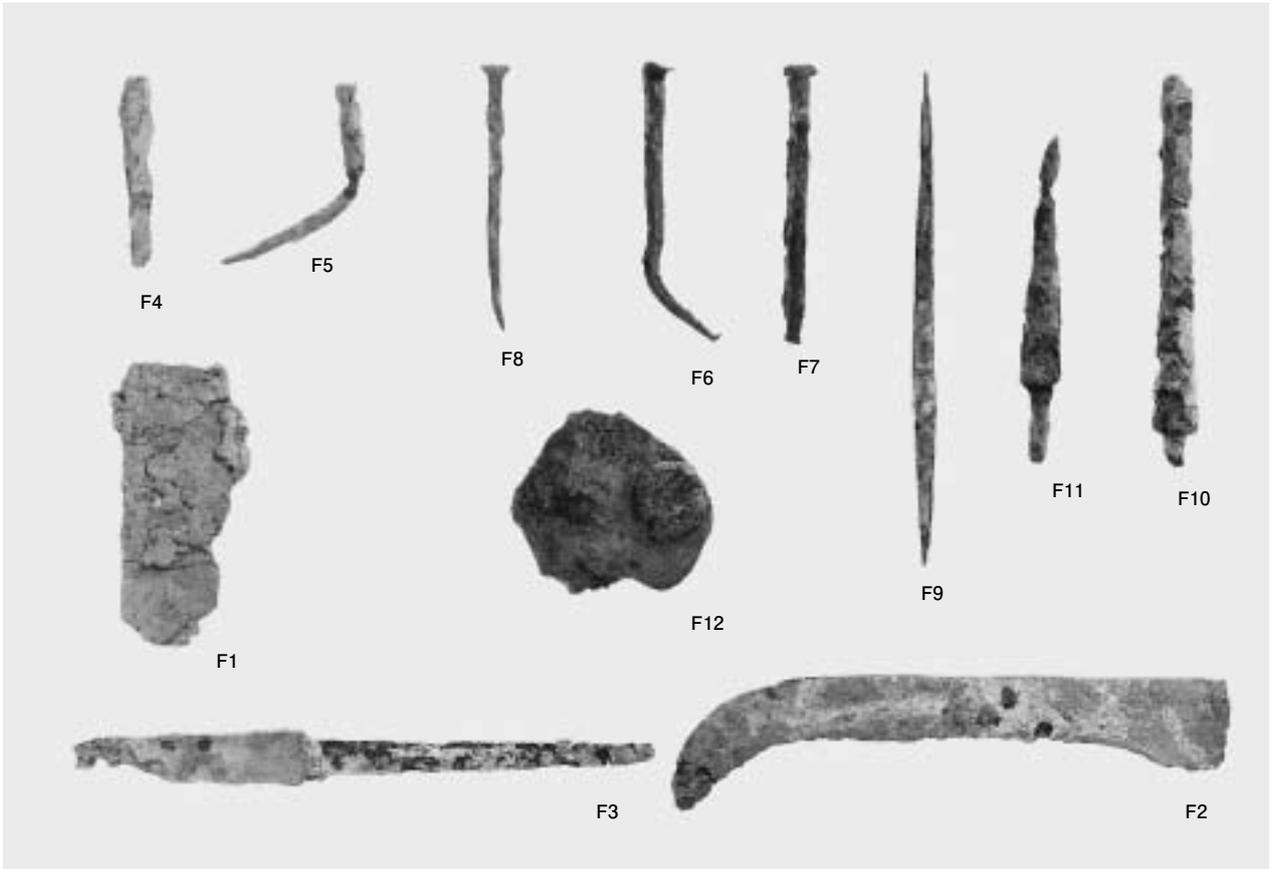
3. 石鏃、石鏃未成品



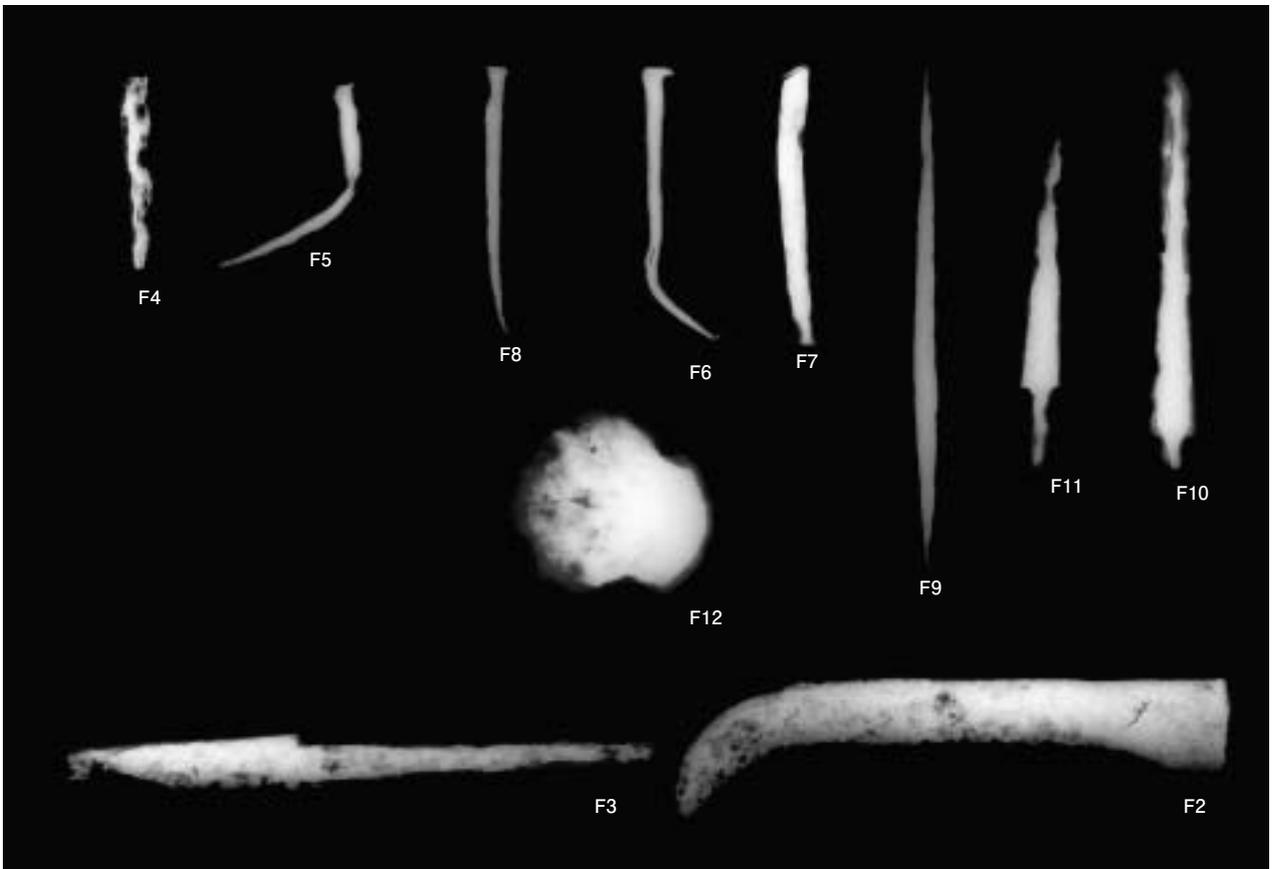
4. 調査地内出土石器(3)



調査地内出土製鉄・鍛冶関連遺物(1)



1. 調査地内出土鉄製品(1)



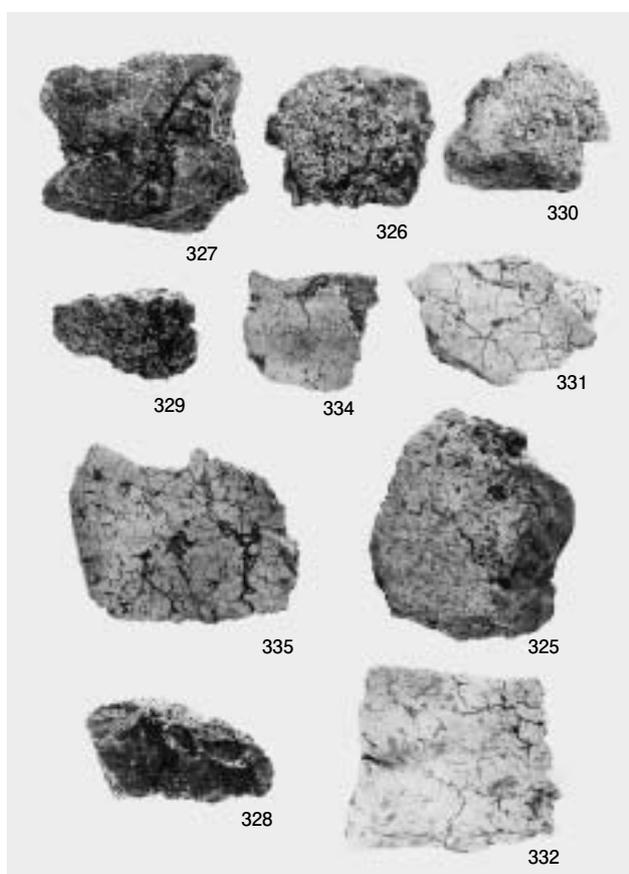
2. 調査地内出土鉄製品(1) X線写真



1. 調査地内出土鉄製品(2)



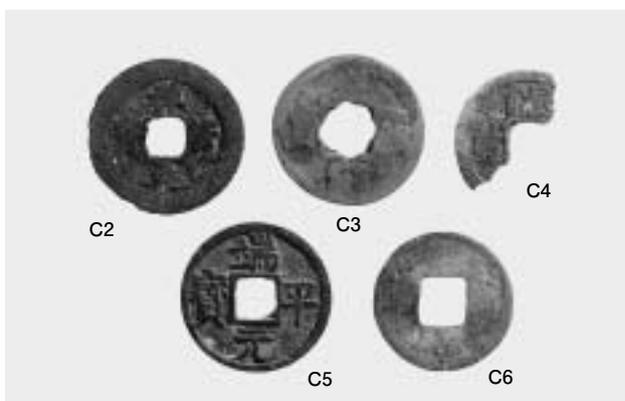
2. 調査地内出土鉄製品(2) X線写真



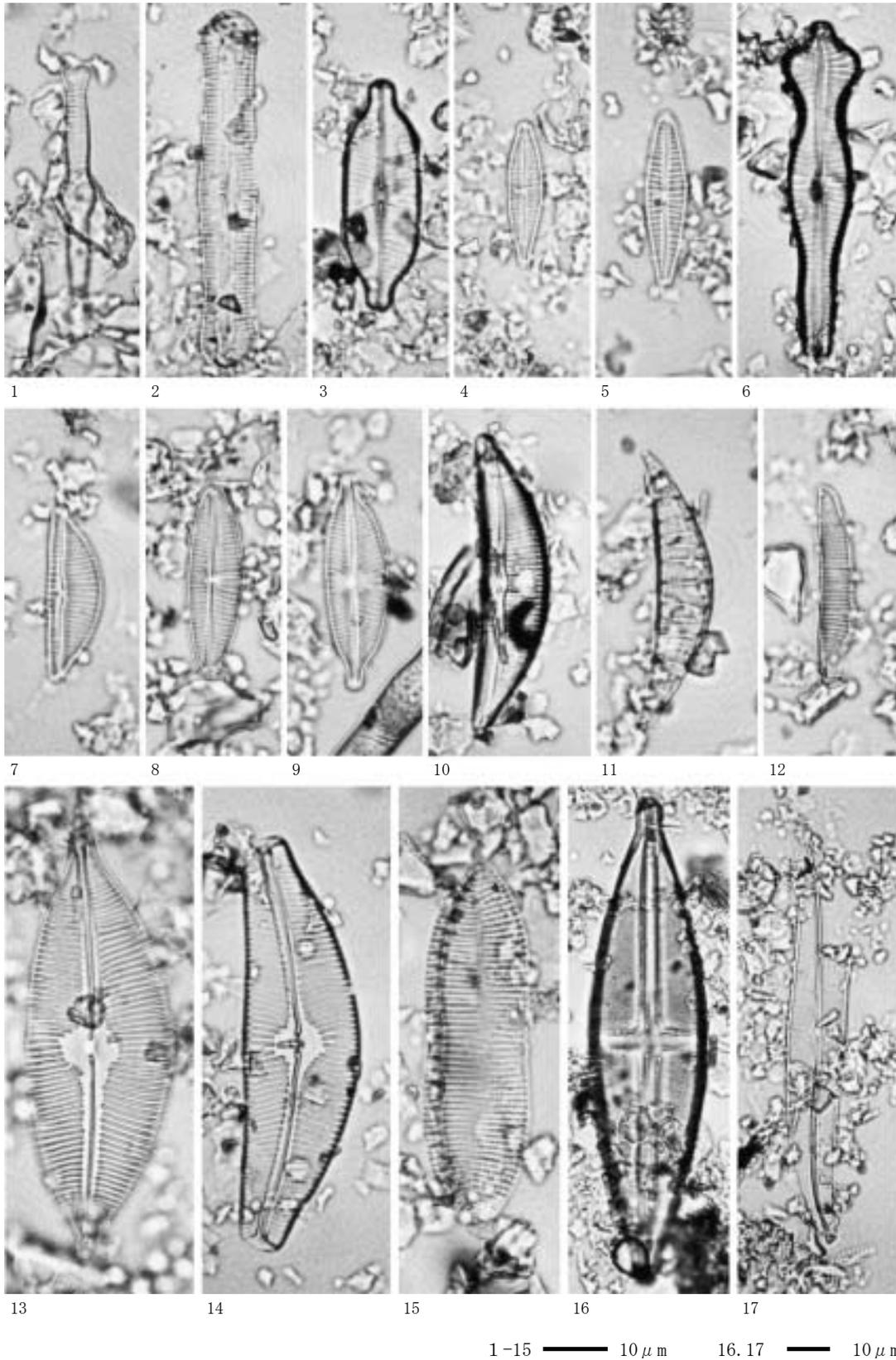
3. 調査地内出土製鉄・鍛冶関連遺物(2)



4. SD12出土銅鏃

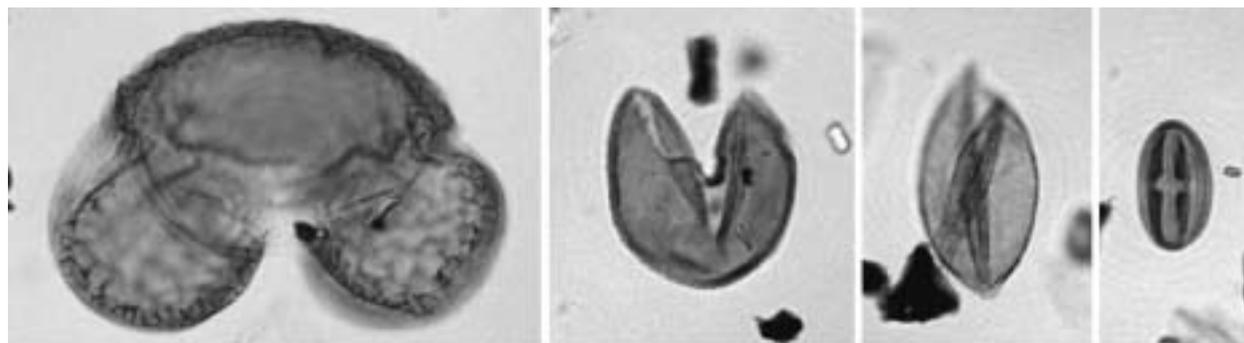


5. 調査地内出土銭貨



1. *Fragilaria construens* 2. *Fragilaria construens* v. *venter* 3. *Achnanthes brevipes* 4. *Navicula pupula*
 5. *Navicula elginensis* 6. *Stauroneis phoenicenteron* 7. *Gyrosigma* sp. 8. *Caloneis silicula* 9. *Pinnularia viridis*
 10. *Pinnularia gibba* 11. *Pinnularia gibberula* 12. *Pinnularia* sp. 13. *Pinnularia* sp. 14. *Pinnularia* sp. 15. *Pinnularia* sp.
 16. *Pinnularia* sp. 17. *Pinnularia* sp. 18. *Pinnularia* sp.

2区基本層序における珪藻化石

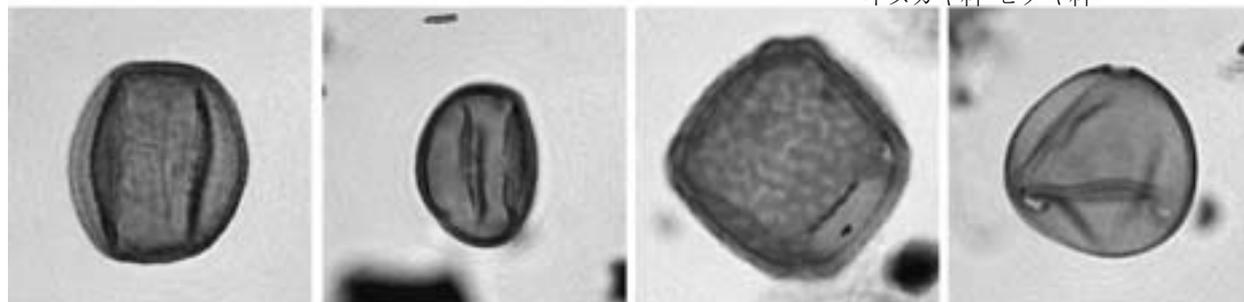


1 マツ属複維管束胚属

2 スギ

3 イチイ科-
イヌガヤ科-ヒノキ科

4 シイ属

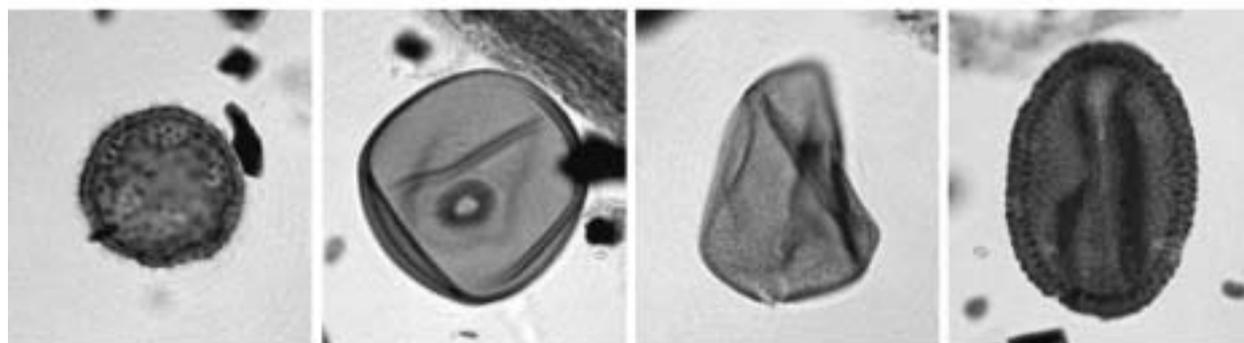


5 コナラ属コナラ胚属

6 コナラ属アカガシ胚属

7 ニレ属-ケヤキ

8 エノキ属-ムクノキ

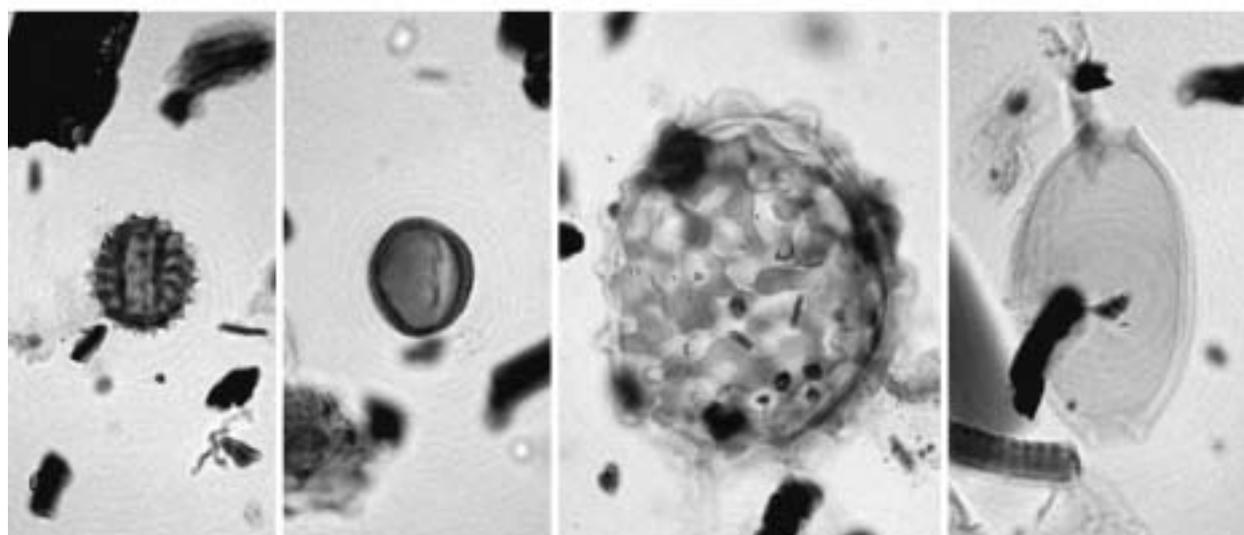


9 オモダカ属

10 イネ属型

11 カヤツリグサ科

12 ソバ属



13 キク胚科

14 ヨモギ属

15 回虫卵

16 鞭虫卵

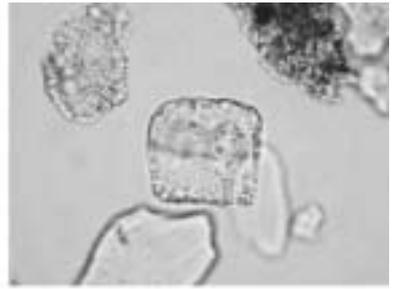
— 10 μm



イネ
1トレンチ 4



イネ
2トレンチ 6



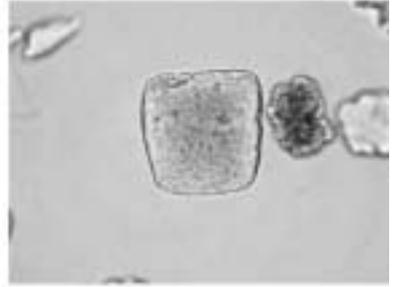
イネ(側面)
1トレンチ 4



キビ族型
2トレンチ 1



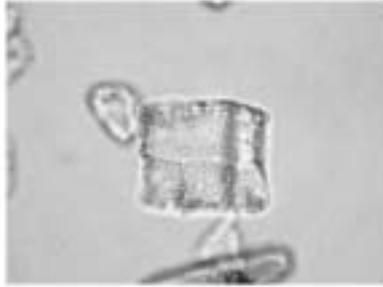
ヨシ属
2トレンチ 2



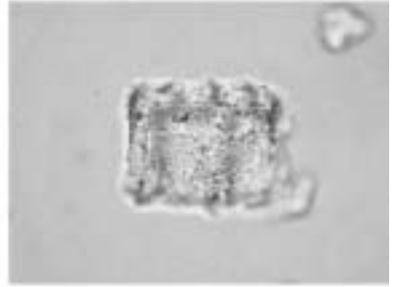
ウシクサ族A
2トレンチ 1



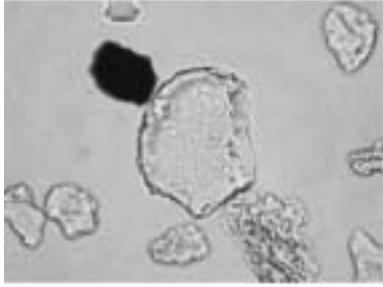
メダケ節型
2トレンチ 5



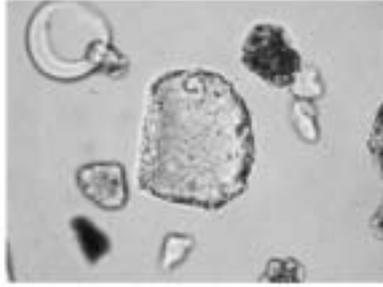
ネザサ節型
1トレンチ 2



ネザサ節型
1トレンチ 4



チマキザサ節型
1トレンチ 6



チマキザサ節型
2トレンチ 6



ミヤコザサ節型
2トレンチ 1



表皮毛起源
2トレンチ 8



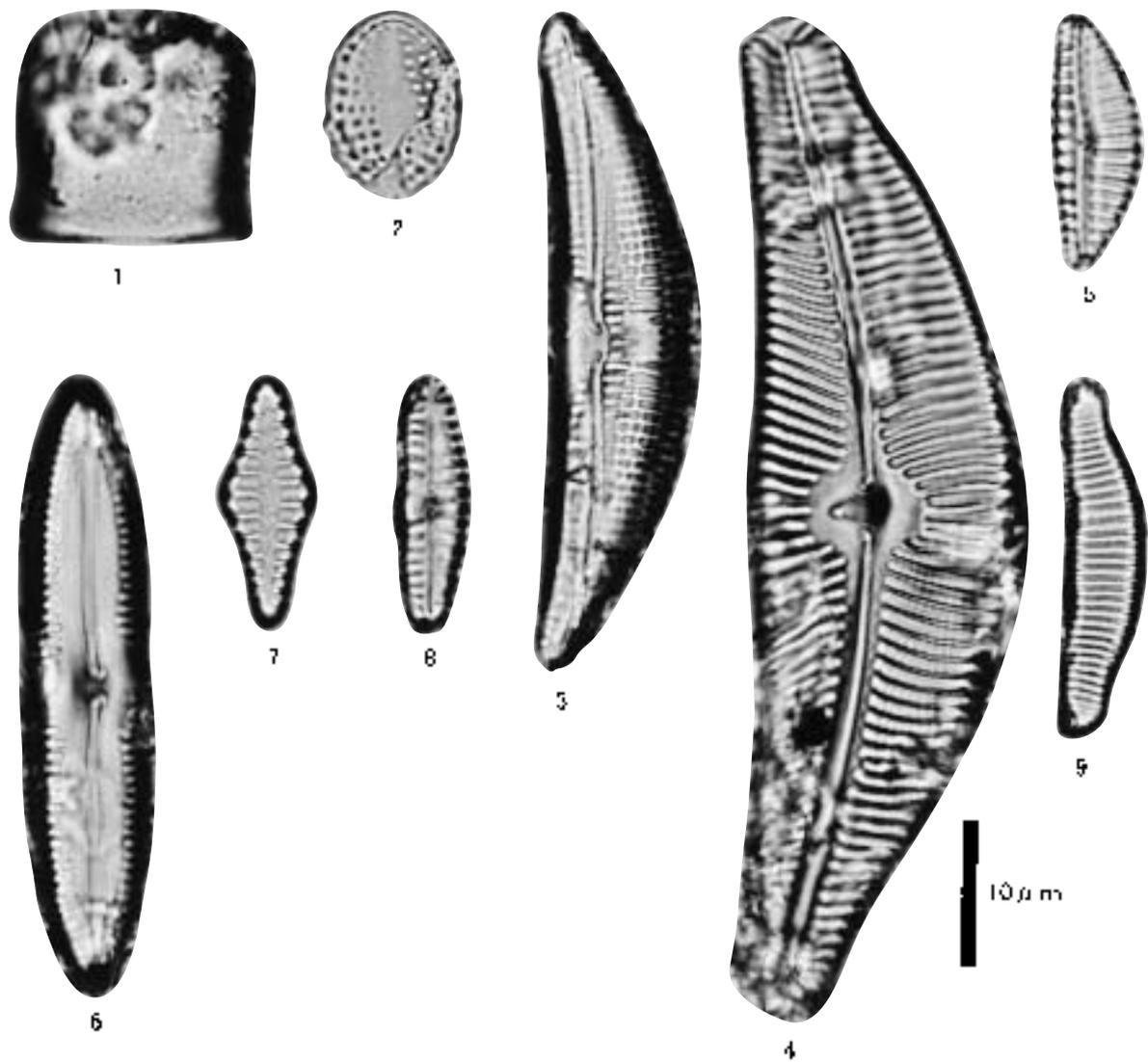
棒状珩酸体
2トレンチ 8



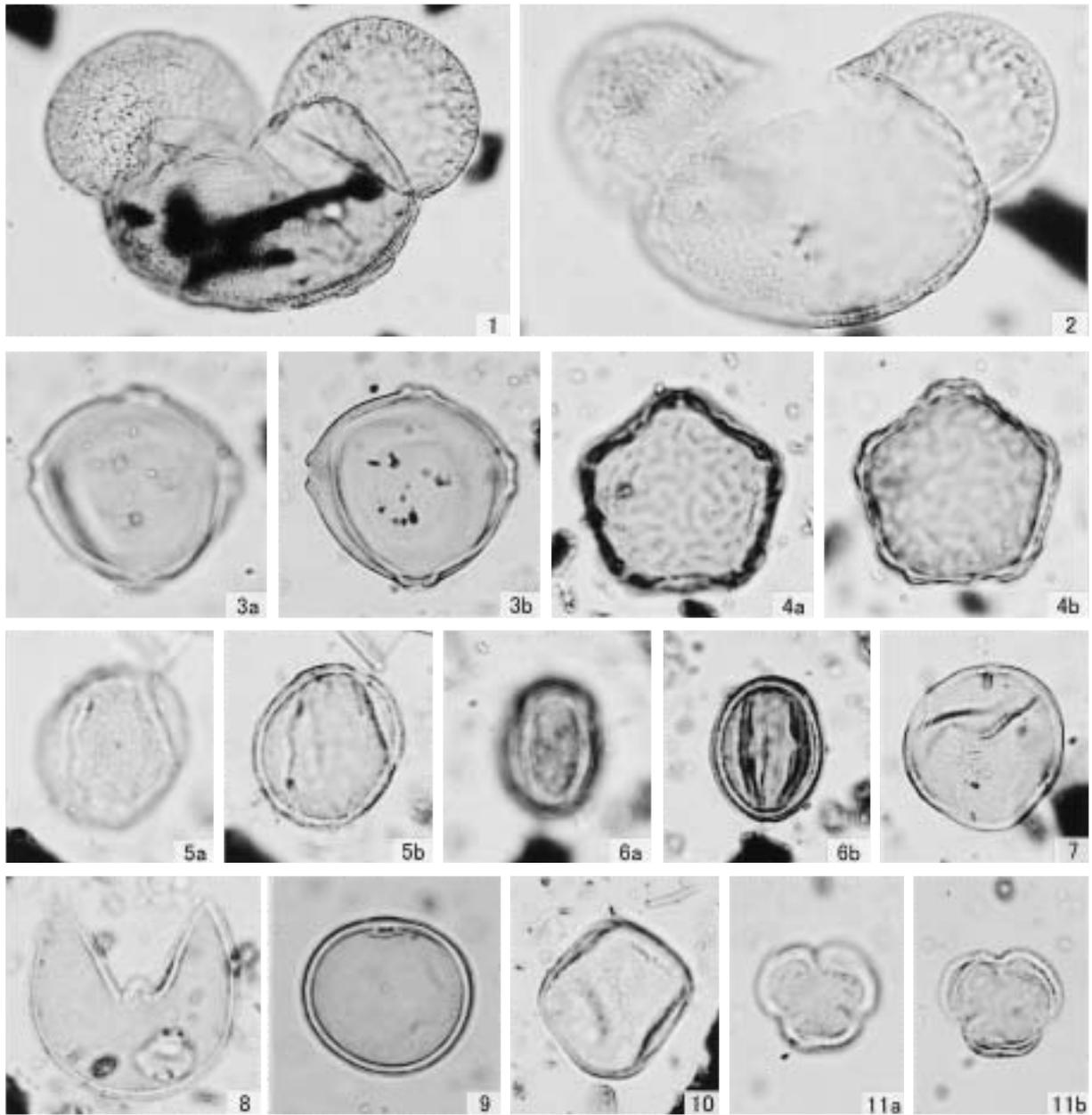
モクレン属?
2トレンチ 9

50 μm

2区基本層序における植物珩酸体

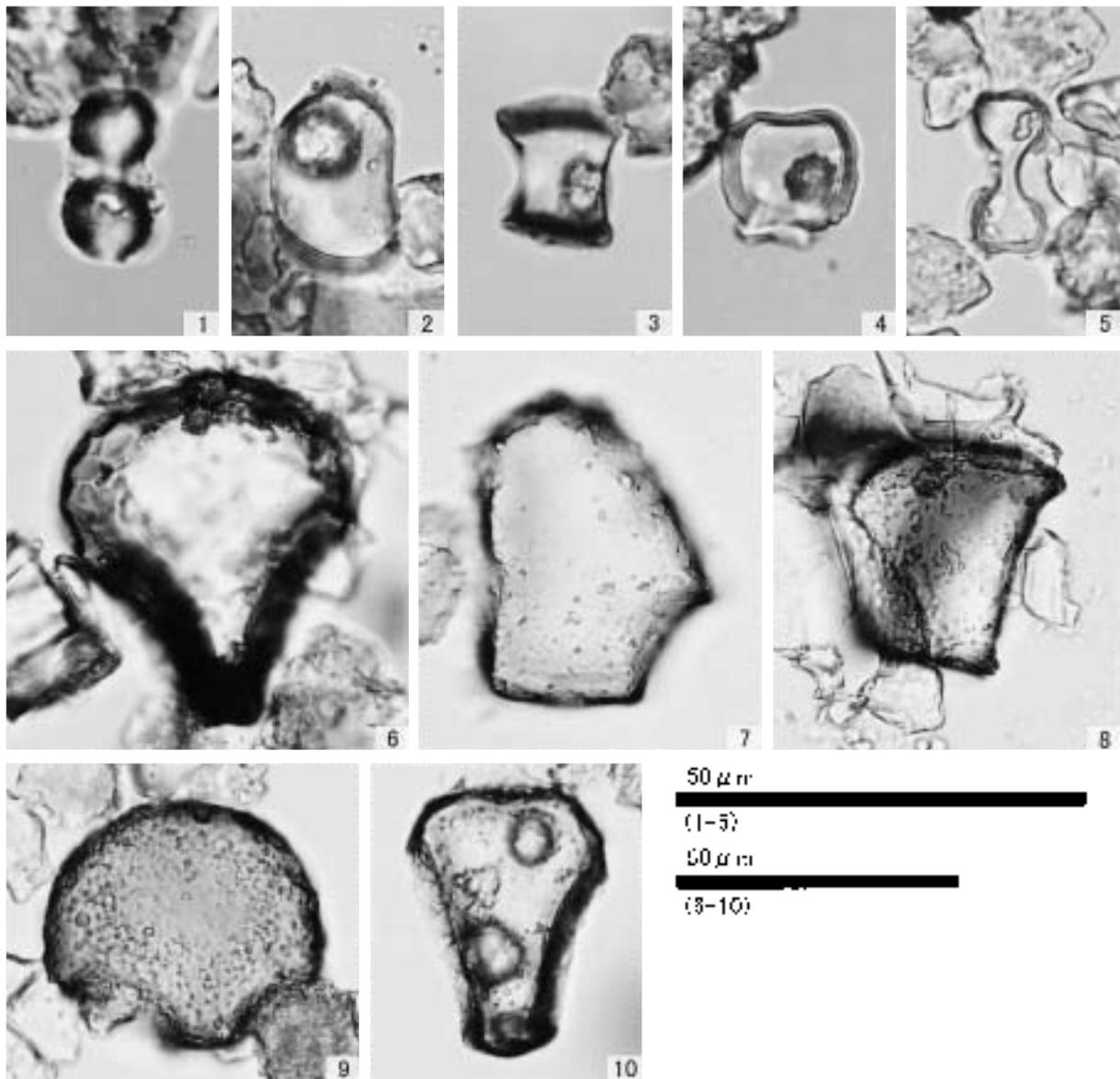


1. *Melosira varians* Agardh(SD14)
2. *Cocconeis neodimuta* Krammer(SD14)
3. *Aniphora papillata* (Kuetz.)Schoeman et. R.E.M.Archibald(SD12)
4. *Gymbella tumida* (Breb. Ex Kuetz.)V. Heurck(SD14)
5. *Encyonema silasticum* (P. Fisch.)D.G.Mann(SD17)
6. *Finnularia schroederi* (Fust.)Krammer(SD14)
7. *Punctastriata linearis* D.M.Williams et Round(SD14)
8. *Hemema sinuata* (N.Greg.)Kocielek et Stoermer(SD12)
9. *Eumotha minor* (Kuetz.)Grunow (SD14)

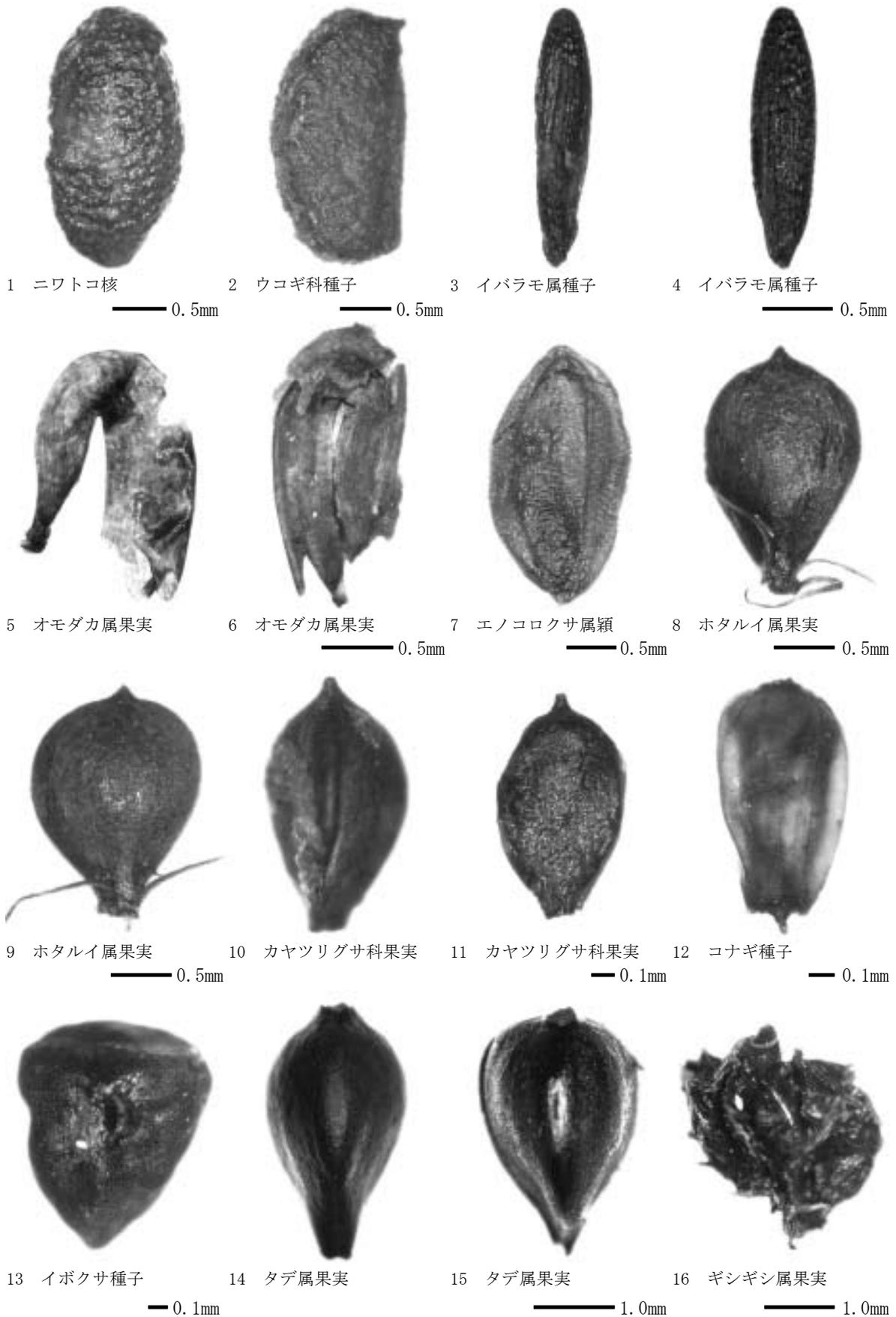


50 μm (1) 50 μm (2-11)

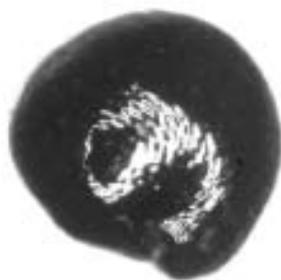
- | | |
|---------------------|---------------------|
| 1. モミ属(SD17) | 7. マツ属(SD12) |
| 3. クマシデ属-アサダ属(SD14) | 4. ニレ属-ケヤキ属(SD14) |
| 5. コナラ属コナラ亜属(SD12) | 6. コナラ属アカガシ亜属(SD14) |
| 7. エノキ属-ムクノキ属(SD14) | 8. スギ属(SD12) |
| 9. イネ科(SD12) | 10. カヤツリグサ科(SD17) |
| 11. ヨモギ属(SD12) | |



- | | |
|-----------------------|------------------------|
| 1. イネ属短細胞珪酸体(SD12) | 2. クマザサ属短細胞珪酸体(SD12) |
| 3. ネザサ属短細胞珪酸体(SD12) | 4. ヨシ属短細胞珪酸体(SD12) |
| 5. ススキ属短細胞珪酸体(SD12) | 6. イネ属機動細胞珪酸体(SD12) |
| 7. クマザサ属機動細胞珪酸体(SD12) | 8. ネザサ属機動細胞珪酸体(SD12) |
| 9. ヨシ属機動細胞珪酸体(SD12) | 10. ウシクサ属機動細胞珪酸体(SD12) |



2区検出種実(1)



17 アカザ属種子
— 0.5mm



18 ナadeshiko科種子



19 ナadeshiko科種子
— 0.1mm



20 チドメグサ属果実
— 0.5mm



21 チドメグサ属果実
— 0.1mm



22 シソ属果実 (破片)
— 0.5mm



23 メナモミ果実



24 メナモミ果実
— 0.5mm



25 タカサブロウ果実
— 0.5mm



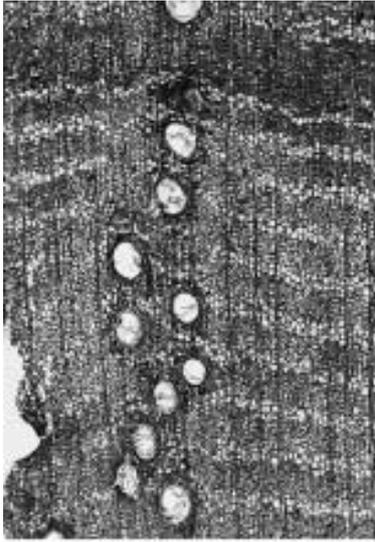
26 シャジクモ属卵胞子



27 シャジクモ属卵胞子



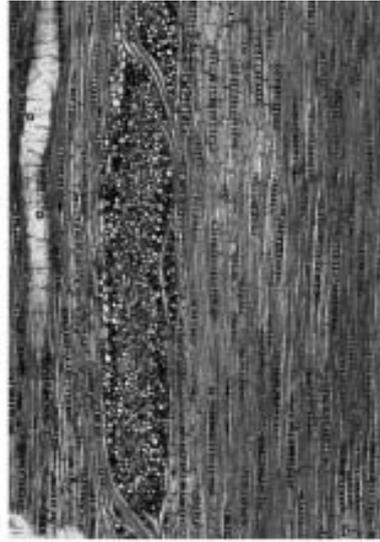
28 シャジクモ属卵胞子
— 0.1mm



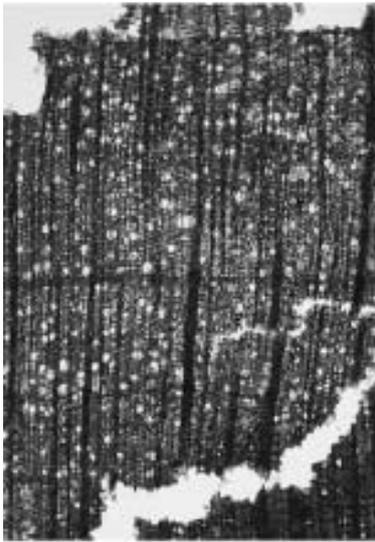
常緑カシ類 写真1-①



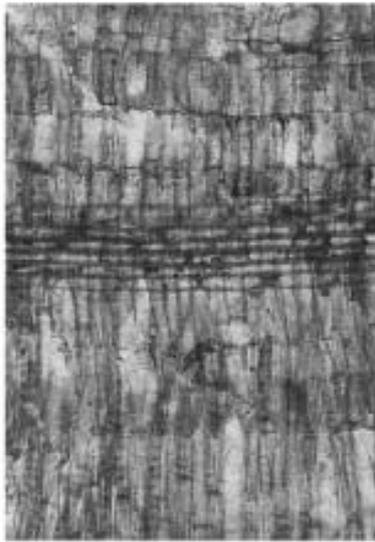
常緑カシ類 写真1-②



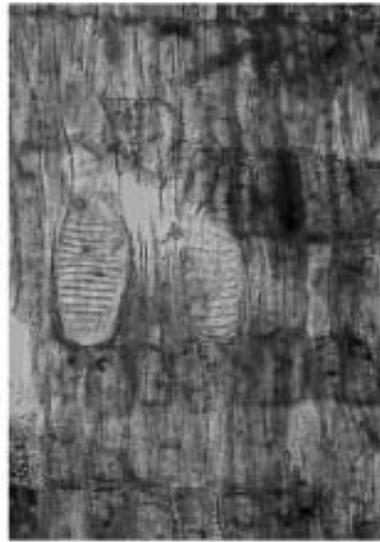
常緑カシ類 写真1-③



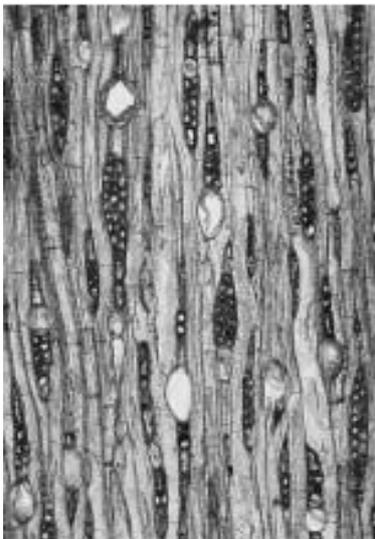
ヤブツバキ 写真2-①



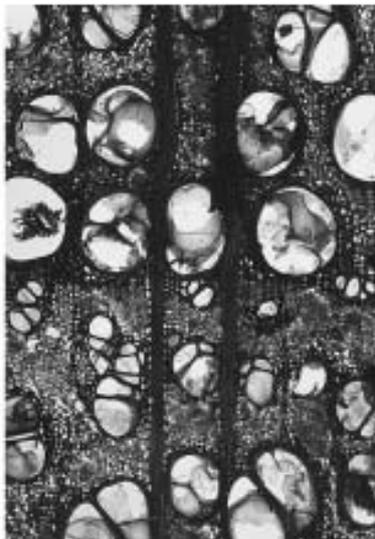
ヤブツバキ 写真2-②



ヤブツバキ 写真2-③



ヤブツバキ 写真2-④



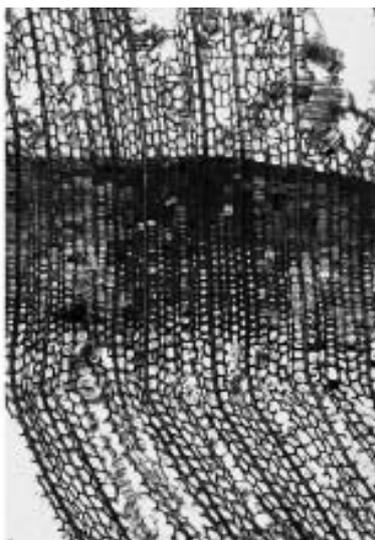
ヤマグワ 写真3-①



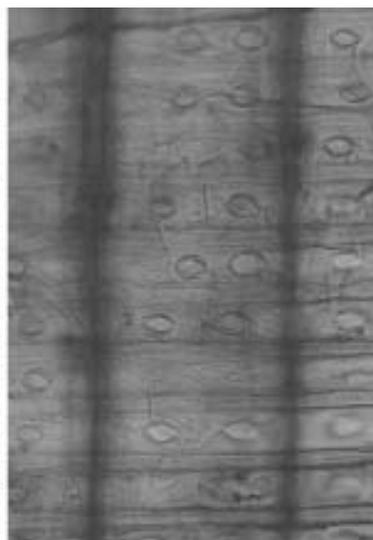
ヤマグワ 写真3-②



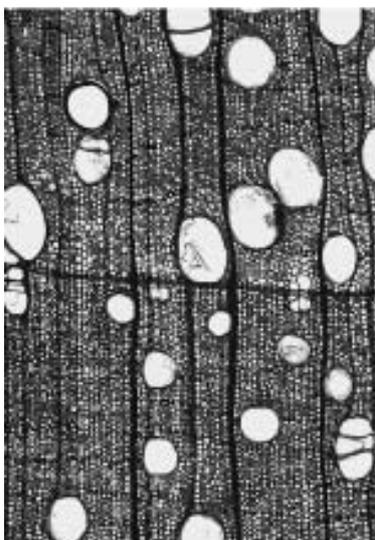
ヤマグイ 写真3-③



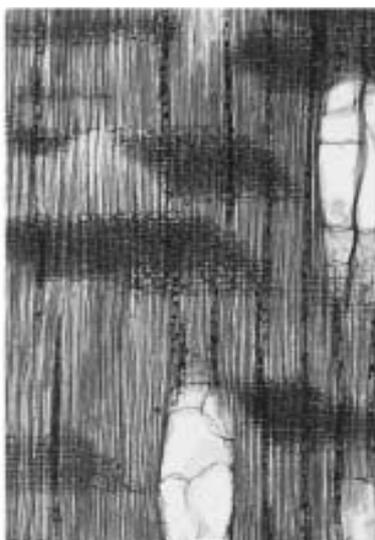
スギ 写真4-①



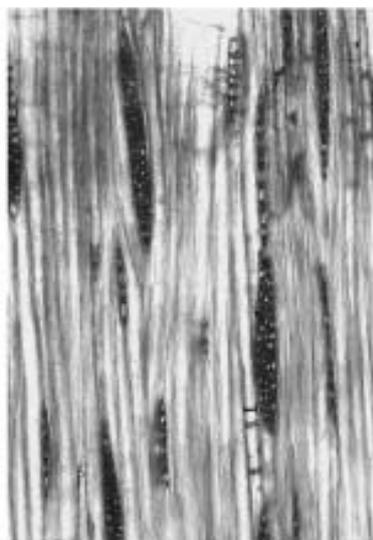
スギ 写真4-②



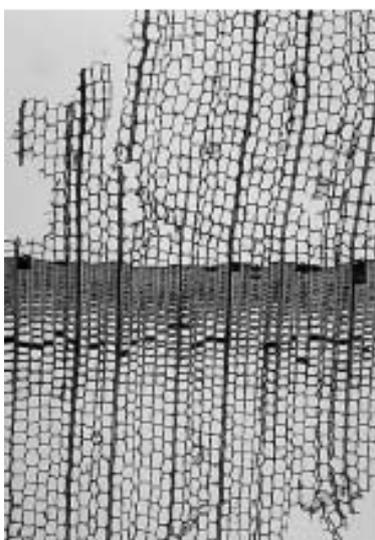
オニグルミ 写真5-①



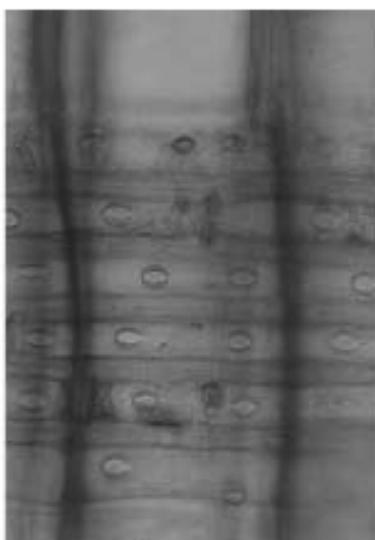
オニグルミ 写真5-②



オニグルミ 写真5-③



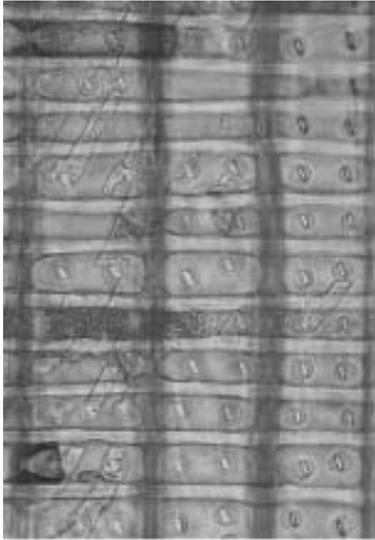
スギ 写真6-①



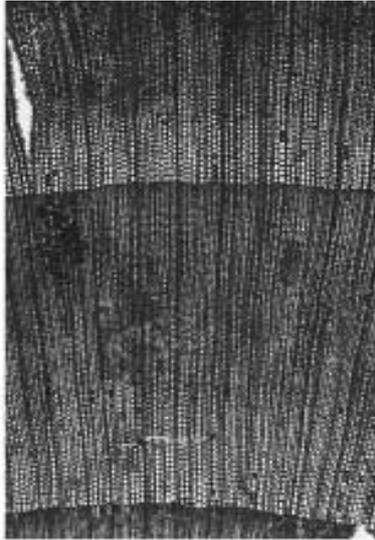
スギ 写真6-②



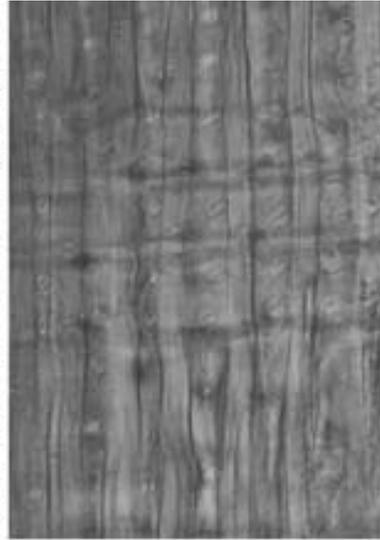
ヒノキ 写真7-①



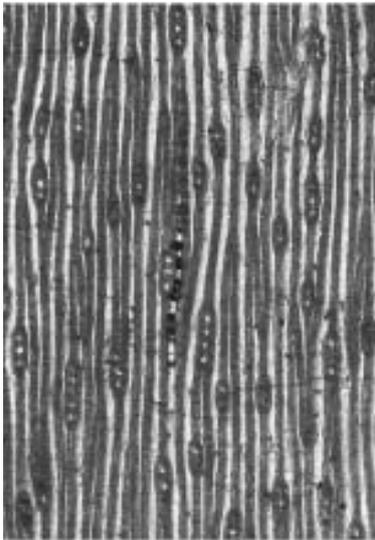
ヒノキ 写真7-②



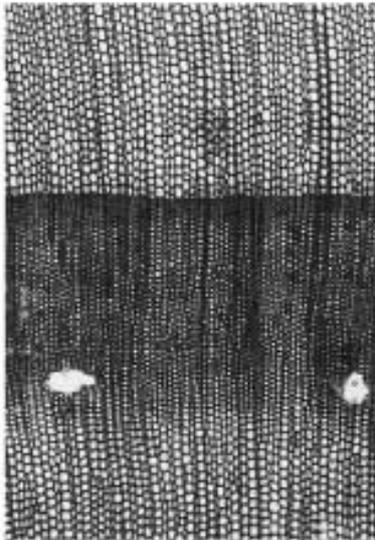
イヌマキ 写真8-①



イヌマキ 写真8-②



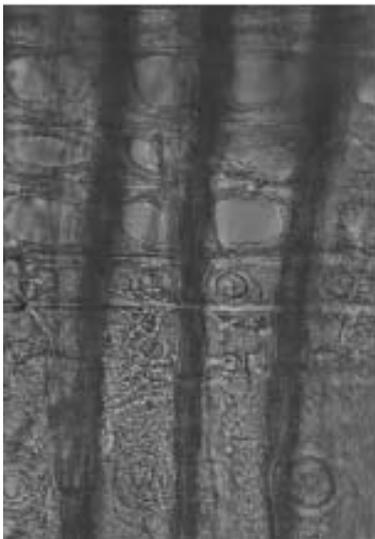
イヌマキ 写真8-③



アカマツ 写真9-①



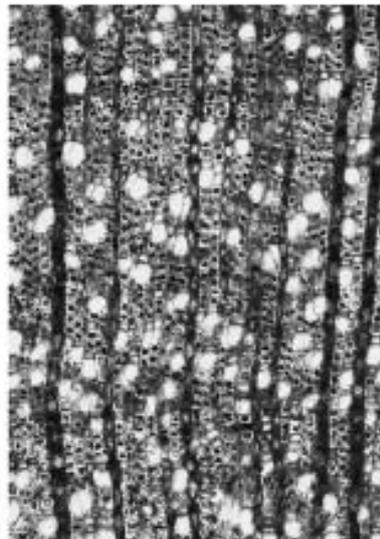
アカマツ 写真9-②



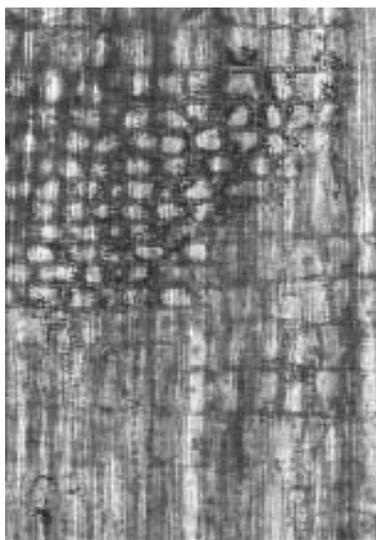
アカマツ 写真9-③



アカマツ 写真9-④



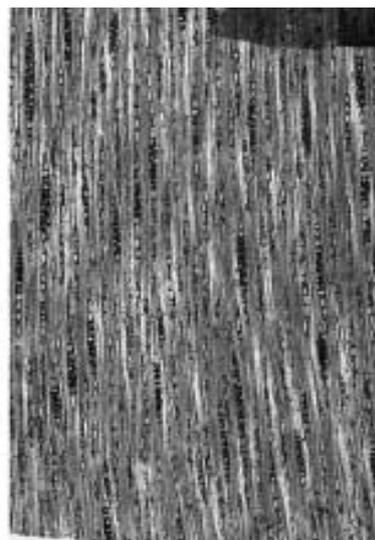
サカキ 写真10-①



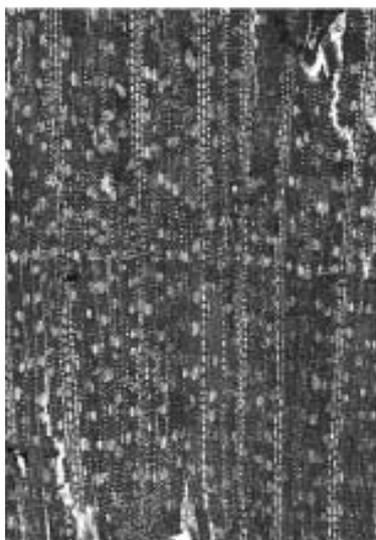
サカキ 写真10-②



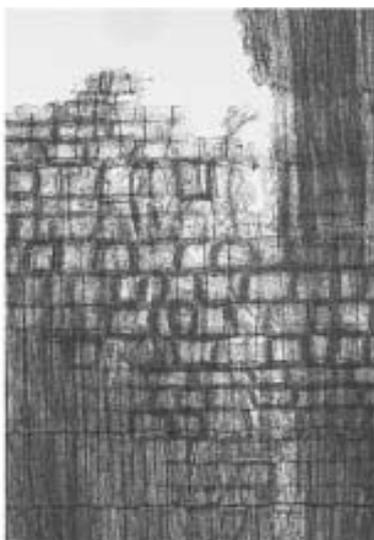
サカキ 写真10-③



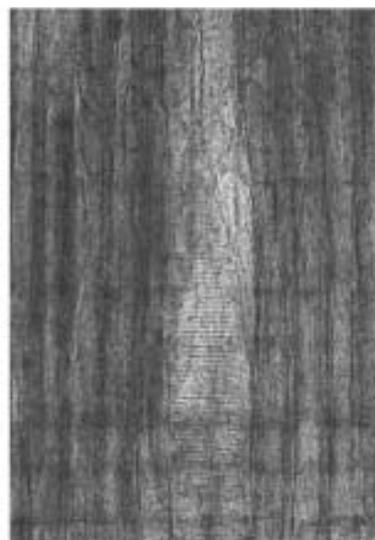
サカキ 写真10-④



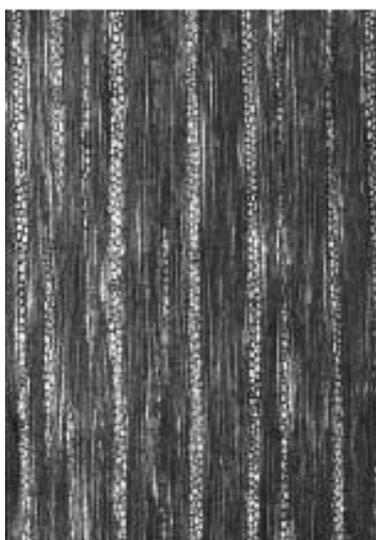
ウツギ属 写真11-①



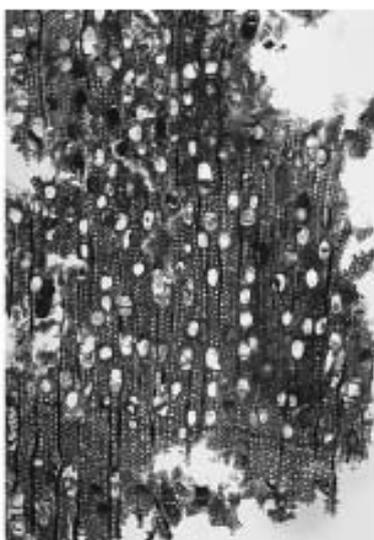
ウツギ属 写真11-②



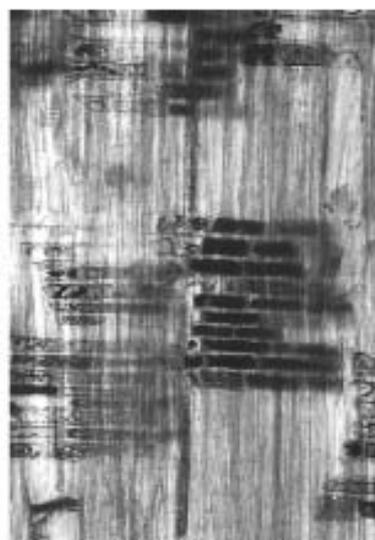
ウツギ属 写真11-③



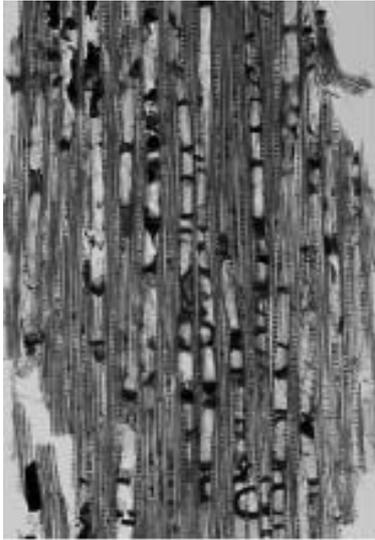
ウツギ属 写真11-④



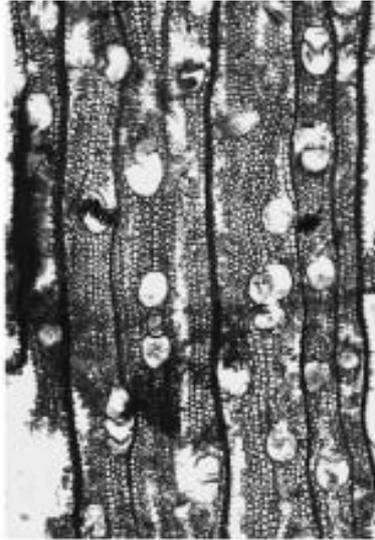
トチノキ 写真12-①



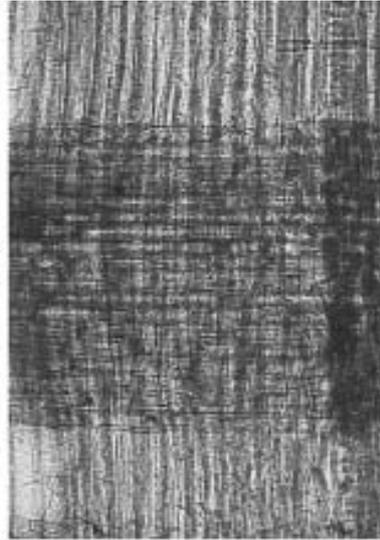
トチノキ 写真12-②



トチノキ 写真12-③



タブノキ 写真13-①



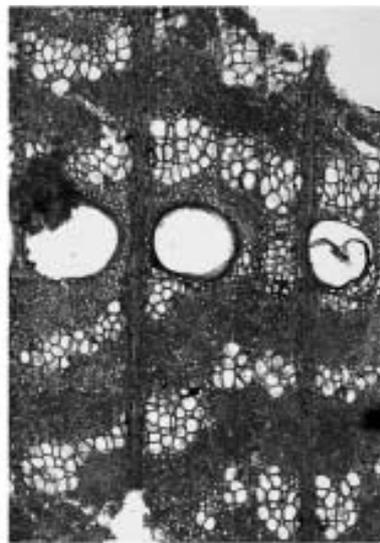
タブノキ 写真13-②



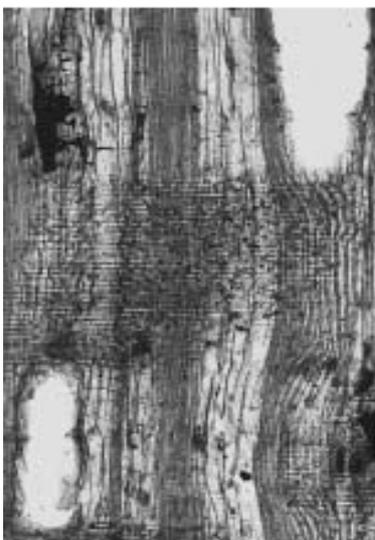
タブノキ 写真13-③



タブノキ 写真13-④



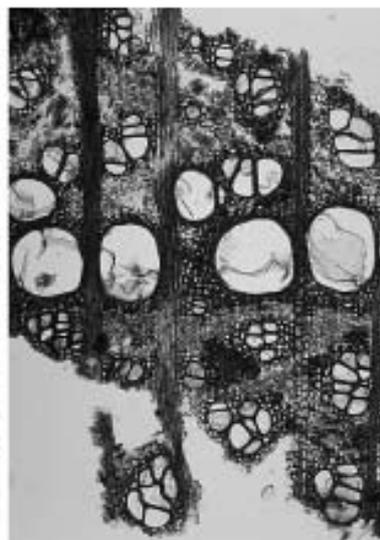
ケヤキ 写真14-①



ケヤキ 写真14-②



ケヤキ 写真14-③



ヤマグワ 写真15-①



ヤマグワ 写真15-②

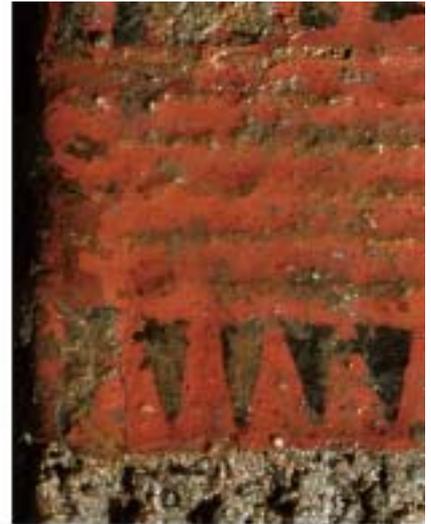


ヤマグワ 写真15-③



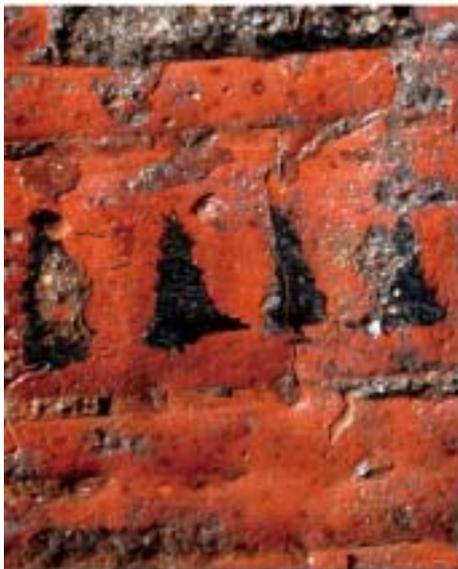
1. 朱漆塗豎櫛

1×



2. 細部

3×



3. 細部

5×



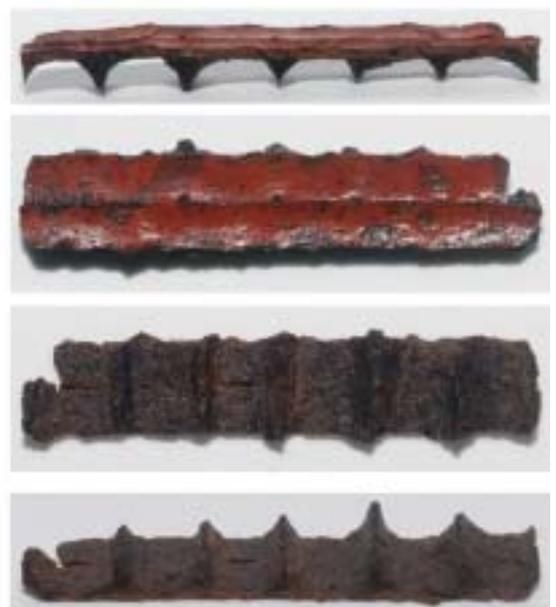
4. 細部

5×



5. 細部

5×



6~9. (上から)調査用漆試料

3×



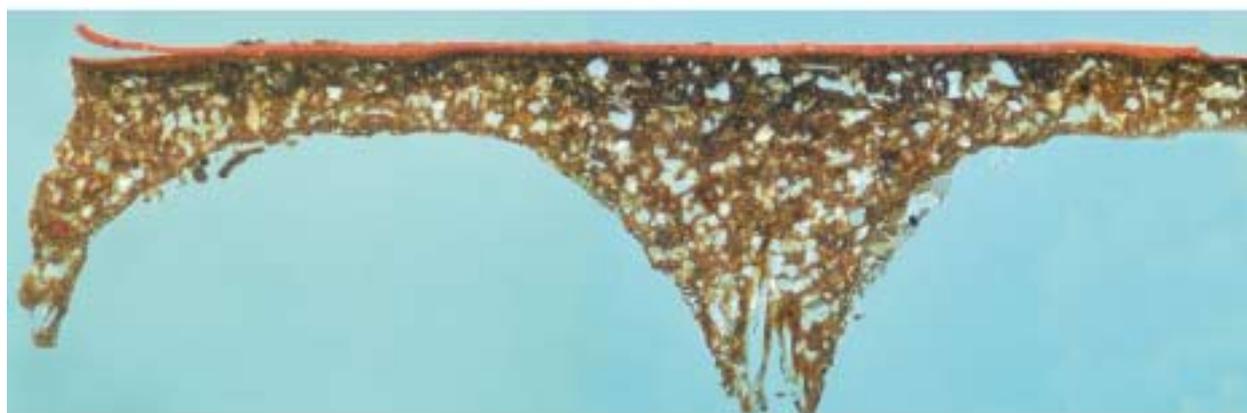
1. 細部(漆試料) 10×



2. 細部(漆試料) 15×



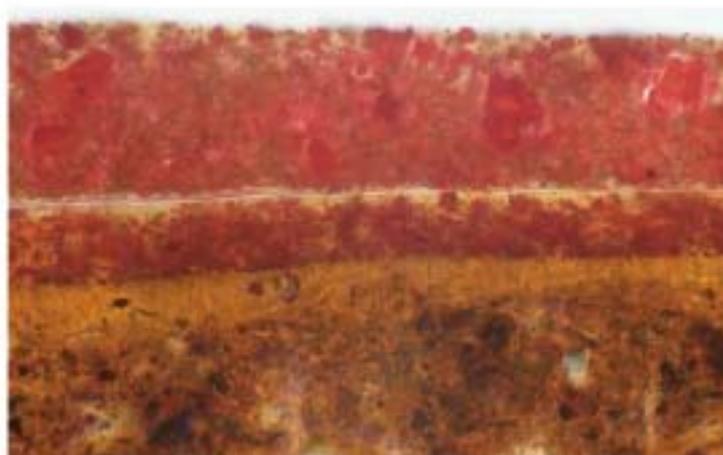
3. 細部(漆試料) 60×



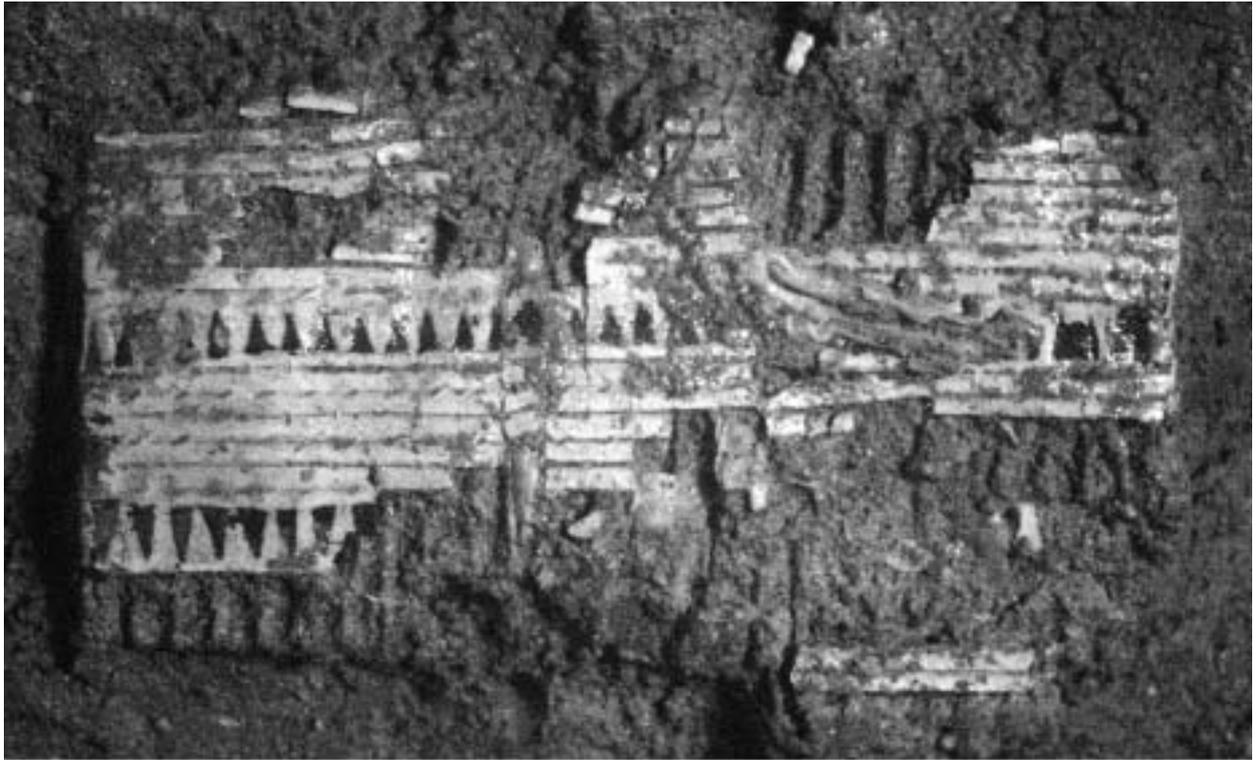
4 (上)、5 (下). 漆層断面 30×



6. 漆層断面 300×

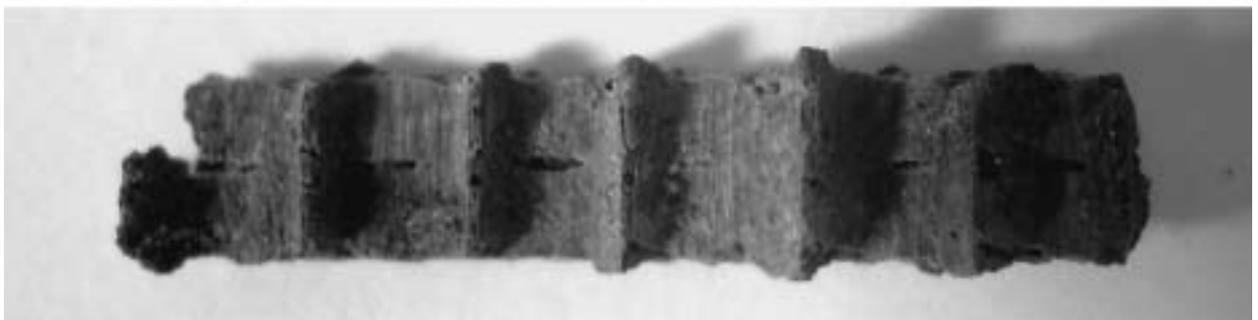
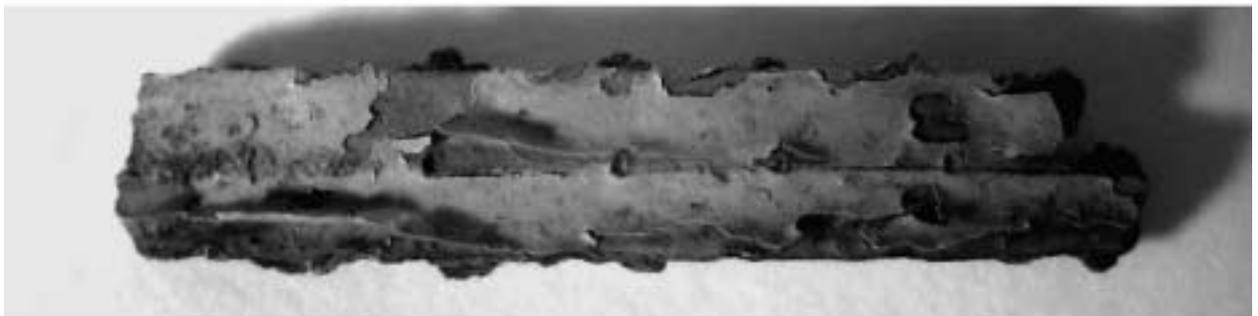
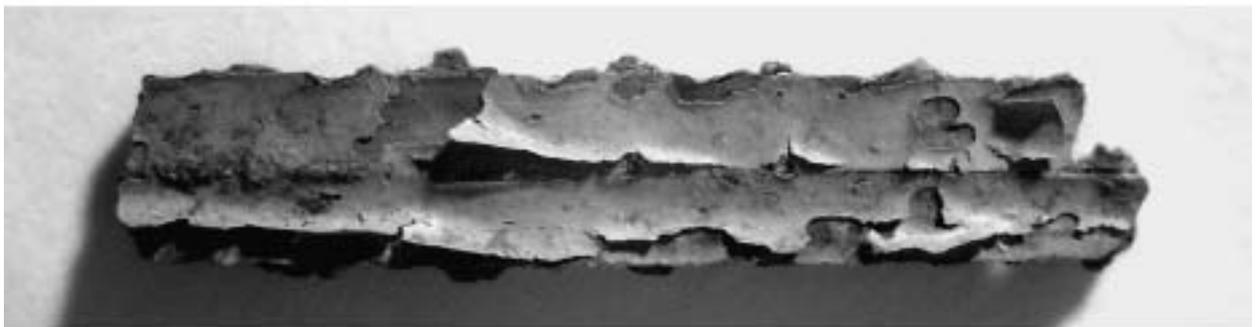


7. 漆層断面 750×



1. 朱漆塗豎櫛 赤外画像

1.5×



2~4. (上から)調査用漆試料 赤外画像

6×



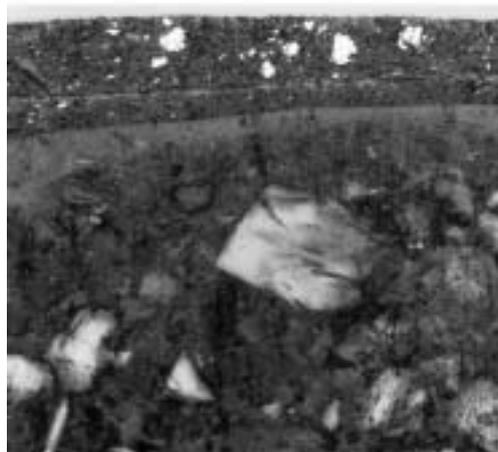
1. 漆試料 裏面細部



2. 漆試料 裏面細部

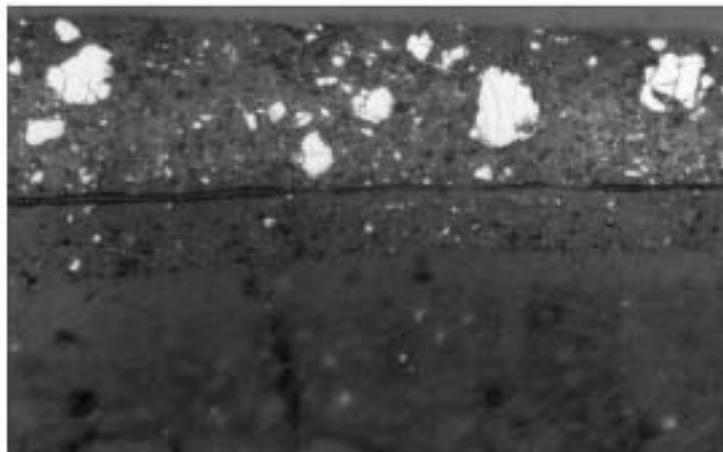
8×

30×



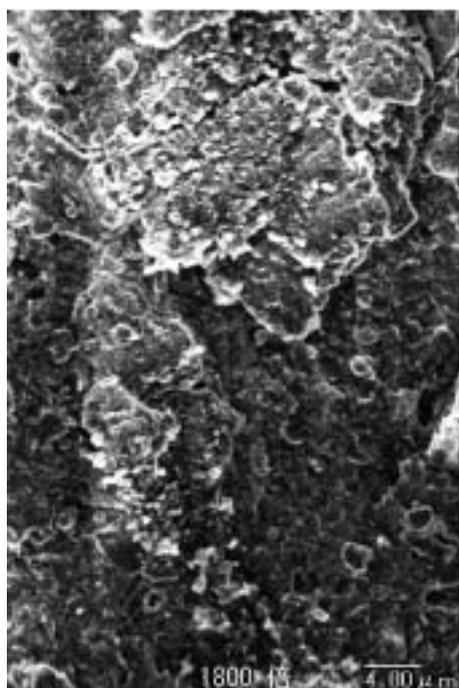
3. 漆層断面

300×

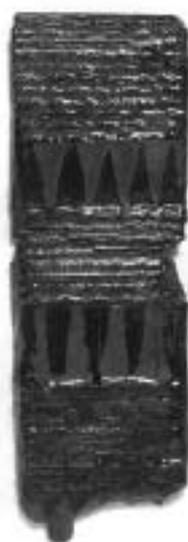


4. 漆層断面

750×



5. 漆試料 朱漆表面電顕像 1800×



6. (左・1×)、7(右・3×) 朱漆塗豎櫛(タテチヨウ遺跡)



報告書抄録

ふりがな	さかちょうだいなないせき							
書名	坂長第7遺跡							
副書名	一般国道181号(岸本バイパス)道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次	Ⅲ							
シリーズ名	鳥取県教育文化財団調査報告書							
シリーズ番号	112							
編著者名	加藤裕一 河合章行 高橋章司 坂本嘉和 西川 徹							
編集機関	財団法人鳥取県教育文化財団調査室							
所在地	〒680-0151 鳥取県鳥取市国府町宮下1260 TEL(0857) 27-6717							
発行年月日	西暦2009年3月23日							
所収遺跡	所在地	コード		北緯 °'〃	東経 °'〃	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
さかちょうだいなないせき 坂長第7遺跡	とっとりけんさいはくぐんほうきちょう 鳥取県西伯郡伯耆町 さかちょうあざおおしみず 坂長字大清水2260番他	31390	1-21	35°22'54"	133°23'31"	20060413 ～ 20061228	6,450㎡	一般国道181号(岸本バイパス)道路改良工事
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
坂長第7遺跡	集落	縄文時代 弥生時代 古代 中世 近世	溝状遺構、段状遺構、 掘立柱建物、土坑、 ピット		縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、瓦、 木器、石器、鉄関連遺物		溝状遺構 漆塗り堅櫛 刻書土器	

鳥取県教育文化財団調査報告書112

一般国道181号(岸本バイパス)道路改良工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ

鳥取県西伯郡伯耆町

坂長第7遺跡

発行 2009年3月23日
編集 財団法人鳥取県教育文化財団 調査室
〒680-0151 鳥取市国府町宮下1260番地
電話 (0857) 27-6717
発行者 財団法人 鳥取県教育文化財団
印刷 有限会社米子プリント社